



沖縄県薬剤師会報

No.323. 2024(令和6年) 6・7月号



沖縄県薬剤師会

／目／次／

薬剤師綱領		(1)
トピックス	文部科学大臣への要請活動..... 阿部 義則	(2)
薬学部創設	要請書「琉球大学への薬学部設置について」	(4)
転 載 記 事	琉大薬学部設置 薬剤師会が要請、琉大薬学部設置 沖縄相に要請書.....	(8)
	沖縄初「薬学部」へ、自見担当相に支援要請.....	(9)
	琉大に薬学部設置支援要請、「琉大に薬学部を」県薬剤師会が県に要請	(10)
	「沖縄に薬学部を」盛山文科相に要請書	(11)
表 彰	令和 6 年度那覇市政功労者表彰（山里美恵子先生）	平安山 丈継 (13)
	沖縄県薬剤師会職員永年勤続表彰.....	(13)
第90回 総 会	第90回定時総会会長演述..... 前濱 朋子	(14)
	第90回定時総会次第.....	(15)
	第90回定時総会報告..... 大城 喜仁・玉寄 博之・川平 真央	(17)
第90回総会資料	令和5年度会員・薬局等の業態現況報告、令和5年度事業経過報告、試験検査センター事業報告 薬事情報センター事業報告・その他議題資料.....	(27)
第90回総会懇親会	第90回定時総会懇親会報告..... 川平 真央	(53)
女性薬部会	令和 5 年度第 2 回漢方講座参加報告..... 猪俣 イソ	(54)
災 害 対 策	災害時における薬剤師の役割（その 1）	知念 大輔 (56)
実 務 実 習	第88回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ） in九州・宮崎 参加報告..... 運天 芳生	(57)
その他会務報告	沖縄戦殉職医療人之碑へ慰霊..... 大城 喜仁	(58)
D I	薬事情報おきなわNo. 280..... 薬事情報センター	(59)
試験センター	試験検査センターからのお知らせ.....	(75)
県民の皆様へ	あまくま役立つ情報.....	(76)
リレー随筆	ラーメン..... 池田 武俊	(77)
薬 草 学	身近な薬草を知ろう 第65回 月桂樹	狩俣 イソ (78)
薬連だより	令和 6 年度沖縄県薬剤師連盟定時評議員会..... 大城 喜仁・玉寄 博之・川平 真央	(80)
	オレンジ日記～「時節到来～来夏に向けて」「通常国会閉会」..... 本田 顕子	(82)
	政幸だより～「医薬品供給問題について厚生労働委員会で質問しました」「骨太の方針2024について」... 神谷 政幸	(84)
	沖縄県薬剤師連盟会務報告 令和 6 年 5 月～ 6 月分.....	(85)
転 載 記 事	論壇「深刻化する麻薬乱用～薬物きっぱり断る勇気を」	前濱 朋子 (86)
	県と昭和薬科大が協定「薬剤師確保で連携」「薬剤師の育成～連携協定」「沖縄で地方入試へ」 ...	(87)
会 務 報 告	令和 6 年 5 月～ 6 月分.....	(89)

・ 表 紙

題字：豊平峰雲

「本部町の隠れ家ビーチ」 photo by 宮本 直樹（ゆんたく薬局おもろまち店） 撮影地：本部町

会 員 作 品	誌上ギャラリー（裏表紙）について……………	(94)
編 集 後 記	……………	(94)
お 知 ら せ	沖縄県薬剤師会Facebookをご覧ください！……………	(12)
	第37回沖縄県薬剤師会学術大会の演題募集について……………	(73)
	沖縄県薬剤師連盟Facebookをご覧ください！……………	(82)
	沖縄県薬剤師連盟のSNSアカウントを開設いたしました！……………	(83)
	保険薬局におけるBCP（業務継続計画）の策定について…………… 災害対策委員会	(88)
	会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について……………	(91)
	沖縄県奨学金返還助成制度（令和6年度対象者募集）……………	(92)
	入会促進キャンペーン（沖縄県病院薬剤師会40才以下の会員へ）……………	(93)
	会報原稿募集のご案内…………… 広報委員会	(95)

薬剤師綱領

一薬剤師は国から付託された資格に基き、
医薬品の製造、調剤、供給において、その固有
の任務を遂行することにより、医薬水準の向
上に資することを本領とする

一薬剤師は広く薬事衛生をつかさどる専門職
としてその職能を発揮し、国民の健康増進に
寄与する社会的責務を担う

一薬剤師はその業務が人の生命健康にかかわる
ことに深く思いを致し、絶えず薬学、医学の
成果を吸収して、人類の福祉に貢献するよう
努める。

日本薬剤師会

日本薬剤師会 昭和48年10月10日制定

会員 太田節子書

トピックス

文部科学大臣等への要請活動

薬学部創設

沖縄県薬剤師会単独での要請

沖縄県が県内国公立大学に対し薬学部設置構想を募集した時期に合わせて、昨年11月15日から16日にかけて、前濱会長は、県関係国会議員5氏、薬連関係国会議員2氏を訪問し、「県内の平均所得が低いことや島嶼県であることにより薬剤師になることを諦めていた子弟のため、また、医学、看護、病院と一体的な教育が出来る琉球大学を第一と考え、琉球大学への薬学部設置を希望し、その実現のための諸課題解決のための支援」を要請し、各議員から貴重な助言を頂いた。中でも、「文部科学省への要請には、薬剤師不足だけではなく、創薬を絡めた地元経済界からの要請も重要」との助言は、その後の県のシンポジウムや国への要請活動に反映されている。

要請状況は、以下のとおり。

令和5年11月15日

- ・比嘉奈津美参議院議員
於：参議院議員会館執務室
- ・島尻安伊子衆議院議員
於：衆議院第一議員会館執務室
- ・西銘恒三郎衆議院議員
於：衆議院第二議員会館執務室
- ・国場幸之助衆議院議員
於：国土交通省副大臣室

令和5年11月16日

- ・本田顕子参議院議員
於：参議院議員会館執務室
- ・神谷政幸参議院議員
於：参議院議員会館執務室
- ・宮崎政久衆議院議員
於：厚生労働省副大臣室

※ 国場国土交通副大臣、本田文部科学大臣政務官、宮崎厚生労働副大臣への要請の際には、国土交通大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣宛の要請も各氏に託した。

比嘉奈津美
参議院議員
(右)



島尻安伊子
衆議院議員
(右)



西銘恒三郎
衆議院議員
(中央右)



國場幸之助
衆議院議員
(中央後)



本田顕子
参議院議員
(中央)



神谷政幸
参議院議員
(中央右)



宮崎政久
衆議院議員
(中央左)



沖縄県薬業団体としての要請

沖縄県の県内国公立大学薬学部設置構想募集には応募は無かったが琉球大学のみが薬学部設置の可能性について協議を続ける意向を示したことから、令和6年5月、沖縄県と琉球大学が薬学部設置の可能性について第1回目の意見交換会を開催、同年6月、県医師会長、県商工会議所連合会会長、琉球大学学長、前濱会長の4者で薬学部設置について意見交換を開催し、琉球大学への薬学部設置について、当初から指摘されていた諸課題が再認識され、国への要請を行うこととしたが国の次年度予算編成時期に間に合わすため、要請までの期間が短かったことから、医療界、経済界総意の要請は見送られ、薬業団体のみで要請を行うこととした。

令和6年6月28日に自見英子沖縄及び北方対策担当大臣、同年7月5日には武見敬三厚生労働大臣、盛山正仁文部科学大臣あて要請書を手交し、意見交換を行った。

盛山大臣からは、「県と琉球大学とがしっかりと調整を進めること、その上で、創薬も含めた関係者が一丸となって、薬学部設置についてブラッシュアップすること」などの発言があり、自見大臣からは、「県と琉球大の協議がまとまったタイミングで、県と文部科学省の調整が始まる。議論の行方を見守っていきいたい」との発言、武見大臣からは、「学部設置に関しては文科の案件だが、琉球大学に薬学部を作ることは大賛成、創薬やアジア地域からの留学生受入などグローバルな薬学人材育成の拠点となるなど期待が持てる。」との発言があった。

要請の状況は、以下のとおり。

令和6年6月28日

・自見英子沖縄及び北方対策担当大臣

於：内閣府沖縄及び北方対策担当大臣室

令和6年7月5日

・武見敬三厚生労働大臣 於：厚生労働大臣室

・盛山正仁文部科学大臣 於：文部科学大臣室

自見大臣へ要請後の7月1日、県の池田竹州副知事を訪問し、県知事宛て、琉球大学への薬学部設置に関する諸課題解決と国への要請について協力の依頼を行った。

(報告：専務理事 阿部 義則)



自見英子沖縄及び北方対策担当大臣（中央右）へ要請



沖縄県知事（代理：池田竹州副知事(中央)）へ要請



武見敬三厚生労働大臣（中央右）へ要請



盛山正仁文部科学大臣（左から4人目）へ要請

要請書

琉球大学への薬学部設置について

沖縄県では、これまで薬剤師確保対策事業等を実施してもなお、人口10万人あたりの薬剤師数は全国最下位となっており、「健康サポート薬局」や「かかりつけ薬剤師・薬局」への対応など、県民が求めるニーズに応えることが困難な状況にあります。

第8次沖縄県医療計画では、高齢化により増大・多様化する医療需要への対応の一環として、在宅医療の充実を図る必要があるとし、医療提供体制を築く上で医師等の偏在解消、看護師の離職防止等とともに薬剤師確保をあげています。

また、沖縄県の1人当たり県民所得は全国平均を大きく下回り全国最下位となっている中、薬学部設置は、創薬研究者の輩出のみならず、創薬の基盤が根付くことにより、離島のハンデを克服する高付加価値の製品を生む医薬品関連産業の創出につながり、必ずや県経済の発展をもたらすと考えます。

こうした背景から、沖縄県は令和5年2月に「沖縄県内国公立大学薬学部設置に関する基本方針」を策定し、県内国公立大学から薬学部設置に係る構想を公募しましたが、残念ながら応募はありませんでした。

しかしながら、琉球大学は、薬学部設置の可能性を含めて対応方策を沖縄県と協議したいとの意向を示し、今年5月から協議を開始したところです。

琉球大学は、これまで薬学部設置には「国が原則として認めていない教員数及び学生数を増やす必要があること」や「建設費用や設置後に発生する運営費用を確保すること」等の課題を挙げております。

我々沖縄県の薬業団体としましては、県内の平均所得が低いことや島嶼県であることにより薬剤師になることを諦めていた子弟のため、また、医学、看護、病院と一体的な教育が出来ること、OISTと連携した創薬の拠点となる可能性が期待できることから琉球大学を第一と考え、琉球大学への薬学部設置を希望しております。

以上の内容について、下記の事項を盛山正仁文部科学大臣宛てに要請いたしますので、自見はなこ内閣府沖縄及び北方対策担当大臣におかれましては、格別のご支援を賜りますよう、我々沖縄県の薬業団体は一致して要請するとともに、沖縄県内の薬学部設置へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

記

- 1 薬学部設置における定員増を前提とした入学定員枠の確保
- 2 薬学部設置に関する運営費の確保
- 3 薬学部設置に関する建設費等の初期費用の確保



令和6年6月28日

内閣府
沖縄及び北方対策担当大臣
参議院議員

自見 はなこ 殿

要 請 書

一般社団法人 沖縄県薬剤師会
会長 前橋 順子

沖縄県医薬品卸業協会
会長 秋田 新一

一般社団法人 沖縄県医薬品登録販売者協会
会長 奥田 康行

沖縄県医薬品配置協議会
会長代理 前里 恵

令和6年7月1日

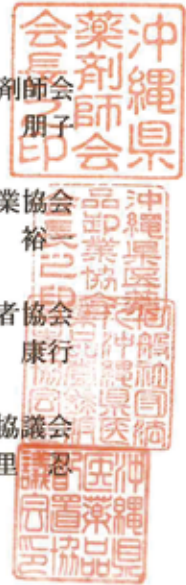
沖縄県知事
玉城 康裕 殿

一般社団法人 沖縄県薬剤師会
会長 前濱 朋子

沖縄県医薬品卸業協会
会長 秋信 裕

一般社団法人 沖縄県医薬品登録販売者協会
会長 親泊 康行

沖縄県医薬品配置協議会
会長代理 前里 忍



琉球大学への薬学部設置について（要請）

日頃から薬業界の使命である医薬品の安定供給並びにその担い手である人材の確保に関し格別の御理解と御支援を賜り感謝いたします。

我々薬業団体としましては、医薬品の安定供給において重要な役割を担う薬剤師が沖縄県で慢性的な不足状態にある事態に憂慮し、琉球大学への薬学部設置が薬剤師不足の根本的な解決策になると考え、令和6年6月28日、内閣府にて別添のとおり自見はなこ内閣府沖縄及び北方対策担当大臣あて琉球大学への薬学部設置に向けた諸課題解決への支援の要請を行ったところです。

貴殿におかれましても薬剤師不足の状況について御理解頂き、下記事項について我々薬業団体は一致して要請するとともに、国への要請につきましてもお力添えいただきますようお願い申し上げます。

記

- 1 薬学部設置に係る初期費用に対して財政的支援を実施すること
- 2 薬学部設置に関し、学部運営が軌道に乗るまでの運営費補助の実施とその財源を確保すること
- 3 文部科学省への学部設置申請手続きの際には、当該大学学長と連携し、学部設置に向けて全力で取り組むこと



要請書

琉球大学への薬学部設置について

沖縄県では、これまで薬剤師確保対策事業等を実施してもなお、人口10万人あたりの薬剤師数は全国最下位となっており、「健康サポート薬局」や「かかりつけ薬剤師・薬局」への対応など、県民が求めるニーズに応えることが困難な状況にあります。

第8次沖縄県医療計画では、高齢化により増大・多様化する医療需要への対応の一環として、在宅医療の充実を図る必要があるとし、医療提供体制を築く上で医師等の偏在解消、看護師の離職防止等とともに薬剤師確保をあげています。

また、沖縄県の1人当たり県民所得は全国平均を大きく下回り全国最下位となっている中、薬学部設置は、創薬研究者の輩出のみならず、創薬の基盤が根付くことにより、離島のハンデを克服する高付加価値の製品を生む医薬品関連産業の創出につながり、必ずや県経済の発展をもたらすと考えます。

こうした背景から、沖縄県は令和5年2月に「沖縄県内国公立大学薬学部設置に関する基本方針」を策定し、県内国公立大学から薬学部設置に係る構想を公募しましたが、残念ながら応募はありませんでした。

しかしながら、琉球大学は、薬学部設置の可能性を含めて対応方策を沖縄県と協議したいとの意向を示し、今年5月から協議を開始したところです。

琉球大学は、これまで薬学部設置には「国が原則として認めていない教員数及び学生数を増やす必要があること」や「建設費用や設置後に発生する運営費用を確保すること」等の課題を挙げております。

我々沖縄県の薬業団体としましては、県内の平均所得が低いことや島嶼県であることにより薬剤師になることを諦めていた子弟のため、また、医学、看護、病院と一体的な教育が出来ること、OISTと連携した創薬の拠点となる可能性が期待できることから琉球大学を第一と考え、琉球大学への薬学部設置を希望しております。

以上の内容について、下記の事項を盛山正仁文部科学大臣宛てに要請いたしますので、武見敬三厚生労働大臣におかれましては、格別のご支援を賜りますよう、我々沖縄県の薬業団体は一致して要請するとともに、沖縄県内の薬学部設置へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

記

- 1 薬学部設置における定員増を前提とした入学定員枠の確保
- 2 薬学部設置に関する運営費の確保
- 3 薬学部設置に関する建設費等の初期費用の確保



要請書

琉球大学への薬学部設置について

沖縄県では、これまで薬剤師確保対策事業等を実施してもなお、人口10万人あたりの薬剤師数は全国最下位となっており、「健康サポート薬局」や「かかりつけ薬剤師・薬局」への対応など、県民が求めるニーズに応えることが困難な状況にあります。

第8次沖縄県医療計画では、高齢化により増大・多様化する医療需要への対応の一環として、在宅医療の充実を図る必要があるとし、医療提供体制を築く上で医師等の偏在解消、看護師の離職防止等とともに薬剤師確保をあげています。

また、沖縄県の1人当たり県民所得は全国平均を大きく下回り全国最下位となっている中、薬学部設置は、創薬研究者の輩出のみならず、創薬の基盤が根付くことにより、離島のハンデを克服する高付加価値の製品を生む医薬品関連産業の創出につながり、必ずや県経済の発展をもたらすと考えます。

こうした背景から、沖縄県は令和5年2月に「沖縄県内国公立大学薬学部設置に関する基本方針」を策定し、県内国公立大学から薬学部設置に係る構想を公募しましたが、残念ながら応募はありませんでした。

しかしながら、琉球大学は、薬学部設置の可能性を含めて対応方策を沖縄県と協議したいとの意向を示し、今年5月から協議を開始したところです。

琉球大学は、これまで薬学部設置には「国が原則として認めていない教員数及び学生数を増やす必要があること」や「建設費用や設置後に発生する運営費用を確保すること」等の課題を挙げております。

我々沖縄県の薬業団体としては、県内の平均所得が低いことや島嶼県であることにより薬剤師になることを諦めていた子弟のため、また、医学、看護、病院と一体的な教育が出来ること、OISTと連携した創薬の拠点となる可能性が期待できることから琉球大学を第一と考え、琉球大学への薬学部設置を希望しております。

盛山正仁文部科学大臣におかれましては、沖縄県の状況をご理解いただき、下記の琉球大学への薬学部設置に向けた諸課題解決にご支援を賜りますよう、我々沖縄県の薬業団体は一致して要請するとともに、沖縄県内の薬学部設置へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

記

- 1 薬学部設置における定員増を前提とした入学定員枠の確保
- 2 薬学部設置に関する運営費の確保
- 3 薬学部設置に関する建設費等の初期費用の確保



令和6年7月5日

文部科学大臣
衆議院議員
盛山正仁 殿

要 請 書

一般社団法人 沖縄県薬剤師会
会長 前橋 順子

沖縄県医薬品卸業協会
会長 秋田 裕一

一般社団法人 沖縄県医薬品登録販売者協会
会長 梶泊 康行

沖縄県医薬品配置協議会
会長代理 前橋 忍

薬学部創設

琉球新報 令和6年6月30日（日）

転載記事

**琉大薬学部設置
薬剤師会が要請**
沖縄担当相に

【東京】県薬剤師会などは28日、内閣府で自見英子沖縄担当相と面談し、琉球大学への薬学部設置に関する要請書を手渡した。定員増を前提とした入学定員枠や運営費の確保、建設費など初期費用の確保の3点を求めた。

県薬剤師会、県医薬品卸業協会、県医薬品登録販売者協会、県医薬品配置協議会の4者の連名。

要請は非公開で行われた。要請後に取材に応じた県薬剤師会の前濱朋子会長は、薬学部設置要請の背景について「沖縄では人口10万人当たりの薬剤師数が全国最下位となっている。県民のニーズに応えることが困難な状況だ」と説明した。

自見氏は要請に対し「文科省など関係省庁との調整を見守りながら支援したい」と述べたという。

7月には文部科学省、県などにも要請する。（嘉数陽）

沖縄タイムス 令和6年6月30日（日）

**琉大薬学部設置
沖縄相に要請書**
県薬剤師会

【東京】県薬剤師会の前濱朋子会長らは28日、内閣府で自見英子沖縄担当相と面談し、琉球大学への薬学部設置と定員増などを求める要請書を提出した。終了後、記者団の取材に応じた前濱会長によると、自見氏は「議論がまとまっていく過程をしっかりと見守っていく」との考えを示した。

要請書は、県薬剤師会、県医薬品卸業協会、県医薬品登録販売者協会、県医薬品配置協議会の薬業4団体の連名。

琉大への薬学部設置によって「医学、看護、病院と一体的な教育ができる」とし、沖縄科学技術大学院大学（OIST）との連携で沖縄が創薬の拠点となる可能性も期待できると主張した。学部設置にかかる初期費用の確保も求めた。

自見英子沖縄担当相（右から2人目）に要請書を手渡す県薬剤師会の前濱朋子会長（同3人目）ら。28日、東京・内閣府。

※発行元が記事の利用・編集を許諾しています。

薬学部創設

転載記事

2024年7月1日月曜日

PHARMACY NEWSBREAK 2638号



薬局・薬剤師のためのニュースメディア

© 2024じほう

HARMACY NEWSBREAK

株式会社 じほう

弊社の許諾なしに、転送・転載、複写その他の複製、翻訳、およびデータの使用は固くお断りいたします

沖縄初「薬学部」へ、自見担当相に支援要請

沖縄県薬、琉球大に設置想定

沖縄県薬剤師会の前濱朋子会長は6月28日、内閣府で、県内初の薬学部の設置に向けた支援を求める要請書を自見英子沖縄担当相に手渡した。琉球大への設置を想定。手交後に取材に応じた前濱氏によると、自見氏は「議論の行方を見守りたい」などと応じたという。7月には、盛山正仁文部科学相と武見敬三厚生労働相にも同様の要請書を提出する。

要請書は、県薬に加え、県医薬品卸業協会と県医薬品登録販売者協会、県医薬品配置協議会の4団体の連名。今年5月から県と琉球大が薬学部設置の可能性について協議を始めたことを踏まえ、「医学部や付属病院などと一体的な教育ができる」「沖縄科学技術大学院大学と連携して創薬の拠点化が期待できる」など同大に薬学部が設置されるメリットを挙げ、「琉球大（への設置）が第一」と呼びかけている。

その上で、琉球大の負担を軽減するために、▽定員増を前提にした入学定員枠の確保▽運営費の確保▽学部の建設費などの初期費用の確保—の3点を要請した。この3点については、7月5日に盛山、武見両氏にも要請する予定だ。

今回の要請の経緯について、手交後に取材に応じた前濱氏は「今月初め、琉球大や県医師会、県商工会議所連合会との4者で協議し、薬学部設置に向けた問題点が整理できたため」と説明。手交時に自見氏は「県と琉球大の協議がまとまったタイミングで、県と文部科学省の調整が始まる。議論の行方を見守っていきたい」と話していたという。

●県知事には財政支援要請へ

7月1日には沖縄県の玉城デニー知事に対しても要請書を提出する。大臣宛ての要請書とは異なり、琉球大への薬学部設置に向けた、▽初期費用への財政的支援▽学部運営が軌道に乗るまでの運営費補助の実施と財源確保—などを求める。

[許諾番号20240701_02]

※株式会社じほうが記事利用を許諾しています。

薬学部創設

転載記事

沖縄タイムス 令和6年7月2日（火）

**琉大に薬学部
設置支援要請**
県に薬剤師会

県薬剤師会の前濱朋子会長は1日、県庁で池田竹州副知事と面談し、琉球大学への薬学部設置に向けた財政的支援を求めた。

前濱会長は県内で慢性的な薬剤師不足が続いている状況を説明。「琉球大学への薬学部設置が根本的な解決になる」とし、初期費用や学部運営が軌道に乗るまでの補助などを要請した。

池田副知事は「既存の補助金や新たな支援を国に求めている。スピード感をもって取り組む」と話した。



池田竹州副知事（右）に薬学部設置に向けた要請書を手渡す県薬剤師会の前濱朋子会長。1日、県庁

琉球新報 令和6年7月3日（水）

**「琉大に薬学部を」
県薬剤師会が県に要請**

県薬剤師会の前濱朋子会長は1日、写真左が1日、県庁を訪れ、琉球大学への薬学部設置について支援を求める玉城デニ1知事宛ての要請文を池田竹州副知事に手渡した。

要請は、同会と県医薬品卸業協会、県医薬品登録販売者協会、県医薬品配置協議会の連名。薬学部設置の初期費用への財政的支援、運営費の補助、琉大学長と連携した文部科学省への設置の働きかけの3点を求めた。

要請に対して池田副知事は、薬学部設置について琉大の決断を待っている現状を説明。県内での薬学部設置について「国に新たな支援を求めると共に、県独自の支援も検討している」と述べた。

前濱会長は、6月28日に自見英子沖縄担当相にも同様の要請をしたことも報告。「県民所得の現状も考え、ぜひ国立大学での設置を」と求めた。

（宮沢之祐）



※発行元が記事の利用・編集を許諾しています。

薬学部創設

転載記事

2024年7月8日月曜日

PHARMACY NEWSBREAK

2638号



薬局・薬剤師のためのニュースメディア

© 2024じほう

HARMACY NEWSBREAK

株式会社 じほう

弊社の許諾なしに、転送・転載、複写その他の複製、翻訳、およびデータの使用は固くお断りいたします

「沖縄に薬学部を」盛山文科相に要請書

沖縄県薬



盛山文科相に要請書を手渡す沖縄県薬の前濱会長（左から3人目）

沖縄県薬剤師会の前濱朋子会長は5日、県内初の薬学部の設置に向けた支援を求める要請書を盛山正仁文部科学相に手渡した。設置先として想定する琉球大の負担軽減に向けた要望を盛り込んだ。手交後に取材に応じた前濱氏によると、盛山氏は「まずは大学と県としっかりと調整を進めていってほしい」と話した。

要請書では、琉球大が薬学部設置のハードルとして「国が原則として認めていない教員数・学生数を増やす必要があること」や「建設費用や運営費用の確保」を挙げていることを踏まえ、▽定員増を前提とした入学定員枠の確保▽運営費の確保▽建設費などの初期費用の確保一の3点を求めた。要請書は県薬のほか、県医薬品卸業協会と県医薬品登録販売者協会、県医薬品配置協議会の4団体の連名。

要請書の前段では、沖縄県は人口10万人当たりの薬剤師数が全国最下位になっており、県民の薬局・薬剤師へのニーズに応えることが困難な状況にあると説明。今年5月から県と琉球大が薬学部設置の可能性について協議を始めたことを踏まえ、「医学、看護、病院と一体的な教育ができる」「沖縄科学技術大学院大と連携した創薬の拠点となる可能性が期待できる」といった理由から琉球大への設置を第一に希望していると記した。

前濱氏によると、要請書を受け取った盛山氏は、まずは「大学と県としっかりと調整を進めてほしい」と言及。さらには「創薬も含めた関係者が一丸となって、(計画を)ブラッシュアップしてほしい」と述べたという。

●武見厚労相は「大賛成」

前濱氏は同日、文科相との面会前に厚生労働省を訪れ、武見敬三厚生労働相にも要請書を手渡した。武見氏は沖縄県内に薬学部を設置することに「大賛成」と述べ、グローバルな薬学人材を育成する拠点となることに期待をかけた。



武見厚労相に要請書を手渡す沖縄県薬の前濱会長（左から3人目）

●「子どもたちの思い伝えられた」 前濱会長

前濱氏は2大臣との面会后、「沖縄には薬学部に行きたくても本土の大学に出られるだけの経済的余裕がない家庭、子どもたちがいる。そうした県民の気持ちを大臣に直接伝えることができたのはよかった」と吐露。「今後、いろいろと調整が必要だが、課題を乗り越えて薬学部新設を実現したい」と語った。

[許諾番号20240708_01]

※株式会社じほうが記事利用を許諾しています。

お知らせ

Facebookをご覧下さい！



一般社団法人
沖縄県薬剤師会
@okinawaopa

ホーム

投稿

写真

ページ情報

いいね！



下記アドレスより、お待ちしております。ホームページからも閲覧できます。

<https://www.facebook.com/okinawaopa>

令和6年度那覇市政功労者表彰



山里 美恵子先生 おめでとうございます



表彰式には吉田久子先生（左）と太田節子先生（右）が駆け付けた。

山里美恵子先生は、平成4年4月に那覇市立天妃幼小学校の学校薬剤師に委嘱されて以来、31年間学校薬剤師活動を続け、その専門性を活かし学校環境衛生検査を通して、学校側に適切な指導助言を行い、学校環境衛生及び学校保健の向上に努め、児童生徒らの健康増進に貢献されたことにより、今回の受賞となっております。

山里美恵子先生、この度の受賞誠におめでとうございます。

（文：事務局 平安山丈継）

沖縄県薬剤師会職員永年勤続表彰



吉田 典子 氏
薬事情報センター
(30年勤続)



喜納 孝子 氏
会営薬局うえはら
(30年勤続)



與世平 千夏 氏
会営薬局とよみ
(30年勤続)



金城 みどり 氏
事務局
(20年勤続)



田中 求 氏
会営薬局うえはら
(10年勤続)

第90回総会

第90回定時総会 会長演述

第90回定時総会の開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が変更されたことに伴い人々の行動制限がなくなり、コロナ禍前の生活に戻って、本会の事業も以前のように実施されてきています。

コロナ禍への対応として実施してきた新型コロナウイルスワクチン専門電話相談事業は今年3月末日をもって終了しました。土日祝日含め年中無休で相談員としてご対応いただいた会員の皆様に心から感謝申し上げます。

また、1月に発生した能登半島地震・津波被害で、沖縄県医師会JMATや日薬の災害派遣薬剤師チームとして速やかに現地へと向かい、前線で支援活動された会員の皆様に、改めて敬意を表します。

同時に、日薬が募った会員向け義援金や本会独自に募った被災された方々への義援金につきましても多くのご寄付を頂き感謝申し上げます。本会独自の義援金は、おかげをもちまして、日本赤十字社沖縄県支部を通して被災地に寄付することができました。



県内国公立大学への薬学部創設活動に関しましては、県が公表した「沖縄県内国公立大学薬学部設置に関する基本方針」のロードマップに従い、県は薬学部設置を希望する大学を募集しましたが、応募がありませんでした。しかし、琉球大学は県と薬学部設置の可能性を含めた協議を行うとして、協議を始めています。

この間、本会は、県関係国会議員5氏、薬剤師国会議員2氏との面談・要請のため上京いたしました。そこから得たアドバイスを元に経済関係団体に働きかけ、今年3月に開催した県内国公立大学薬学部設置シンポジウムでは、経済5団体から後援をいただくとともに、来賓挨拶やパネリストにも経済団体関係者にご登壇いただくことができました。

これを契機に、経済団体との連携を強め国へ要請を行うことを念頭に、琉球大学、医師会、商工会議所連合会の各代表を本会に招いて意見交換を行い、現在、各経済団体、各医療団体から賛同を得て、新たな要請書を手に上京の調整をしているところです。

県内国公立大学への薬学部創設活動に関しましては、引き続き、会員の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本日は、令和5年度の事業報告と収支決算に係る議案のご審議、並びに地区薬剤師会代表質問関連につきまして、ご質疑いただきますようお願い申し上げます。

令和6年6月16日
会長 前濱 朋子

<第90回定時総会次第>

- 物故会員への黙祷
- 開会の辞
- 議長・副議長登壇挨拶
(点呼・宣言)

- 日程説明
- 会長あいさつ

- 議案 第1号 令和5年度収支決算書の件

- 報告 第1号 令和5年度事業報告（会務並びに事業経過報告）書の件

- 第2号 令和5年度事業報告書及び収支決算書に関する監事監査の件

- 地区薬剤師会代表質問

順番：①中部地区 ②那覇地区 ③宮古地区 ④南部地区 ⑤北部地区 ⑥八重山地区

- 一般関連質問

- 採決（議案第1号）

- 閉会の辞

司 会 常務理事 知名 博 樹

副 会 長 中 村 克 徳

議 長 新 垣 慶 朗

副 議 長 鈴 木 一 徳

常務理事 佐 藤 雅 美

会 長 前 濱 朋 子

副 会 長 川 満 直 紀

常務理事 喜友名 朝 史

監 事 江 夏 京 子

副 会 長 古 謝 玄 太



物故会員への黙祷

〔第90回定時総会スナップ写真〕



司会
知名 博樹 常務理事



左から議長：新垣 慶朗 代議員、副議長：鈴木 一徳 代議員



開会の辞
中村 克徳 副会長



日程説明
佐藤 雅美 常務理事



報告第1号
喜友名 朝史 常務理事



報告第2号
江夏 京子 監事



議案第1号
川満 直紀 副会長



阿嘉 秀寅 代議員
(中部地区薬剤師会代表)



新垣 紀子 代議員
(那覇地区薬剤師会)



下地 仁 代議員
(宮古地区薬剤師会代表)



川上 雄一朗 代議員
(南部地区薬剤師会代表)



玉城 純 代議員
(北部地区薬剤師会代表)



新嵩 由香 代議員
(八重山地区薬剤師会代表)



浅沼 健一 理事
オンライン診療に係る
薬局対応マニュアル答弁



閉会の辞
古謝 玄太 副会長

第90回総会

第90回定時総会報告

日時：令和6年6月16日（日）13:30～15:55

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

知名博樹常務理事の進行で、定時総会を開催する旨の案内が定刻の午後1時30分にアナウンスされ、開会した。

新型コロナウイルス感染症の発生を踏まえた今回の開催の取り扱いについては、発熱や風邪症状があり体調に不安がある場合等は参加の自粛を要請、また、欠席の場合は、「予備代議員を出席させる」もしくは「議決権の代理行使」の提出による出席扱いとさせていただき旨の案内をした。現地参加している代議員は39名、「議決権の代理行使」を議長に委任することで出席の提出をした代議員が8名、欠席の代議員が4名の計47名となっていることが告げられた。

開会挨拶の前に、物故会員4名（新垣晶市、大浜貴子、松田進、山城貞国）の冥福を祈るため、起立黙祷した。

中村克徳副会長が、「新型コロナウイルス感染症が不穏な動きをしており、皆様方も苦労されていることと思う。本日はそのようなことも含め、結束を固める会にできれば、と思う。」と挨拶し、第90回定時総会の開会を告げた。

定款第15条の規定により、議長、副議長を選出。議長は宜野湾支部の新垣慶朗代議員、副議長は浦添支部の鈴木一徳代議員が選出された。

佐藤雅美常務理事が定時総会の日程及び議題の審議方法について説明し、そして、前濱朋子会長が挨拶した。

議題は、議案事項1題、報告事項2題があり、順次、担当理事より説明をしていき、全ての議題の説明が終了したあとに、一般関連質問の時間で質疑応答をとることを、副議長が説明した。

<議案第1号 令和5年度収支決算書の件>

財務担当理事の川満直紀副会長が、比較正味財産増減計算書を基に、各事業部の数字を読み上げ、その後、概要について説明した。

会営薬局うえはらについて、近隣薬局の閉局及び近隣クリニックからの処方などで受付回数が増え、事業収益が前期より増した。近年は、財務状況が好調で安定しているが、琉球大学病院の移転も差し迫っており、徐々に患者が減少していくことが予測されることから、10月頃を目途に薬局の今後について利用者へ案内する予定である。

会営薬局とよみについて、事業収益の減少は、近隣薬局の新規開局による影響、後発品の入荷が前期より増加したこと、豊見城中央病院の患者数も年々減少傾向にあるなど、様々な事情が起因している。諸経費の削減を施してきたが、前記のように事業収益も年々減少していることから近年は黒字化が困難な状況が続いている。そのため、人員数を再度見直した人事異動を今年度既に実施しており、それ以外の支出面においても随時見直していく予定である。

会営薬局医療センター前について、昨年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類に移行したものの治療薬の処方やインフルエンザの患者数が増加したこともあり、事業収益が昨年を上回った。県からの新型コロナウイルス対応医療機関休日調剤協力金が5月で終了したことによって雑収益は減少したが、経常増減額は2年連続の黒字を計上した。

試験検査センターについて、空気検査の検査件数が前期より増加したことから検査手数料収入

が大幅に増加した。その他事業費の主な増加要因は、空気検査に必要な外注費と、昨年5月に購入した陰イオンクロマトグラフの減価償却費によるものである。

一般会計について、新型コロナウイルスワクチン電話相談事業において前期より平日の職員配置を増やしたことによる人件費収入の減少、診療報酬の改定年度では無かったことによる出版物売上の減少などもあり、事業収益が減少した。オーバードーズ防止普及啓発事業や、日本薬剤師会からHPKI交付手続きの事務手数料による収益も計上した。支出面においては、職員の欠員補充や増員、役員報酬の変更による人件費の増加や人材派遣手数料の支払い、コロナ以前の状況に戻ってきたことによる出張旅費・会議費・委員会車賃などで経常費用が増加したことによって、経常増減額が前期より下回る結果となった。

最後に、事業部毎に課題はあるが、今後も会費収入だけに頼らない経常収益力の強化、国・県からの補助金等の獲得・拡充も図って、効率的に事業を行っていく。また、公益認定プロジェクトを通して専門家のアドバイスも得ながら、本会の10年先20年先を見据えた運営について検討を重ねていくことなどを言い添えた。

＜報告第1号 令和5年度会務並びに事業経過報告＞

喜友名朝史常務理事が、(1) 会員・薬局等の業態現況報告、(2) 会務報告、(3) 講演会・研修会・説明会等の開催状況、(4) 公的機関等の会議・活動・その他、(5) 各種委員会の開催状況、(6) 公的機関への協力、(7) 地区・支部活動について、配付資料に基づき報告した。

続けて、令和5年度事業（沖縄県内の国公立大学への薬学部創設に向けての活動、地域医療提供体制対策、生涯学習、医療安全対策、医療保険、保健福祉、薬学生実務実習受入、災害支援対応、各部会活動、「薬と健康の週間」行事、日本薬剤師研修センター認定研修会の受講状況、試験検査センター事業、薬事情報センター事業）について、主な事項を配布資料に沿って具体的に報告した。

＜報告第2号 令和5年度会務並びに会計監査報告＞

江夏京子監事が、定款第26条に基づいて、令和5年5月9日に山里勇監事と共に執り行った一般社団法人沖縄県薬剤師会の令和5年4月1日から令和6年3月31日までの令和5年度における会計及び業務の監査実施に基づく監査報告書を読み上げて監査報告とした。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表等は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財政状態を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

休憩を挟み、再び議長と副議長が登壇して質疑応答の時間に入った。質疑応答は、前半に地区

薬剤師会代表質問、後半に一般関連質問という構成である。地区薬剤師会代表質問の順番は去る4月の定例理事会にて地区代表理事によるクジにより決定したこと、1地区あたりの代表質問時間も去る4月の定例理事会で質疑応答を含め7分に決定したこと、また、時間超過で質問できなかった事項に関しては一般関連質問の際に質疑応答の時間を設けること等を、議長が説明した。

代表質問は、6地区薬剤師会から選出された代議員が、

- ①中部地区薬剤師会（沖縄支部：阿嘉秀寅代議員）
- ②那覇地区薬剤師会（首里支部：新垣紀子代議員）
- ③宮古地区薬剤師会（平良支部：下地仁代議員）
- ④南部地区薬剤師会（南風原支部：川上雄一朗代議員）
- ⑤北部地区薬剤師会（名護支部：玉城純代議員）
- ⑥八重山地区薬剤師会（石垣支部：新嵩由香代議員）

の順で行い、これらの質問に対し各担当理事が答弁した。

地区薬剤師会代表質問

＜中部地区薬剤師会＞

阿嘉秀寅代議員 質問①：DX推進体制整備加算に係る算定要件5項目に関する

オフライン研修開催等について

DX推進体制整備加算が6月から算定可能となり、算定要件として取り組みが必要な5つの項目がある。（①電子処方箋への対応、②オンライン服薬指導への対応、③電子お薬手帳への対応、④マイナ保険証の利用促進、⑤サイバーセキュリティの対応）

これらの項目については沖縄県薬剤師会のホームページ上にも動画や資料などが掲載されているが、まだ実際の対応について不安に思っている点もあると聞いている。

今後も各項目について、オフラインでの勉強会の開催や導入例の提示など、継続して指導する予定はあるか聞く。

宮城幸枝常務理事 答弁

現在公開中の解説動画が最新の情報となっているため、現在のところ、対面での勉強会や講習会を開催する予定はない。

しかしながら、改正項目の中にも施設基準の要件に経過措置の項目や、今後新たに基準の設定が行われる項目もあるため、情報が更新される都度、まずは一斉同報やホームページ等で会員へ情報提供していきたいと考えている。

なお、今後、会員から研修会等の要望が多い場合には、開催を検討する。

阿嘉秀寅代議員 質問②：無職の会員薬剤師への情報提供について

店舗勤務していない会員薬剤師への情報共有として、FAXやメールなどを用いて一斉同報するなどの対応は可能か聞く。

阿部義則専務理事 答弁

県薬剤師会としても薬局や店舗に属さない個人会員への確実な連絡方法の構築は課題であると考えている。

薬局や店舗に属さない個人会員への連絡方法として、メールやSNSを用いることが考えられるが、メールアドレスは入会申し込みの際、記載が任意であることもあり登録数も少ない状況であることから、個人会員への一斉同報等に用いるのには現状適さない状況にある。

この課題を解消し、全会員に一斉同報等の情報共有を行うツールとしてメールを用いるためには、強制的にメールアドレスを収集することになるが、この行為は、個人情報保護法の観点から「利用目的を明確にした上で本人の同意が必要」になること、メールやSNSを利用しない会員も一定数いることから、現状ではメールやSNSを活用した一斉同報は困難と考えている。

県薬剤師会としては、今後も課題解決に向け、先進事例など情報収集に努めていく。

＜那覇地区薬剤師会＞

新垣紀子代議員 質問①：会営薬局うえはらの無菌調剤室の今後について

会営薬局うえはらの存続について、現在検討中かと思うが、それに伴い、無菌調剤室の共同利用は、今後どのようなようになるのか聞く。

石川恵市理事 答弁

現在、無菌調剤室の共同利用に関して36件の契約薬局があり、直近2年間は利用者が0件である。(利用時は1回500円)

会営薬局うえはらの無菌調剤室の共同利用と当該薬局の存続とはリンクする事案であることから、今後立ち上げるプロジェクトにおいては、無菌調剤室の共同利用廃止の影響も含め、検討していくことになると考えている。

会営薬局うえはらの運営については、今年10月中を目途に方針を決定する予定であることから、無菌調剤室の共同利用の契約薬局には、決定後に通知することを考えている。

新垣紀子代議員 質問②：補助事業について

昨年度受けた補助金事業について、どのような内容のものだったのか聞く。

川満直紀副会長 答弁

昨年度は、「薬剤師確保対策事業」「訪問薬剤管理指導推進事業」「認定薬剤師育成支援事業」「救急医療対応薬局体制確保事業」の4つの補助金事業を実施し、補助金297万1,000円の交付を受けた。

それぞれの事業内容について、

一つ目の薬剤師確保対策事業は、薬剤師の確保を目的に薬剤師専門誌等への求人広告や、県出身薬学生が多く在籍する大学へ出向いた現地またはWEB開催でのU・Iターンガイダンスを実施する事業。

二つ目の訪問薬剤管理指導推進事業は、在宅訪問に取り組む薬局・薬剤師の増加を図ることを目的に在宅訪問同行研修、座学研修会などを行う事業。

三つ目の認定薬剤師育成支援事業は、地域包括ケアシステムの一翼を担う薬局・薬剤師を対象に認定(専門)薬剤師取得のための研修会への参加旅費を助成する事業。

四つ目の救急医療対応薬局体制確保事業は、救急医療の確保を目的に、休日・夜間の営業で慢性的に財務状況が厳しい薬局の赤字を補填する事業。

昨年度は、会営薬局医療センター前の財務状況が好調であったため、補助金交付の対象外となっ

た。

その他、沖縄県からの委託事業として、オーバードーズ防止普及啓発業務、奨学金返還助成制度の事業、コロナ専門相談コールセンター業務の3事業を実施し、計2,121万1,500円を受領した。

＜宮古地区薬剤師会＞

下地仁代議員 質問①：マイナ保険証への移行促進について

国は今年12月に健康保険証の新規発行を止め、マイナ保険証利用促進のため、各薬局へデジタル推進委員を設置し、5月から3ヶ月間を利用促進、集中取り組み期間と位置づけ、早急な移行を目指しているが、とても現状を理解していると思えない。日常でも月1～2回はカードリーダーの通信不具合が起き、災害時の対応についても何ら具体的な案を示していない。現行の健康保険証が併用できる期間を延ばすよう国へ働きかける必要があると思うが見解を聞く。

宮城幸枝常務理事 答弁

国は本年12月2日から健康保険証の新規発行を停止し、廃止すると決定している。一方、廃止後も期限前に発行された健康保険証は最長1年間使える猶予期間があり、また、マイナ保険証を所有していない人には「資格確認書」を発行し救済措置を設けるとしている。

ご指摘の資格確認時の障害については、令和5年7月10日付けでマイナ保険証の資格確認ができないときの対応方法の通知を発出している。

また、災害時には、災害時医療情報閲覧機能により、マイナンバーカードが無くても薬剤情報が閲覧できる機能が構築され、能登半島地震の際に避難者の服用薬を特定し、医療者の負担軽減につながったとしている。

このように、国は様々な要望や意見について迅速に対応し方針通り進める体制を強化している。

以上のことから県薬剤師会としては、マイナ保険証と現行健康保険証の併用期間の延長を要望するのではなく、12月の廃止期限の前後で薬局の現場で混乱が起きないように対応マニュアルの作成を求めるなど日薬と連携し対応したいと考えている。

下地仁代議員 質問②：毎年の薬価改定について

ここ数年、医療費削減を目的とし国は毎年薬価改定を行っているが、毎年の改定は薬局の資産を目減りさせ、薬局経営に影響を及ぼしているばかりでなく、近年の医薬品不足の遠因にもなっていると感じる。薬価改定の期間を延長すべきと国へ提言する必要があると思うが見解を聞く。

川満直紀副会長 答弁

毎年の薬価改定の議論は、超高額な医薬品の効能追加等に端を発し、薬価全体に議論は波及し、保険者等から適時適切な薬価改定の要請が行われ、令和3年度の薬価改定から毎年薬価改定の制度が開始されている。

過去に、未妥結・仮納入が長期化し医薬品卸への負担が増大したこと、医薬品の市場価格が不安定化したことで毎年の薬価改定は、2年に1回の改定に改正されており、毎年のマイナス改定は薬局や医薬品卸、製薬企業の安定的な医薬品供給に支障を来すおそれがあるとして、今年3月開催の日薬臨時総会の会長陳述で山本信夫会長が「薬価改定については、6年連続となるマイナス改定となった。製薬企業にとって新たな医薬品開発への意欲をさらに削ぐもので、ドラッグロス拡大のみならず、現下の医薬品供給不足への影響が懸念されるばかりか、経営基盤の脆弱な中

小規模の薬局経営や、医薬品卸売業へ与える影響も大きく、薬価中間年改定のあり方についてはこれまでと同様に、反対の姿勢を堅持する所存である。」と述べている。

県薬剤師会としても、日薬と連携し取り組んで行く。

下地仁代議員 質問③：医療用医薬品不足について

最近、出荷調整等で卸業者からの医療用医薬品の入手が困難になっており、困惑している。県薬や日薬はこの状況をどう考えているか聞く。

- (1)医薬品不足の状態の原因は何なのか。患者に説明するためにも聞きたい。
- (2)県薬として、日薬や厚労省に対してどのような働きかけをしているのか聞く。
- (3)県薬として、この出荷調整の状況がいつまで続くと見込んでいるのか聞く。

喜友名朝史常務理事 答弁

(1)医薬品不足の状態の原因について

医薬品不足の原因は、様々で、主なものは、医薬品メーカーの製造上の問題、コロナ禍における需要増による供給不足、少量多品目生産という後発医薬品特有の産業構造上の問題などが原因と考えられる。

(2)日薬や厚労省に対しての働きかけについて

県薬では、6月29日、30日開催の日薬総会代表質問に医薬品安定供給の件について九州山口ブロックを通して質問事項として提出している。県薬としては、今後も日薬や薬剤師議員の本田、神谷の両参議院議員を通し、医薬品の安定供給について国に働きかけていく。

(3)出荷調整の状況がいつまで続くかについて

国は、令和5年度補正予算において製薬企業等で医薬品の安定供給に資する企業努力をしている企業に数年遡って設備投資、人件費に2分の1の補助を行うこととし、令和6年6月からは、医療用医薬品、特にジェネリック医薬品について製造・出荷状況をネット上で明らかにし、透明性を図ることで、安定供給につなげるとしている。

しかしながら、医薬品メーカーの摘発が相次ぐ状況もあり、いつまでと言える状況ではないと考えている。

<南部地区薬剤師会>

川上雄一朗代議員 質問①：会営薬局の運営について

琉球大学病院の移転に伴う会営薬局うえはらの移転検討については、移転をしないと判断された。会営薬局とよみも友愛医療センターが開院した際に、移転をしてない。

会営薬局とよみの運営に係る今後の展望について聞く。

佐藤雅美常務理事 答弁

会営薬局とよみは、豊見城中央病院が友愛医療センターとして移転した後、旧病院がそのまま地域包括ケア拠点病院となり、その門前薬局として営業を継続することができている。

会営薬局とよみは、国が平成27年に掲げた「患者のための薬局ビジョン」の中の「かかりつけ薬剤師・薬局」で謳われている「服薬情報の一元的・継続的把握」はもちろんのこと、「24時間対応・在宅対応」や「医療機関等との連携」を意識した運営を行ってきた。特に、かかりつけ薬剤師や在宅対応については、令和4年から体制を整え、在宅については、今年1月に初めての算定を行

う事が出来、6月現在で算定回数は10回となっている。

令和6年度の調剤報酬改定では更に「質の高い在宅業務の推進」とあり、ターミナルケアや小児在宅に対応できるような体制となっていることから、そのことを意識した体制の整備を行っていくこと、実務実習生の受入も積極的に受け入れていくことなど、今後も会営薬局であることを意識するとともに、安定的な運営となるよう取り組んでいく。

川上雄一郎代議員 質問②：会員獲得の実績について

会費の見直しをしながら会員数を伸ばそうと努力をしているのは理解できるが、会員数の推移（年代別）と、これまでの会員獲得の取り組みについて聞く。

阿部義則専務理事 答弁

当会の正会員数は、令和元年度が1,254人、令和2年度が1,243人、令和3年度が1,224人、令和4年度が1,237人、令和5年度が1,245人となっている。

会員獲得のこれまでの取り組みで効果があったと思われる主なものは、①日薬の個人賠償責任保険開始を受けた県薬の保険加入促進の取組、②九州山口薬学大会沖縄開催に向けた入会金免除による会員増強の取組、③行政薬剤師を正会員Cに追加と入会金免除による取組などがある。

川上雄一郎代議員 質問③：不動産システムの再開について

地域支援体制加算等、薬局間の医薬品の備蓄にも連携が必須になってきている。

そこで、沖縄県薬剤師会も、不動産システムを再開することを検討してはどうか。

また、実際に、過去のシステムが稼働していた際は、どれくらいの薬局が利用していたのか聞く。

喜友名朝史常務理事 答弁

①不動産システムの再開について

旧不動産・備蓄ネットワークシステム（MEDISS）は、利用の偏りや利用ニーズの低さから、平成31年1月の理事会で廃止が承認・決定されている。

不動産の解消や小分け業務への問題は、県全域で対応することは、多くの離島や南北に長い本県の実情から配送等を考えると現実的ではなく、地区薬剤師会単位で対応すべきものと考ええる。

このことから、県薬が県全域を対象としたシステムを構築するのではなく、各地区に合った仕組みを地区毎に構築していただきたいと考える。

②過去のシステムの利用実績について

過去のシステムであるMEDISSの利用実績を地区別の「売り」「買い」の回数、金額で見ると、売りに使用した回数は、南部地区が4回で2,233円、那覇・浦添地区が108回で195,582円、北部、中部、宮古、八重山地区は0回であった。

また、買いに使用した回数は、南部地区が11回で15,118円、那覇・浦添地区が108回で182,697円、北部、中部、宮古、八重山地区は0回であった。

<北部地区薬剤師会>

玉城純代議員 質問：災害対策について

自然災害は突然訪れる。様々な専門家、専門機関が予測を出しているが、まだまだ精度は高い

と言いき難い状況だと考える。

陸続きではない沖縄県で災害が発生した場合、外からの支援が届くまでに時間が掛かることが予想されているため、支援が届くまでの初動対応を地元ですっかりと行えるように準備は必要と考える。

以上のことから、過去の災害においても活躍しているモバイルファーマシーの購入等を含め、沖縄県薬剤師会の災害対策への考えを聞く。

姫野耕一常務理事 答弁

一般的に災害時の超急性期対応として外部からの支援が届くまでの3日分の備えということが言われているが、ご指摘の通り、沖縄県の場合は周りを海で囲まれているため、7日分の備えが必要と言われている。

医薬品の確保・供給についても同様だが、十分な備蓄が出来れば良いが、経済的な問題や使用期限の問題もあることから、いかに被災地域に被災していない地域から、迅速に必要な医薬品を供給することが出来るかが重要になってくると考える。

そのため、沖縄県は災害薬事コーディネーターの制度を設け、今年2月の研修を経て設置した。

県薬剤師会としては、県との連携をさらに強化し、災害薬事コーディネーター養成の継続、災害時に求められる様々な業務の遂行について訓練を通し、災害への備えとして培っていきたいと考えている。

また、モバイルファーマシーについては、車両本体の購入や維持に多額の費用がかかることが課題とされ、配備に至っていない。今後、他県の事例を参考に、県や企業等の協力も視野に課題解決策を模索していきたいと考えている。

<八重山地区薬剤師会>

新嵩由香代議員 質問：オンライン診療に係る薬局対応マニュアルについて

オンライン診療が増え想定できる不安・疑問に対してマニュアル化することは可能か聞く。

例えば、オンライン診療で処方箋が発行された場合、実在する診療所・医師なのか。

①それらを確認するにはどうすべきなのか。②仮に確認が取れない場合にはどう対応するべきなのかなど。

浅沼健一常務理事 答弁

オンライン診療で発行された処方箋を応需する際のマニュアルの作成は、現在のところ考えていない。また、ご質問にある以下の点については、

① オンライン診療で処方箋を発行した診療所・医師は実在するかの確認について

診療所やクリニックについては、厚生労働省のホームページに全国の医療機関を検索することができる「医療情報ネット（ナビイ）」で確認が可能です。医師については、厚生労働省の「医師等資格確認検索」で資格確認することができる。

② ①で確認が取れなかった場合の対応について

実在する診療所・医師であることが確認出来ないことは、処方箋に疑わしい点が存在する場合に当たり、薬剤師法に則り疑義照会を行わなければならない。この際、連絡が取れなければ、調剤することが出来ないことになる。

一般関連質問

一般関連質問の時間に入った。同時間は前述の議題及び地区薬剤師会代表質問に関連する質疑応答の時間として設けられている。

那覇東支部の上原代議員と沖縄支部の普久原隆代議員から質問があった。

那覇東支部 上原幸代代議員 質問

配布資料の令和5年度事業経過報告について、沖縄県内の国公立大学への薬学部創設に向けての活動報告に掲載の「令和5年10月本田顕子参議院議員（薬剤師）文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官就任」は、本体の事業にあたらないのではないか。

阿部義則専務理事 答弁

ご指摘の箇所は誤植であり、「※令和5年10月本田顕子参議院議員（薬剤師）文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官就任」の注釈としての表記が正しい。担当理事による答弁と併せて訂正させていただきます。

普久原隆代議員 質問1

正味財産増減計算書の経常収益において調剤報酬収入が前年度より増加しており、それに伴い仕入高が20億ほどあるが、財産目録の卸の買掛金の内訳について、卸会社Aの金額が他社より多いように見られる点について、ご教示いただきたい。

川満直紀副会長 答弁

今回ご指摘があったように、卸会社A、次いで卸会社Bが主な仕入れ先となっている。注射を含む高額な医薬品が多く入荷していると説明を受けており、そのため卸会社Aの金額が多くなっている。品目数での偏りがある訳ではない。

普久原隆代議員 質問2

では、仕入先は分散しているが高額な医薬品が卸会社Aに集中しているという認識で良いか。

川満直紀副会長 答弁

そのように説明を受けている。

<採決（議案第1号）>

議長が、議案第1号を読み上げ、採決のため賛成の代議員に挙手を求め、定款第17条により出席代議員の過半数の挙手を確認し、議案第1号「令和5年度収支決算書の件」は、決議・承認された。

最後に、古謝玄太副会長が、スムーズに会が運んだことについて御礼を述べた上で、当日が「父の日」でもあり、沖縄県議会議員選挙の投票日でもあることに触れ、「本日の議案についても政治や政策に関連することが多く、ぜひ興味関心を持っていただきたい。経済状況については、人

材不足が大きな課題となっており医療業界でも顕著になっている。DX促進や外国人の就労に頼る等の状況にある。子育て支援については、国や那覇市でも様々な支援策を講じている。本日の地区薬剤師会代表質問でもあった防災関連については、災害を設備面で完全に防ぐことはできないが、もしもの時に備え、災害薬事コーディネーターをはじめ、減災の視点を持ち対応を講じることが重要である。」と、今後の更なる会の発展のために協力を求め、閉会した。

(文責：沖縄県薬剤師会事務局 大城喜仁・玉寄博之・川平真央)

[第90回定時総会出席者]

敬称略

<理事・監事>

- | | | |
|------------------|-----------------|-----------------|
| ○前濱 朋子 (会長) | ○中村 克徳 (副会長) | ○川満 直紀 (副会長) |
| ○古謝 玄太 (副会長) | ○阿部 義則 (専務理事) | ○姫野 耕一 (常務理事) |
| ○佐藤 雅美 (常務理事) | ○宮城 幸枝 (常務理事) | ○知名 博樹 (常務理事) |
| ○喜友名朝史 (常務理事) | ○浅沼 健一 (北部地区代表) | ○石川 恵市 (中部地区代表) |
| ○又吉智賀子 (那覇地区代表) | ○名嘉 紀勝 (南部地区代表) | ○古謝 真己 (宮古地区代表) |
| ○幸地 良信 (八重山地区代表) | ○知念 大輔 (災害対策担当) | ○鈴鹿 玲子 (卸部会代表) |
| ○村田美智子 (女性薬部会代表) | ○吉田 典子 (薬事情報担当) | |
| ○江夏 京子 (監事) | ○山里 勇 (監事) | |

<代議員>

- | | | |
|----------------|-----------------|----------------|
| ○玉城 純 (名護支部) | ○藤田 由 (宜野湾支部) | ○島袋 雅子 (小禄支部) |
| ○西坂 順 (名護支部) | ○新垣 紀子 (首里支部) | ○國吉 直子 (小禄支部) |
| ※屋嘉比康作 (名護支部) | ○大塚成一郎 (首里支部) | ○久場 良幸 (浦添支部) |
| ※江夏 恭範 (うるま支部) | ○村上 市子 (首里支部) | ○杉山 英司 (浦添支部) |
| ○瑞慶山純子 (うるま支部) | ○上原 幸代 (那覇東支部) | ◎鈴木 一徳 (浦添支部) |
| ○徳嶺 恵子 (うるま支部) | ○大城 聖子 (那覇東支部) | ○武富 弘記 (浦添支部) |
| ○福地 健治 (うるま支部) | ○玉村 澄恵 (那覇東支部) | ○日高久美子 (浦添支部) |
| ○阿嘉 秀寅 (沖縄支部) | ○普天間公子 (那覇東支部) | ○新垣 秀幸 (糸満支部) |
| ○内嶺 陽平 (沖縄支部) | ○仲村喜久子 (那覇東支部) | ○伊敷松太郎 (糸満支部) |
| ○玉城 幸輝 (沖縄支部) | ※戸田 澄之 (那覇東支部) | ※小湾 勝敏 (糸満支部) |
| ○玉城 武範 (沖縄支部) | ※安次富長洋 (那覇北支部) | ○松本 圭五 (糸満支部) |
| ○普久原 隆 (沖縄支部) | ○入波平侑子 (那覇北支部) | ○川上雄一朗 (南風原支部) |
| ○諸見里めぐみ (沖縄支部) | ○平良 博文 (那覇北支部) | ○川上 善久 (南風原支部) |
| ※四谷 祐子 (沖縄支部) | ※宮本 直樹 (那覇北支部) | ○城間 盛伸 (南風原支部) |
| ○藤原 明人 (嘉手納支部) | ○大湾 優子 (那覇中央支部) | ○伊敷さゆり (南風原支部) |
| ☆新垣 慶朗 (宜野湾支部) | ○小湾 喜彦 (那覇中央支部) | ○下地 仁 (平良支部) |
| ○新川 祥平 (宜野湾支部) | ※池村由美子 (那覇中央支部) | ○新嵩 由香 (石垣支部) |

☆：議長 ◎：副議長 ○：現地出席 ※議決権委任

第90回総会資料

<報告第1号 令和5年度会務並びに事業経過報告>

令和5年度 会員・薬局等の業態現況報告

(1) 会 員 数

令和6年3月末現在

① 正 会 員	1,245 人	(A会員 576人、B会員 587人、C会員24人、 特別会員A 25人、特別会員B 24人、特別会員C 9人)
(内 訳)	【前年度比較】総会員数 8人増 (A会員7人減、B会員3人増、C会員3人増、特別会員A17人増、特別会員B8人減、 特別会員C増減無)	
名 誉 会 員	3 人	新垣正次、長嶺義仁、長田紀昭
薬 局 開 設 者	164 人	
一 般 販 売 業	28 人	
卸 勤 務 薬 剤 師	25 人	
勤 務 薬 剤 師	855 人	薬局(793)、病院(61)、製輸(1)
そ の 他	170 人	行政(24)、教研(1)、他職勤務者(23)、無職(113)、学生(9)
② 賛 助 会 員 A	27 人	
合 計	1,272 人	① (1,245人) + ② (27人)

(2) 薬局開設者等 (前年度との比較)

令和6年3月末現在

	令和4年度	令和5年度	増減
薬 局 開 設 者	171人	164人	-7人
一 般 販 売 業	29人	28人	-1人
卸 売 一 般 販 売 業	28人	25人	-3人
勤 務 薬 剤 師	848人	855人	7人
保 険 薬 剤 師	1094人	1100人	6人
そ の 他	159人	170人	11人

(3) 保険薬局等 (前年度との比較)

令和6年3月末現在

	令和4年度	令和5年度	増減
保 険 薬 局	546軒	553軒	7軒
処 方 箋 応 需 薬 局	541軒	548軒	7軒

第90回総会資料

令和5年度事業経過報告

1 沖縄県内の国公立大学への薬学部創設に向けての活動

(1) 令和4年度までの経過

沖縄県内の国公立大学への薬学部創設を求めるための活動（以下「本活動」という。）の開始当初からの取り組み経過の概要は以下のとおりである。

○平成27年4月

県薬剤師会から琉球大学に薬学部を設置するよう、国、関係当局へ要望を行うため、県も理解を示すよう知事に対して要望書を提出

○平成29年11月

県が歌山県立医科大学薬学部設置に関する情報収集開始

○平成30年6月

県薬剤師会、県医師会、県歯科医師会、県看護協会（4師会）は、琉球大学に薬学部創設という10万筆を超える署名を要望書とともに琉球大学に提出し意見交換

※ 令和2年度～令和4年度の県の事業

- ・令和2年度～令和3年度：薬学部設置可能性等調査を実施
- ・令和4年度：県内国公立大学薬学部設置推進事業

○令和5年2月

県が県内国公立大学薬学部設置シンポジウムを開催

- ・「沖縄県内国公立大学薬学部設置に関する基本方針」を公表
- ・同方針のロードマップにより、開学を令和10年4月と公表

(2) 令和5年度の取り組み

県が令和5年2月に公表した「沖縄県内国公立大学薬学部設置に関する基本方針のロードマップ」に則り、県は令和5年9月1日から12月8日までの期間で大学選定のための構想を公募を行った。本会としては、県医師会、県歯科医師会、県看護協会の賛同を得て4師会として、琉球大学に薬学部設置の要請を行うとともに、県知事、県議会へ要請や陳情を行ったほか、県関係国会議員や薬連関係国会議員、県議会議員へも薬学部設置に向けた協力要請を行った。

令和5年12月8日に締め切られた県の公募への県内国公立大学の応募は無かったが琉球大学のみが薬学部設置の可能性を含めた方策について県と緊密に連携し協議を進めたいとしたことから、池田竹州副知事と琉球大学の西田睦学長は12月21日、県庁で面談し、今後も薬学部設置の可能性も含めた協議を続けていくことを確認している。

令和6年3月24日には、県が令和4年度に引き続き2回目の県内国公立大学薬学部設置シンポジウムを開催した。

「薬学部設置の必要性を考える～薬剤師確保による多方面への効用～」と題したパネルディスカッションでは、前濱会長がコーディネーターとなり、薬剤師、医師、薬学教育、行政、地域財界の各関係者らがそれぞれの立場で慢性的な薬剤師不足によって地域医療の現場に支障を来している現状を問題視し、意見を交わした。意見の主なものとしては、薬学部で薬剤師を養成・確保し、地域医療の底上げを図ることは喫緊の課題であること、研究・創薬人材も増やし

ていくことで、県内の豊かな天然資源を活用した創薬シーズの発掘や、製薬産業の活性化による経済効果など、多方面での効用を期待することなどがあった。

令和5年度の経過の概要は以下のとおりである。

○令和5年9月

県が大学選定のための構想の公募を開始（令和5年12月8日まで）

○令和5年9月

- ・4師会は県内国公立大学薬学部設置の着実な実施のための財源確保を知事に要請
- ・県薬剤師会は県議会に県内国公立大学薬学部設置の着実な実施のための財源確保の陳情書を提出

○令和5年10月

4師会は琉球大学学長に琉球大学への薬学部の設置を求める要請書を手交

○令和5年11月

武見敬三厚生労働大臣を囲む会及び宮崎政久議員の厚生労働副大臣就任激励会で武見大臣が「琉球大学医学部は父が創った、薬学部は自分が創る。」と発言。後日の琉球新報にも掲載。（取材に基づくもの）

○令和5年11月

前濱会長が県関係国会議員5氏、薬剤師連盟関係国会議員2氏と面談・要請のため上京。

※令和5年9月

- ・宮崎政久衆議院議員 厚生労働副大臣就任
- ・國場幸之助衆議院議員 国土交通副大臣就任

※令和5年10月

- ・本田顕子参議院議員（薬剤師） 文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官就任

○令和5年12月

- ・大学選定のための構想の公募締切。県内国公立大学の応募無し。
- ・県の池田竹州副知事と琉球大学の西田睦学長が県庁で面談。今後も薬学部設置の可能性も含めた協議を続けていくことを確認。

○令和6年3月

令和5年度県内国公立大学薬学部設置シンポジウムを開催。

主催：沖縄県 共催：沖縄県薬剤師会

後援：沖縄県医師会・沖縄県歯科医師会・沖縄県看護協会・沖縄県商工会議所連合会

沖縄県経済同友会・沖縄県経営者協会・沖縄県商工会・沖縄県中小企業団体中央会

特別講演「知ってますか、薬剤師の重要性」 水谷 修（夜回り先生）

パネルディスカッション「薬学部設置の必要性を考える：薬剤師確保による多方面への効用」

- ・泰川 恵吾（ドクターゴン診療所院長）
- ・米須 義明（沖縄県商工会連合会会長）
- ・渡部 一宏（昭和薬科大学理事長）
- ・井上 隆弘（厚生労働省医薬局総務課国際医薬審査情報分析官）
- ・糸数 公（沖縄県保健医療部長）
- ・前濱 朋子（沖縄県薬剤師会会長）

関連イベント

- ・子ども調剤体験
- ・薬剤師の業務紹介（パネル展示）
- ・大学薬学部による進学相談会

2 地域医療提供体制対策

地域包括ケアシステムを基盤とした地域医療や保健等の提供体制における「患者のための薬局ビジョン」の実現に向けた薬局のあり方に係る「地域や病院（行政や他医療職種および病院薬剤師等）との連携に係る事業の企画」「かかりつけ薬局・薬剤師を基盤とする健康サポート薬局、地域連携薬局・専門医療機関連携薬局といった薬局の理念、機能を発揮できる環境整備のための各種施策の検討や実施」を行った。薬剤師が本来の役割を果たし、地域の患者を支援するための患者本位の医薬分業を実現するため、以下の事業を行った。

(1) 薬業連携会議の開催（薬業連携及び医療従事者間の連携事業推進）

令和6年2月25日に県内広域病院薬局長、各地区薬剤師会長、本会会長・副会長・常務理事及び薬業連携担当者が参加し、薬業連携会議を開催した。テーマを「疑義照会簡素化プロトコル」とし、事例紹介を那覇市立病院薬剤科薬剤科長の金城雄一氏、豊見城中央病院薬剤科科長代行大城匡史氏が行った。各病院薬剤師、薬局薬剤師向けのアンケートを行い、地域医療提供体制対策委員会の西川裕氏がアンケート結果を発表した。各地域に分かれディスカッションを行うことができた。

(2) 健康サポート薬局に係る研修

昨年度に引き続き、健康サポート薬局届け出数の増加を目的とし、それをめざす会員の便に供するために同研修会を令和5年度は2回開催した。

○健康サポートのための多職種関連研修会

開催日：令和5年8月13日 参加者14名

開催日：令和6年3月24日 参加者15名

○健康サポートのための薬剤師の対応研修会

開催日：令和5年8月13日 参加者14名

開催日：令和6年3月24日 参加者7名

○令和5年度地域連携薬局・専門医療機関連携薬局・健康サポート薬局に関する研修会

開催日：令和6年1月25日 参加者：現地16名 WEB参加：30名

○無菌調剤共同利用施設の活用に関する研修会

開催日：令和6年2月1日 参加者5名

(3) 訪問薬剤管理指導推進事業の実施

○同行訪問 講師5名が同行研修を行った。

講師：久手堅 奈央：2回、石田 浩：3回、上原 卓朗：1回、

枅井 亮太：1回、喜友名 朝史：3回

○多職種連携会議への派遣

多職種連携会議・多職種コンソーシアム実践研修会へ薬剤師の派遣をした。

（助言者：中塚 泰子、副助言者：後藤 彬宏、米倉 美帆）

○在宅訪問薬剤師座学研修会

「在宅訪問の現場で活かせるバイタルサインの臨床推論」

講師：入江 聡五郎医師（社会医療法人松藤会 入江病院）

開催日：令和6年2月11日 参加者：10名

「褥瘡の基本と使用薬剤について」

講師：久場 良吾医師（ろかい在宅クリニック院長）

開催日：令和6年2月16日 参加者：7名 WEB参加者：25名

「ケアマネジャーが在宅医療において薬剤師に求めること」

講師：中山 哲郎（合同会社Reさぼっと代表）

遠藤 賢吾（有限会社はっぴー 事務長・介護支援専門員）

松川 浩也（合同会社UNIVERSEケアプランセンター）

新垣 俊（介護支援センターさんだん花）

開催日：令和6年3月7日 参加者：20名

○在宅訪問薬剤師連携講習会

令和5年11月22日に、宮古地区で在宅訪問薬剤師座学研修会を行った。在宅・訪問看護の実情を知り、現地の看護師と薬剤師が連携できた。今後は情報共有の必要性があることも実感した。令和6年3月4日に沖縄県内各地域で活躍しているケアマネジャー3名とWEB会議で意見交換を行い、多職種連携の強化に繋がった。

「訪問薬剤師連携講習会in宮古島」

開催日：令和5年11月22日 参加者：4名

講師：石田 浩（地域医療提供体制対策委員会委員）

上原 卓朗（地域医療提供体制対策委員会委員）

右田 秀生（沖縄県介護支援専門員協会 宮古支部 支部長）

仲真 晶美（宮古島地区訪問看護ステーション連絡協議会 会長）

「ケアマネジャーと多職種連携会議」

開催日：令和6年3月4日

参加者：中山 哲郎（ケアマネジャー 合同会社Reさぼっと代表）

遠藤 賢吾（ケアマネジャー 居宅介護支援事業所はっぴー）

新垣 俊（ケアマネジャー 介護支援センターさんだん花）

喜友名 朝史（地域医療提供体制対策委員会）

盛本 直也（地域医療提供体制対策委員会）

石田 浩（地域医療提供体制対策委員会）

(4) その他

○日本薬剤師会第8次医療計画及び地域医薬品提供体制に係る全国会議

参加者：西川 裕、盛本 直也 開催日：令和5年5月8日

○沖縄県医療提供体制協議会「令和5年度第1回小児医療部会」

参加者：石田 浩 開催日：令和5年6月7日

○令和5年度第1回沖縄県医療提供体制協議会

参加者：阿部 義則専務理事 開催日：令和5年7月19日

○令和5年度第2回沖縄県医療提供体制協議会「新興感染症等医療部会」

参加者：阿部 義則専務理事 開催日：令和5年9月6日

○沖縄県医療提供体制協議会「令和5年度第2回小児医療部会」

参加者：石田 浩 開催日：令和5年9月21日

○令和5年度 久米島における訪問薬剤師の実情についてWeb会議

開催日：令和5年9月25日

参加者：喜友名 朝史、盛本 直也（WEB参加）、山城 晶（WEB参加）

○令和5年度第2回沖縄県医療提供体制協議会「在宅医療部会」

参加者：盛本 直也 開催日：令和5年10月25日

○令和5年度第3回沖縄県医療提供体制協議会新興感染症等医療部会

参加者：阿部 義則専務理事 開催日：令和5年11月17日

○令和5年度第3回県医療提供体制協議会新興感染症等医療部会

参加者：阿部 義則専務理事 開催日：令和5年11月21日

○沖縄県医療提供体制協議会「令和5年度第3回小児医療部会」

参加者：石田 浩 開催日：令和5年11月21日

○令和5年度第3回沖縄県医療提供体制協議会「在宅医療部会」

参加者：盛本 直也 開催日：令和5年12月6日

3 生涯学習

(1) 令和5年度第1回沖縄県薬剤師研修協議会主催講演会

令和5年7月30日、県薬剤師会館およびWEBで開催し、「ビッグデータ・DXを活用した臨床業務・研究・教育の実践と地域貢献への展望」という演題で、岡山大学病院薬剤部教授・薬剤部長の座間味義人氏にご講演いただいた。63名（現地22名、WEB41名）の参加があった。ビッグデータ・DXを活用した薬剤師業務のほか、高度救命救急センターにおける薬剤師業務、地域医療への貢献、今後の薬学研究の展望など多岐にわたるテーマでご講義をいただき、密度の濃い講演会であった。

(2) 新任・新人薬剤師研修会

令和5年8月11日に県薬剤師会館およびWEBで開催し、36名（現地14名、WEB22名）の参加があった。「薬薬連携」に代わって、今年度は「薬剤師による在宅患者訪問服薬支援」を新たなテーマとし、すこやか薬局管理薬剤師の石田浩氏にご講義いただいた。また、「医薬品情報業務」と「薬歴の書き方」については、前年に引き続き薬事情報委員会の石井秀典氏と琉球大学病院薬剤部の池村憲明氏にご講義いただいた。

上記講義後は、県薬剤師会の4部会の部会紹介が行われた。行政薬剤師部会は沖縄県保健医療部衛生薬務課の宮城隼人氏、学校薬剤師部会は知名博樹副部会長、女性薬剤師部会は高木英子氏、青年薬剤師部会は喜友名朝史部会長が各部会の活動内容について説明を行った。

本研修会は新任・新人の方に限らず大変勉強になる充実した内容になっているので、次年度以降も会員に広く案内を行っていききたい。

(3) COVID-19治療薬処方箋応需薬局における感染対策研修会

令和5年8月25日に県薬剤師会館およびWEBで開催し、73名（現地8名、WEB65名）の参加があった。

コロナの5類への移行後、外来・在宅治療への移行が進み、抗ウイルス薬の院外処方、保険薬局における応需が拡大すると予測されることから、本研修会は薬局における感染対策等について、①すでにCOVID-19 処方箋を応需している薬局や医師の取り組みを紹介し、さらに、②参加者が疑問や不安を出して、それらに対して専門家からアドバイスをもらう、という講義と質疑応答形式で企画された。アドバイザーとして、琉球大学病院感染対策室室長の仲松正司氏をお招きし、ご講義もいただいた。専門家による実践的内容を含む講義は、大変参考になるものであった。質疑応答では、薬局での環境整備について具体的な質問が多数あったが、仲松氏からそれぞれにアドバイスをいただくことができ、大変貴重な研修会となった。

(4) 吉田武美先生特別講演会

令和5年8月31日に県薬剤師会館およびWEBで開催し、52名（現地9名、WEB43名）の参加が

あった。

講師の吉田武美氏は、昭和大学薬学部毒物学教室教授を退任後、公益社団法人薬剤師認定制度認証機構の理事、代表理事を歴任し、現在は同機構の顧問を務めており、そうしたご経歴ならではのお立場から、「薬物療法の発展とその安全性を担う薬剤師の生涯学習の充実—ジェネラリストから専門性への展開へ—」という演題でご講演いただいた。

(5) 令和5年度第2回沖縄県薬剤師研修協議会主催講演会

(日本薬剤師研修センター研修会開催支援業務)

令和5年10月8日、県薬剤師会館およびWEBで開催し、「現場で活かせる医薬品情報のサイエンス～薬物動態と薬物相互作用を中心に～」という演題で、慶應義塾大学薬学部・医学部教授の大谷壽一氏にご講演いただいた。85名（現地16名、WEB69名）の参加があった。はじめに、薬の添付文書について、「すべて正しいのか」「記載がないことについては気を配らなくていいのか」などの問いかけがあり、薬剤師には「科学」を読み解き「薬剤業務に活かす力」が求められているというお話があった。その後、医薬品情報の薬物動態の捉え方、活かし方についての講義では、具体例を挙げて解説をいただき、現場での実践に活かしやすい有意義な講演会であった。

(6) 第36回沖縄県薬剤師会学術大会

令和5年11月12日に県薬剤師会館およびWEBで、「アフターコロナ 新時代！」をテーマに開催し、173名（現地112名、WEB61名）の参加があった。久場川愛大会実行委員が司会を務め、はじめに中村克徳大会副会長の開会の辞、前濱朋子大会長の挨拶があった。

会員発表は午前の部と午後の部の2部構成で、それぞれ春田崇彰大会実行委員と吉田典子大会委員が座長を務め、保険薬局と県薬剤師会の各部会から8演題、病院薬剤師関連から8演題の合計16演題が発表された。

今年はコロナ禍を経て4年ぶりの現地開催となり、特別講演とランチョンセミナーも開催された。ランチョンセミナーでは、「がん疼痛マネジメントー最近の話題」というテーマで、琉球大学病院地域・国際医療部 緩和ケアセンター診療教授の中島信久氏に、特別講演では、「ツインデミック時代における抗ウイルス薬と抗菌薬の選択」をテーマに、琉球大学大学院医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科学講座教授の山本和子氏に大変有意義なご講義をいただいた。また、機器展示及び広告等で合計14社に協賛をいただき、大会を盛り上げていただいた。

潮平英郎大会実行委員長による閉会の辞で大会はいったん幕を閉じたが、引き続き懇親会が開かれ、演題発表認定証授与式ならびに奨励賞授与式が執り行われた。大会奨励賞は、『『ココロの健康教育』学校における生活安全講話～薬物乱用防止教室編～』の演題で発表した学校薬剤師部会の知名博樹氏と、「沖縄県産植物に含まれるシキミ酸の定性的分析方法の確立」の演題で発表した琉球大学病院の菊山史博氏が受賞した。

(7) 令和5年度第3回沖縄県薬剤師研修協議会主催講演会

(日本薬剤師研修センター研修会開催支援業務)

令和5年12月10日、県薬剤師会館およびWEBにて開催し、「小児薬用量設定の基本となる薬物動態の知識」という演題で、群馬大学医学系研究科臨床薬理学分野教授の山本康次郎氏にご講演いただいた。89名（現地18名、WEB71名）の参加があった。成人用に開発された医薬品の成分が小児に対しても有効であると期待できる場合、用量はどのように決めたらいいのか、「薬物クリアランス」「分布容積」をキーワードに紐解いていただき、薬物動態学の基本的な考え方を改めて学べる講演会であった。

4 医療安全対策

(1) 医療安全講習会を開催

日時：令和6年2月12日（月祝）13：00～14：45 会場：沖縄県薬剤師会会館ホール

参加：144名（会場34名、Web110名）

「クレーム対応の基本～最近のクレーム事情から予防まで～」

講師：株式会社 iMus 代表取締役 安田 幸一

(2) DEM（薬剤イベントモニタリング）事業

調査期間：令和6年2月1日（木）～2月29日（木）

(3) 高度管理医療機器販売等に係る継続研修会

医療機器販売等の営業所管理者・医療機器修理業の責任技術者に対する継続研修（Web開催）

受講期間：令和5年12月1日（金）～12月7日（木）受講者数：251名

(4) 新型コロナウイルス感染症対策関連

ア 新型コロナウイルスワクチン専門電話相談事業（沖縄県委託業務）

沖縄県の受託により令和3年3月15日より事業開始、令和6年3月31日をもって終了。

相談員：延べ506人 ・調査件数：132件 ・質問者数：39人

＊これまでの総調査件数：3,573件

イ 研修会開催

新型コロナウイルス感染症 薬剤師向け勉強会（災害対策委員会・薬事情報員会企画）

日時：令和5年10月12日（木）19：30～21：00 会場：沖縄県薬剤師会館ホール

参加：107名（会場15名、Web92名）

＜プログラム＞

「COVID-19 診療の手引き改訂に伴う抗ウイルス薬の使い分けについて」

講師：おもろまちメディカルセンター 薬剤部 糸嶺 達

「沖縄県の疫学情報と軽症者治療の考え方」

講師：沖縄県立中部病院感染症内科・地域ケア科 副部長 高山 義浩

ウ 医療用抗原定性検査キット販売薬局の案内窓口設置

県民が近隣の薬局で医療用検査キットを入手できるよう令和4年12月28日に薬事情報センターに案内窓口を設置した。 ・問い合わせ件数：138件

(5) 市販薬の過剰摂取（オーバードーズ）防止の普及啓発事業（沖縄県委託業務）

令和6年2月16日より事業開始、令和6年3月31日をもって終了。

＜内容＞普及啓発資材（リーフレット・ポスター・動画）の製作。

① リーフレット：20,000部 ② ポスター：1,000部

※①、②は教育委員会（学校等）、薬局等へ配布

③ 啓発動画：約2分 mp4 形式

5 医療保険

令和5年度に実施された指導は、九州厚生局による新規個別指導25件、個別指導0件、集団的個別指導41件、集団指導（新規指定）26件、集団指導（新規登録）77名、集団指導（更新時）51件であり、厚生労働省による特定共同指導は1件であった。

新型コロナウイルス感染症関連では、薬局における自宅療養等の患者に対する薬剤交付支援事業を厚生労働省から委託され実施し、全保険薬局に新型コロナウイルス感染症の自宅療養及び宿

治療費の患者に対して、薬局から患者宅等に薬剤を配送する場合の配送料を支援する事業の周知・対応を行った。同事業の対応薬局数は8薬局、対応件数78件、補助金額337,780円であった。また、同感染症に係る診療報酬上の臨時的な取扱いや、調剤報酬に関連する通知が発出された際には、その都度、全保険薬局にFAX一斉同報および本会ホームページにて周知した。

医療DX関連では、日本薬剤会から薬局として取り組む5つの事項（電子処方箋への対応、オンライン服薬指導への対応、電子お薬手帳への対応、マイナ保険証の利用促進、サイバーセキュリティ対策）が示され、薬局向けの説明動画を作成し、本会ホームページにて公表した。

おきなわ電子おくすり手帳関連では、国の電子版お薬手帳ガイドラインに基づく「実装すべき機能」に関する要件を満たしていないことが明らかになり、その対応について約1年間協議を重ね、本会理事会での厳正な審議の結果、おきなわ電子おくすり手帳を廃止し、要件を満たしている日本薬剤師会のeお薬手帳3.0へ移行することが決議・決定された。

調剤報酬に伴う薬局業務に必要な書類等の整備では、本会ホームページに掲載されている薬局揭示物等の整理を今後も継続して実施する。

6 保健福祉

(1) 健康とおくすり相談会等の薬剤師の予防医療に関わる事業

令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症へ移行となり、健康とおくすり相談会を通常通りの体制で再開した。計5回開催し、延べ37名の会員が相談員として参加、計224名の相談者に対応した。参加した会員には、かかりつけ薬剤師の届け出要件の一つである地域貢献事業の参加に該当することを証明する参加証を発行した。

(2) 自殺予防・対策事業

平成10年に3万人を超えた全国の自殺者も平成18年には自殺対策基本法が制定され様々な事業が全国で展開される中、平成23年には14年ぶりに3万人を切り、令和元年まで20,169人と減少してきた。しかし、令和3年は21,007人、令和4年は21,584名、令和5年は21,818名（暫定値）となっており、コロナ禍前と比べ増加している現状がある。

これらのことから沖縄県自殺対策連絡協議会は、引き続き関係機関と連携し自殺対策に取り組むことになっている。

本会では、今年度も「気づき」「傾聴」「つなぐ」「見守る」ことを修得し、薬剤師としてのスキルアップを目的に、令和6年3月10日に沖縄県地域保健課精神保健班の酒向摩貴子氏、ぎのわんメンタルクリニック院長の道下聡先生を講師に招き、ゲートキーパースキルアップ研修会を開催した。参加者は54名（現地4名、Zoom50名）であった。

最後に例年のように9月と3月に、国や県が制作した啓発ポスターを会員薬局に配付し、自殺予防広報を行った。

(3) 薬剤師認知症対応力向上研修

平成28年度から沖縄県の委託事業として行っている。令和4年度から、薬学的管理を適切に行い、認知症の人への支援体制構築の担い手となるためにテキストが改訂され、カリキュラムも変更となった。研修会は9月17日に現地とZoomのハイブリッドにて開催した。参加者は61名（現地7名、Zoom54名）であった。これにより、延べ611名の薬剤師が研修し、修了者には沖縄県より修了証が発行されている。

(4) 禁煙事業について

沖縄県薬剤師会、全国健康保険協会沖縄支部、沖縄県保健医療福祉事業団の3団体により、

5月31日から全国健康保険協会沖縄支部に加入する「うちなー健康経営宣言事業所」の被保険者で禁煙を希望する従業員を対象に事業所で取り組む禁煙サポート事業を実施した。今年度は、29薬局が支援薬局として登録され、18社の事業所から69名の従業員が参加した。この取り組みにより17名の従業員が禁煙に成功した。

(5) 地域ケア会議

平成30年度より全面実施の運びとなっている地域包括ケアに基づいた地域ケア会議において、薬剤師は“専門職アドバイザー、助言者”として参加が要請される。

沖縄県内における当事業の専門職アドバイザーの養成のための講習会は、沖縄県理学療法士協会が県より委託を受けた事業を行っており、当会は当初よりこの協力団体の一つとなっている。令和5年度もこれらの事業の研修会（多職種コンソーシアム実践研修会：令和5年12月3日 ハイブリッド開催）に助言者及び副助言者を派遣した。同研修会は、一昨年度より中央型から地域型へと変革されており、地域の市町村から委託を受けた各団体が出向き、活動する方向性となっている。

(6) 緊急避妊薬関連

令和5年12月23日に、予期せぬ妊娠を防ぎたい女性が安心・適切に緊急避妊薬にアクセスできる体制を構築するためオンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会をハイブリッド形式で開催した。参加者は47名（現地4名、Zoom43名）であった。これにより、厚生労働省のウェブサイトにも緊急避妊薬の在庫を備蓄し、対応が可能な薬局として50薬局、110名の薬剤師が掲載された。

また、緊急避妊薬のスイッチOTC化の課題への対応策の選択・採否にあたり、一部の薬局での試験的運用を通じて、より多くのデータ・情報の集積が望ましいとされ、11月28日から日本薬剤師会が厚生労働省からの委託を受け、緊急避妊薬販売に係る環境整備のための調査研究事業が全国50モデル145薬局で開始された。沖縄県では那覇市内の2薬局を本会にて選定し、事業開始日から令和6年3月末まで129個の販売実績があった。同事業は今年度も継続事業であり、令和7年3月末まで実施される。

(7) くすりと健康フェア

薬と健康の週間期間中に本会にて健康とおくすり相談会、こども調剤体験を開催した。健康とおくすり相談会には約40名の来場者が訪れ、血圧測定、体成分測定、骨密度測定、動脈硬化測定を行い、最後にお薬相談コーナーにて薬剤師による測定結果などへの指導助言を行い終了した。

こども調剤体験は、小学生から高校生まで37組（70名以上）の来場があり、こども用の白衣を着用して薬剤師に関するクイズや調剤体験、投薬体験を実施し、薬剤師の職能を知ってもらうきっかけになったと考える。さらに、薬学部に進学を希望している方も来場され、実際にどのような勉強をすればよいか等、薬剤師と意見交換する場も見受けられた。

また、同週間に係る動画を沖縄県薬剤師会のYouTubeアカウントにて公開した。この動画を視聴することで、薬局・薬剤師の役割や活用方法、感染症に対する正しい消毒方法等を理解していただけたのではないかと考える。

同フェアでの、かかりつけ薬剤師・薬局、薬剤師職能をPRすることは県民の健康増進や薬剤師不足の解消に向けて大変意義があることであり、今後も沖縄県と連携して実施していきたい。

7 薬学生実務実習受入

実習生受け入れ14年目になるこの年は、13大学より1期18名、2期26名、3期5名、合計49名の実

習受入を行った。大学の内訳は以下の通りである。第一薬科大学4名、九州保健福祉大学5名、福岡大学5名、長崎国際大学13名、崇城大学4名、徳島文理大学2名、山口東京理科大学2名、神戸薬科大学1名、広島国際大学5名、武蔵野大学1名、国際医療福祉大学福岡薬学部4名、安田女子大学2名、岐阜医療科学大学1名。

認定実務実習指導薬剤師養成のための講座は、新規2回、更新2回開催し、認定実務実習指導薬剤師の養成のためのワークショップへは8名派遣した。

8 災害支援対応

第8次沖縄県医療計画に災害薬事コーディネーターが明記され、沖縄県から災害薬事コーディネーター養成研修会業務を受託し、2月4日に本会では初となる沖縄県災害薬事コーディネーター養成研修会を開催した。同研修会には、各地区薬剤師会、沖縄県病院薬剤師会、沖縄県から24名の薬剤師が参加し、災害時の医療救護活動に必要な専門知識やスキルを習得し、能力の向上を図った。これにより、災害発生時に迅速で適切な医療支援が提供されることが期待される。今後も県と連携しながら養成およびスキルアップ研修会を開催する。

新型コロナウイルス感染症関連の対応では、令和5年5月8日から感染症の位置づけが5類感染症へ移行したが、県民が近隣の薬局で体外診断用医薬品または第1類医薬品の検査キットを入手できるよう、販売薬局一覧を昨年度に引き続き本会ホームページにて公表した。また、沖縄県及び県内離島町村から新型コロナウイルスワクチン接種会場におけるワクチン充填業務の派遣依頼があったため、以下のとおり薬剤師の派遣を行った。

【11月】座間味村 派遣日数：2日 派遣人数：1人

【12月】渡嘉敷村 派遣日数：1日 派遣人数：1人

保険薬局向けの業務継続計画（BCP）について、災害時の薬局業務継続計画と新型インフルエンザ等発生時における薬局業務継続計画の検討を行い、保険薬局向けのひな型および作成の手引き等を作成した。

1月27日には、令和5年度九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練が沖縄県にて開催され、本会も沖縄県災害医療本部の一員として初めて参加し、想定被害を基に保険薬局の被災状況の把握、報告を行い、医薬品の供給体制を整える役割を担った。

最後に、1月1日に発生した能登半島地震への対応については、沖縄県医師会から依頼がありJMATの一員として1月7日から会員をいち早く派遣した。同時にJMAT携行医薬品の準備の依頼もあり、医薬品卸業各社の協力を得て、医師会へ受け渡すことができた。

1月9日以降に、日本薬剤師会および福岡県薬剤師会からの要請を受け、被災地への派遣薬剤師を募集した。1月25日から29日まで1人、2月6日から10日まで1人、2月9日から13日まで3名、計5名の会員を被災地へ派遣し、現地の避難所での調剤をメインに救護活動等を行った。また、1月17日から3月末日まで、被災地の方々への義援金の募集を本会にて行い、多くの会員、薬局従業員、保険薬局、関係団体等から合計2,609,775円の寄附が寄せられた。

9 部会活動

(1) 学校薬剤師部会

ア 令和5年度学校薬剤師部会新人研修会

令和5年4月16日 沖縄県薬剤師会館及びWeb 講師：新垣紀子、知名博樹、上原卓郎
参加者54名（現地29名、Web 25名）

- イ 令和5年度学校環境衛生・安全管理講習会
令和5年5月18日 沖縄県立総合教育センター 講師派遣：長瀬涼
- ウ 第50回学校薬剤師部会総会
令和5年7月2日 沖縄県薬剤師会館及びWeb
- エ 令和5年度学校薬剤師部会主催研修会
令和5年7月2日 沖縄県薬剤師会館及びWeb 講師：知名博樹、上原卓郎、大城晴子
参加者42名（現地24名、Web18名）
- オ 令和5年度全国学校保健調査 WEB版
令和5年8月～11月
項目：2022年度の飲料水について
- カ 令和5年度第1回・第2回薬学実務実習生向け学校薬剤師説明会
第1回 令和5年4月6日 沖縄県薬剤師会館 講師：知名博樹
第2回 令和5年7月11日 沖縄県薬剤師会館 講師：知名博樹
- キ 令和5年度新任・新人薬剤師研修会（WEB）
令和5年8月11日 沖縄県薬剤師会館 講師派遣：知名博樹
- ク 第81回九州山口薬学大会 令和5年9月23日・24日
学校薬剤師協議会運営委員会 出席者：新垣紀子、知名博樹
- ケ 令和5年度第73回全国学校薬剤師大会（ザ・マーカススクウェア神戸）
令和5年10月26日 出席者：前濱朋子、新垣紀子、知名博樹
- コ 令和5年度学校環境衛生・薬事衛生研究協議大会（神戸市）
令和5年10月26日・27日 出席者：新垣紀子、知名博樹
- サ 第35回沖縄県薬剤師会学術大会（学校薬剤師部門）
令和5年11月12日 演題発表者：知名博樹
- シ 令和5年度学校薬剤師部会九州ブロック連絡会議
令和6年1月20日 佐賀県薬剤師会
出席者：前濱朋子、新垣紀子、知名博樹
- ス 「薬物乱用防止教室での講師派遣」（分野：オーバードーズの危険性について）
令和5年7月12日 沖縄県立中部商業高等学校 講師派遣者：知名博樹
- セ 令和4年度学校薬剤師部会役員会及び支部長会の開催
第1回学校薬剤師部会役員会 令和5年4月16日（日）10名参加
第2回学校薬剤師部会役員会 令和5年5月28日（日）7名参加
第3回学校薬剤師部会役員会 令和5年6月18日（日）6名参加
第4回学校薬剤師部会役員会及び第1回学校薬剤師支部長会
令和5年7月2日（日）14名参加
第5回学校薬剤師部会役員会 令和5年8月12日（土）4名参加
第6回学校薬剤師部会役員会 令和5年9月3日（日）5名参加
第7回学校薬剤師部会役員会 令和5年10月27日（水）5名参加
第8回学校薬剤師部会役員会及び第2回学校薬剤師支部長会
令和5年11月19日（日）9名参加
第9回学校薬剤師部会役員会 令和5年12月22日（水）4名参加
第10回学校薬剤師部会役員会 令和6年1月13日（土）3名参加

第11回学校薬剤師部会役員会及び第3回学校薬剤師支部長会
令和6年2月23日（金）9名参加
第12回学校薬剤師部会役員会 書面による決議

(2) 女性薬剤師部会

ア 女性薬剤師部会 総会

令和5年6月4日（日） 沖縄県薬剤師会館ホール 参加者：8名

イ 「緊急避妊および緊急避妊薬について」

令和5年6月4日（日） 沖縄県薬剤師会館ホール 参加者：59名

講師 草壁瑞恵 女性薬剤師部会部会長

ウ 「法廷通訳人登録50年の薬剤師が関わった薬物事件」

令和5年6月4日（日） 沖縄県薬剤師会館ホール 参加者：59名

講師 金城初美 法廷通訳人・薬剤師

エ 「乳児の薬物動態と服薬指導」

令和5年7月23日（日） 沖縄県薬剤師会館ホール 参加者：43名

講師 平井聖司 薬剤師 琉球大学医学部5年生

オ 「妊娠・授乳とくすりの基礎講座その3 ・ ワクチン接種応用編」

令和5年11月19日（日） 沖縄県薬剤師会館ホール 参加者：79名

講師 大畑尚子 沖縄県立中部病院

カ 「女性と漢方」

令和6年1月28日（日） 沖縄県薬剤師会館ホール 参加者：78名

講師 中野博 ツムラ医薬マーケティング部教育研修課

キ 「薬剤師継続学習通信教育講座スクーリング」

令和6年2月18日（日） 沖縄県薬剤師会館ホール 参加者：25名

「便秘-排便コントロールで心地よい生活を」

講師 諸喜田林 北部地区医師会病院 院長

「肺炎-市中肺炎と院内肺炎、医療・介護関連肺炎」

講師 金城武士 琉大病院 医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科学

「膝・股関節の痛み リハビリ・薬・人口関節」

講師 山内裕樹 同仁病院 院長 整形外科部長

「自閉症スペクトラム症と自閉症 ～個性の尊重と社会支援～」

講師 島袋盛洋 田崎病院 院長

ク 「女性ホルモンと一生 ～漢方薬が女性に対して出来ること～」

令和6年3月24日（日） 沖縄県薬剤師会館ホール

講師 高宮城直子 Naoko女性クリニック 院長

ケ 那覇市乳幼児健診でのおくすり相談

那覇市ともかぜ振興会

のべ参加者：44名

令和5年4／14、5／19、6／9、7／21、8／4、9／8、10／20、11／10、12／8、

令和6年1／19、3／2

午前9：00～12：00 午後13：00～16：00

浦添市乳幼児健診でのおくすり相談

浦添市保健相談センター

のべ参加者：48名

令和5年4／30、5／28、6／25、7／30、8／27、9／17、10／15、11／19、12／24、
令和6年1／28、2／25、3／10

午前9：00～12：30 午後13：00～16：30

コ 役員会 令和5年 7月12日（水）、9月27日（水）、
令和6年1月28日（水）、2月5日（月）、3月6日（水）

サ その他

「緊急避妊薬販売に係るモデル的調査研究に関する説明会」 草壁瑞恵

令和5年7月31日 沖縄県薬剤師会館ホール

「新人研修会 女性薬剤師部会の説明」 高木英子

令和5年8月13日 沖縄県薬剤師会館ホール

「乳幼児健診において薬剤師が貢献できる事をめざして」 高木英子

令和5年11月12日 沖縄県薬剤師会学術大会で発表

「日本女性薬剤師会 会長会」 令和6年2月4日 草壁瑞恵 参加

「日本女性薬剤師連盟JPLフォーラム」 令和6年2月18日 與儀和子 参加

那覇市保健所令和6年度乳児検診調整会議 草壁、與儀、狩俣、高木、

「ミニ薬草園」の手入れ 與儀和子

「身近な薬草を知ろう」 おきなわ薬剤師会報の執筆 狩俣イソ

(3) 青年薬剤師部会

ア 令和5年度青年薬剤師部会役員会

第1回：令和5年9月6日（日） 沖縄県薬剤師会館

第2回：令和5年10月25日（日） 沖縄県薬剤師会館

イ 第18回青年薬剤師部会総会・特別講演会

令和5年7月22日（日） 沖縄県薬剤師会館

講師：古謝玄太副会長 平井聖司（琉球大学医学部医学科 薬剤師）

ウ 令和5年度青年薬剤師部会主催入会促進バーベキュー

令和5年12月18日（日） 美々ビーチ糸満 参加者36名

エ 令和6年度九州山口若手薬剤師協議会

令和6年3月16日（土） 参加者 石井秀典

(4) 病院診療所薬剤師部会

ア 沖縄県病院薬剤師会 第52回 通常総会

令和5年6月3日（土） 18:00～20:00 ハイブリッド開催

【セッション①】18:00-19:00

「腸管不全児治療における薬剤師の役割」

座長：地方独立行政法人那覇市立病院 薬剤科 薬剤科長 金城 雄一

演者：鹿児島市立病院 薬剤部 主査 瀬戸口 誠

【セッション②】19:00～20:00

「日本病院薬剤師会・令和6年度診療報酬改定要望事項の解説と展望」

座長：琉球大学病院 薬剤部 教授・薬剤部長 中村 克徳

- 演者：京都大学医学部附属病院 薬剤部 教授・薬剤部長 寺田 智祐
- イ 沖縄県薬剤師会 令和4年度新任・新人薬剤師研修会
令和5年7月6日（日）13:00～17:10 ハイブリッド開催
・薬歴の書き方について 琉球大学病院 薬剤部 池村 憲明
- ウ 第36回沖縄県薬剤師会学術大会
令和5年11月12日（日）10:30～17:00 ハイブリッド開催
会員発表（病院薬剤師関連部門）：6 演題

(5) 卸勤務薬剤師部会

【学会等参加】

- ア 令和5年4月21日 日本医薬品卸勤務薬剤師会理事会（東京都）：参加者1名
- イ 令和5年5月17日 日本医薬品卸勤務薬剤師会九州ブロック総会・協議会：参加者1名
- ウ 令和5年6月2日 日本医薬品卸勤務薬剤師会沖縄県支部理事会・総会
- エ 令和5年7月（7/3～7/31）日本医薬品卸勤務薬剤師会「研修会」プログラム
「新しい薬学臨床教育～真に社会に貢献する薬剤師の育成をめざして～」
- オ 令和5年9月14日 日本医薬品卸勤務薬剤師会臨時役員会
- カ 令和5年9月16日17日 第56回日本薬剤師会学術大会（和歌山）：参加者1名
- キ 令和5年9月23日・24日 九州・山口薬学大会（長崎県）：参加者1名
- ク 令和5年10月25日 日本医薬品卸勤務薬剤師会研修会（WEB）「GDP社会実装の現状と実例」
- ケ 令和5年11月12日 沖縄県薬剤師会学術大会（沖縄県）：参加者5名
- コ 令和5年12月21日 日本医薬品卸勤務薬剤師会部会研修会（ハイブリット）：参加者：1名
「厚生労働省の医療DX政策について」「これからの薬局薬剤師が目指すもの」
「薬事を巡る最近の動向及び医薬品卸業への期待」
- サ 令和6年1月18日 日本医薬品卸勤務薬剤師会 2023年度 フォーラム
- シ 令和6年1月26日 日本医薬品卸勤務薬剤師会沖縄県支部 臨時理事会 研修会

【九州ブロック；継続研修会】

- ・第1回 令和5年11月15日（WEB）主催：熊本県支部：参加者9名
「災害時、薬剤師支援活動と医薬品供給」—医薬品卸との協力体制について—
- ・第2回 令和5年12月13日（WEB）主催：福岡県支部：参加者8名
「喘息治療における吸入療法とバイオ製剤使用の留意点」
- ・第3回 令和5年12月14日（WEB）主催：宮崎県支部：参加者8名
「職場の良好な人間関係を保つひとつの考え方」
- ・第4回 令和6年1月16日（WEB）主催：長崎県支部：参加者10名
「電子処方箋について」
- ・第5回 令和6年1月26日（現地&WEB）主催：沖縄県支部：参加者9名
「認知症診療update～レケンビ適正使用について～」
- ・第6回 令和6年2月15日（WEB）主催：大分県支部：参加者5名
「関節リウマチ」
- ・第7回 令和6年2月21日（WEB）主催：鹿児島県支部：参加者5名
「薬剤師さんに知って欲しい皮膚科のお話」
- ・第8回 令和6年3月13日（WEB）主催：佐賀県支部：参加者6名

「婦人科アスリート外来医師による 婦人科疾患」

【抗インフルエンザ・衛生資器材 在庫報告】 5 社

【実務実習薬学生受入】 4 社29名

【委員会への参加】 理事 災害対策、地域保健、医療安全対策、学術、医療情報 など

(6) 行政薬剤師部会

ア 令和5年11月24日 沖縄県薬剤師会入会促進説明会・懇親会

イ 令和6年3月19日 行政薬剤師部会連絡会・懇親会

10 その他関連事業

- (1) 「薬と健康の週間」事業（10月17日～10月23日）
- (2) 各種関連協議会への参加協力
- (3) 関連機関団体との協議及び懇談
- (4) 関係行政当局との定期的連絡協議会
- (5) おきなわ薬剤師会報の発行
- (6) 薬剤師求人求職斡旋事業・薬剤師確保対策事業
- (7) 日本薬剤師会賠償責任保険・個人情報漏えい保険等の加入促進
- (8) 公共関連機関団体等への寄附

- ・日本薬剤師会 令和6年能登半島地震義援金
- ・沖縄県薬剤師会 令和6年能登半島地震義援金
- ・沖縄県交通遺児育成会募金 など

(9) 国・沖縄県関係事業

ア 受託事業

- ・厚生労働省薬剤交付支援事業
- ・沖縄県新型コロナウイルスワクチン専門相談コールセンター運営業務
- ・沖縄県薬剤師奨学金返還助成制度委託事業
- ・沖縄県市販薬の過剰摂取（オーバードーズ）防止の普及啓発業務
- ・沖縄県薬剤師認知症対応力向上研修事業
- ・「薬と健康の週間」運営等業務委託

イ 補助事業（沖縄県地域医療介護総合確保基金）

- ・薬剤師確保対策事業
- ・訪問薬剤管理指導推進事業
- ・認定薬剤師育成支援事業
- ・救急医療対応薬局体制確保事業

令和5年度 試験検査センター事業報告

I. 医薬品検査について

1) 計画的試験

* 令和5年度の計画的試験検査については、試験検査センター委員会の手承を得て、1) d1-エフェドリン塩酸塩の定量試験、2) 漢方薬の細菌試験を実施した。

検体の提出は129検体であった。

また、漢方薬の細菌試験については第18改正日本薬局方「参考情報」を結果判定の参考とした。

検査対象	検査項目	検体数
d1-エフェドリン塩酸塩	定量試験	17
漢方薬	細菌試験	112
		129

2) 令和5年度登録試験検査機関技能試験（厚生労働省）

* 国立医薬品食品研究所より検体及び試験法が配布され、下記の試験を行った。

* ウルソデオキシコール酸錠の定量試験、質量偏差試験

令和6年3月22日提出

3) 令和5年度医薬品精度管理試験（日薬）

* 対象品目の医薬品原料供給不足のため、精度管理試験は中止となった。

《【重要】令和5年度医薬品試験検査に係る精度管理試験の中止について（お詫び）

日薬業発第420号、令和6年2月7日》

4) 依頼医薬品・化粧品検査

* 主に、化粧品の細菌検査及び医薬品の規格試験等の依頼を受けた。

	検査数	検査料金
依頼	21	265,100

II. 水質検査について

1) 学校関係水質検査

* 学校関係の水質検査は以下のとおりである。

県立学校及び市町村立学校の水質検査、また、琉球大学附属小学校・中学校等の水質検査を行った。

	検査数		検査料金
	飲料水	プール水	
県立学校	78	127	2,810,720
市町村 など	440	338	8,585,115
計	518	465	11,395,835

2) 依頼水質検査

* 公立学校からの個別依頼、こども園などの検査を行っている。

	検査数	検査料金
一般依頼	148	1,766,600

Ⅲ. 空気環境検査について

1) ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の検査

* 県立学校及び那覇市 等より空気環境検査の委託を受けた。また、新たに宜野湾市と南城市から委託を受けた。検体を取りまとめ財団法人東京顕微鏡院へ分析を依頼した。

	検査数	検査料金
県立学校	83	1,095,600
市町村 など	268	4,369,970
計	351	5,465,570

ただし、東京顕微鏡院への外注費は、3,517,800円。

2) ダニ又はダニアレルゲン検査

* 県立学校、浦添市及び宮古島市 等より委託を受け、検査を行っている。今年度より新たに宜野湾市と南城市から委託を受けた。

	検査数	検査料金
県立学校	234	192,500
市町村 など	839	2,350,524
計	1073	2,543,024

Ⅳ. 問い合わせへの対応

○学校環境衛生や医薬品等の検査に関する問い合わせについて、資料提供を行った。

- 1) ヌカカ（害虫）に対するフェンチオン（薬剤）の効果
- 2) 換気口のついたドアと空気検査 など 50 件

Ⅴ. 試験検査センター委員会

【第1回】

日時 令和5年10月25日

場所 沖縄県薬剤師会 研修室・web

1 報告事項

- 1) 令和4年度 報告（医薬品検査・水質検査等）
- 2) 九州山口薬学大会 試験検査センター運営連絡協議会の報告及び発表

【第2回】

日時 令和5年12月22日

場所 沖縄県薬剤師会 研修室

1 報告事項

- 1) 令和5年度 中間報告（医薬品検査・水質検査等）
- 2) うるま市から依頼された検査見積書の提出について
- 3) 試験検査センター連絡協議会・技術研修会の報告
- 4) 会報（No. 320、11・12月号）へ掲載する原稿について

2 議題

- 1) 計画的試験の項目選定について
- 2) 試験検査センターの医薬品検査の手数料について
- 3) 学校環境衛生基準に基づく検査の入札と参考見積について
- 4) 試験検査センターの機器について
- 5) 学校環境衛生に関する成績書再発行手数料について
- 6) 薬局製剤の検査について（佐賀県の現在の状況報告も含めて）

VI. 研修

1) 日薬 試験検査センター連絡協議会・技術研修会

講習日 令和5年12月14日・15日

講習会場 1日目：ホテルグランテラス富山 2日目：ダイト株式会社の施設見学

出席者 小泉 宝之

～研修内容～

- 1 医薬品の品質管理に関する内容
- 2 日本薬局方などの試験に関する意見交換
- 3 試験検査センター委員会報告

報告：医薬品精度管理試験について



代議員席側

令和5年度 薬事情報センター事業報告

1. 情報提供業務

- (1) 質疑応答業務（集計内容の詳細は別紙参照）
 - ①調査件数：816 件／年（医療関係者231、医療関係者以外585） 68 件／月
 - ②質問者数：637 人／年（医療関係者197、医療関係者以外440） 53 人／月
- (2) WEB サイト（ホームページ）による情報提供
- (3) 会報「薬事情報おきなわ」の編集・発行（隔月刊）No. 274～No. 278 を発行
- (4) 会員向けメール配信業務（Weekly News）

2. 情報収集業務

- (1) 新規図書総数：31 冊
- (2) 購読雑誌：20 誌
- (3) 各都道府県薬剤師会機関誌：37 誌
- (4) 業界新聞：4 紙（薬事日報、薬局新聞、薬事ニュース、国保新聞）
- (5) メーカー・卸機関誌
- (6) 厚生労働省および日薬からの各種情報・通知
- (7) 製薬企業からの情報
- (8) 医療安全レポート（一般社団法人 医療安全全国共同行動発行）

3. 情報管理業務

- (1) 沖縄県薬事情報センター質疑応答データベース（ファイルメーカー Pro）
- (2) 日薬と協同作成のデータベース（文献書誌情報検索システム：Bunsaku）
担当雑誌（「新薬と臨床」「総合診療」「臨床薬理」「産科と婦人科」）

4. 会議及び研修会

- (1) 令和5年度 薬事情報センター委員会
 - ①第1回：日時：令和5年9月11日（月）（県薬・Zoom）
 - ②第2回：日時：令和6年1月（書面開催）
- (2) 令和5年度 都道府県薬剤師会薬事情報センター実務担当者等研修会（Web）
日時：令和6年1月26日（金）

5. アンチ・ドーピング関連

- (1) 令和5年度国民体育（スポーツ）大会に向けたアンチ・ドーピング情報提供会
（主催：日本スポーツ協会）（オンデマンド配信）
日時：令和5年6月20日（火）
- (2) 第78回国民体育大会関連会議（主催：沖縄県スポーツ協会）
アンチ・ドーピング研修会「アンチ・ドーピングに係わる留意点等について」
 - ①令和5年度第43回国民体育大会九州ブロック大会 監督会議（夏季大会）
日時：令和5年6月30日（金）（講師：笠原大吾）

- ②令和5年度第43回国民体育大会九州ブロック大会 監督会議（秋季大会）
日時：令和5年8月4日（金）（講師：吉田典子）
- ③アンチ・ドーピング研修会（ストレート競技関係者対象）
日時：令和5年8月10日（木）（講師：笠原大吾）
- （3）令和5年度 第1回スポーツ医・科学委員会（沖縄県スポーツ会館）
日時：令和5年7月20日（木）
- （4）特別国民体育大会ドクターズミーティング
日時：ライブ配信：令和5年9月16日（土）
- （5）令和5年度都道府県薬剤師会アンチ・ドーピング活動担当者講習会
（主催：日本薬剤師会）
日時：令和5年12月1日（金）（web開催）
- （6）令和5年度 サポートプログラム補助対象団体調整会議
（主催：沖縄県スポーツ協会）
日時：令和6年2月27日（火）
- （7）令和5年度 第2回スポーツ医・科学委員会（主催：沖縄県スポーツ協会）
日時：令和6年3月25日（月）

6.その他

- （1）DI 業務支援 平良 恭子：（半日／週）
- （2）沖縄県難病支援センター「アンビシャス」の原稿執筆（月1回）
 - 令和5年4月：鉄剤を飲み始めてから黒い便が出たのですが大丈夫ですか。
 - 5月：夏の食中毒に注意！
 - 6月：夏の膀胱炎
 - 7月：コロナの治療薬について
 - 8月：旅先で薬が足りなくなった。どうしたらいいの？
 - 9月：湿布薬の使用について
 - 10月：薬が効かなくなることってあるの？
 - 11月：頭痛薬を飲み過ぎても頭痛が起こる？
 - 12月：耳鳴り
 - 令和6年1月：高齢者と薬
 - 2月：薬疹
 - 3月：緑内障と併用薬

2023年度(令和5年度):調査件数集計

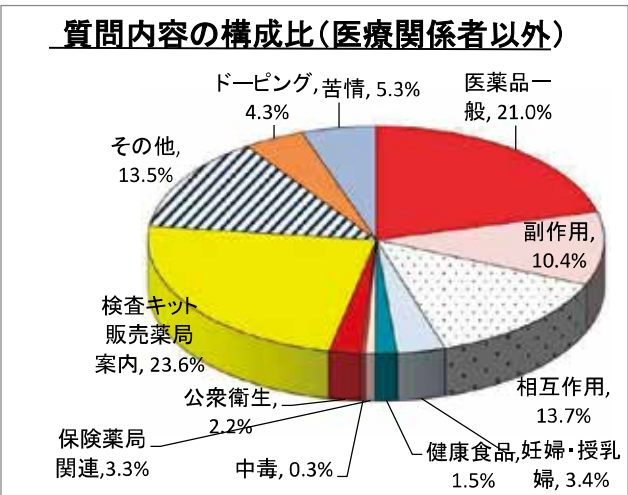
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	(%)
薬剤識別	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
医薬品一般	1	5	1	2	9	1	4	1	0	0	0	2	26	11.3%
安全性情報	1	1	2	2	1	0	0	1	0	0	2	3	13	5.6%
製剤・調剤	0	1	3	1	2	1	1	0	4	0	1	7	21	9.1%
臨床情報	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0.9%
漢方薬・民間療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
消毒・予防	0	0	0	1	0	0	2	1	0	1	1	0	6	2.6%
食品・栄養学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
薬事行政・保険	9	10	9	18	2	15	7	3	7	2	1	5	88	38.1%
文献依頼	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	4	1.7%
その他	7	2	16	10	7	3	2	4	3	0	1	3	58	25.1%
ドーピング	4	1	0	2	1	1	0	2	0	0	0	0	11	4.8%
苦情	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0.9%
合計	22	20	31	37	22	24	18	13	14	4	6	20	231	100.0%

医療関係者以外	24	43	79	118	37	51	50	32	43	44	34	30	585
---------	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

2023年度：年間総調査件数 816 件
2023年度：月平均調査件数 68 件

医療関係者以外からの質問の内訳

	合計	(%)
医薬品一般	123	21.0%
副作用	61	10.4%
相互作用	80	13.7%
妊婦・授乳婦	20	3.4%
健康食品	9	1.5%
漢方薬	0	0.0%
保険薬局関連	4	0.7%
中毒	2	0.3%
公衆衛生	13	2.2%
検査キット販売薬局案内	138	23.6%
その他	79	13.5%
ドーピング	25	4.3%
苦情	31	5.3%
合計	585	100.0%



2023年度(令和5年度):質問者数集計

(質問者別)

分 類		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	%
医療関係者	薬局	10	10	16	22	12	18	14	11	13	3	5	16	150	23.55%
	病・医院(薬剤師)	1	5	1	2	0	0	0	1	0	1	1	3	15	2.35%
	病・医院(医師)	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0.47%
	病・医院(看護婦・その他)	3	1	10	6	5	0	1	0	0	0	0	0	26	4.08%
	卸・製薬会社	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.16%
	その他の薬剤師	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0.31%
行政・団体等		2	2	6	3	0	1	1	0	1	1	1	4	22	3.45%
医療関係者以外		19	35	50	97	31	34	38	25	21	24	27	17	418	65.62%
合 計		36	53	85	130	49	53	55	37	35	29	34	41	637	100.0%

2023年度：年間総質問者数 637 人
2023年度：月平均質問者数 53 人

第90回総会資料

<議案第1号 令和5年度決算承認の件>

正味財産増減計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

一般社団法人 沖縄県薬剤師会

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	1,599	1,533	66
特定資産受取利息	1,599	1,533	66
受取入金会金	1,130,000	877,000	253,000
受取入金会金	1,130,000	877,000	253,000
受取会費	106,338,276	104,820,348	1,517,928
正会員受取会費	55,858,900	55,400,400	458,500
賛助会員受取会費	50,199,376	49,103,948	1,095,428
特別会員会費	280,000	316,000	△ 36,000
事業収益	2,312,795,876	1,911,278,816	401,517,060
出版物事業収益	3,644,851	4,998,450	△ 1,353,599
広告料事業収益	430,000	410,000	20,000
その他事業収益	26,890,583	32,909,179	△ 6,018,596
調剤報酬収入	2,074,571,701	1,663,400,879	411,170,822
一部負担金収入	154,755,663	139,814,125	14,941,538
小分治療剤収入	7,759,578	10,254,605	△ 2,495,027
保険外	16,341,894	33,473,328	△ 17,131,434
受取手数料	5,365,436	5,443,780	△ 78,344
保険等調整増減金	△ 576,489	△ 58,355	△ 518,134
新規契約賦課金	0	10,000	△ 10,000
利用契約金	2,090,000	2,180,000	△ 90,000
医薬品検査手数料	317,000	144,100	172,900
水質検査手数料	13,137,795	12,638,780	499,015
空気検査手数料	8,053,214	5,651,445	2,401,769
衛生検査手数料	14,650	8,500	6,150
受取補助金等	9,633,857	16,325,820	△ 6,691,963
受取国庫補助金	4,633,780	5,882,412	△ 1,248,632
受取地方公共団体補助金	4,267,000	9,395,000	△ 5,128,000
受取民間助成金	0	0	0
受取補助金等振替額	733,077	1,048,408	△ 315,331
受取寄付金	280,207	265,207	15,000
寄付金収入	15,000	0	15,000
寄付金等振替額	265,207	265,207	0
貸倒引当金戻入益	60,000	80,000	△ 20,000
雑収	4,787,402	3,606,691	1,180,711
受取利息	2,815	2,795	20
雑収入	803,916	101,866	702,050
事務受託金収益	3,980,671	3,502,030	478,641
経常収益計	2,435,027,217	2,037,255,415	397,771,802

科目					当年度	前年度	増減
(2)経常費用							
事	業	費			2,361,089,919	1,960,346,431	400,743,488
期	首	棚	卸	高	72,296,991	70,613,033	1,683,958
仕		入		高	2,008,906,519	1,622,377,377	386,529,142
期	末	棚	卸	高	△ 52,987,417	△ 73,529,740	20,542,323
役	員		報	酬	5,930,000	3,141,000	2,789,000
給	料		手	当	106,389,472	107,964,794	△ 1,575,322
雑				給	58,895,692	64,357,404	△ 5,461,712
賞				与	15,120,100	17,249,900	△ 2,129,800
退	職	給	付	費	2,753,481	2,306,352	447,129
法	定	福	利	費	25,473,997	25,461,555	12,442
福	利	厚	生	費	899,738	603,600	296,138
会		議		費	1,201,853	519,965	681,888
旅	費	交	通	費	14,462,026	12,766,811	1,695,215
通	信	運	搬	費	6,397,351	8,127,826	△ 1,730,475
減	価	償	却	費	9,394,541	10,249,102	△ 854,561
消	耗		品	費	6,966,043	7,864,151	△ 898,108
修		繕		費	287,496	437,800	△ 150,304
研		修		費	10,500	23,700	△ 13,200
出	版	物	印	刷	6,076,283	7,871,617	△ 1,795,334
地	代		家	賃	19,492,686	19,476,380	16,306
光	熱	水	料	費	6,446,892	7,109,800	△ 662,908
賃		借		料	3,672,722	4,000,532	△ 327,810
広		報		費	4,676,695	4,683,270	△ 6,575
保		険		料	1,241,032	1,298,839	△ 57,807
諸		謝		金	1,061,159	962,161	98,998
租	税		公	課	3,230,701	3,184,847	45,854
支	払	負	担	金	3,594,480	3,613,459	△ 18,979
支	払	補	助	金	6,000,000	6,000,000	0
支	払	寄	附	金	80,330	133,000	△ 52,670
外		注		費	3,517,800	2,240,480	1,277,320
支	払	手	数	料	8,822,021	8,955,869	△ 133,848
交		際		費	81,195	80,390	805
管	理	維	持	費	7,024,030	7,231,041	△ 207,011
新	聞	図	書	費	1,315,615	969,286	346,329
貸	倒	引	当	金	560,000	160,000	400,000
雑				入	0	1,200	△ 1,200
支	払		利	息	503,130	593,561	△ 90,431
商	品	廃	棄	損	1,294,765	1,232,749	62,016
雑		損		失	0	13,320	△ 13,320
管	理			費	45,037,433	39,304,860	5,732,573
役	員		報	酬	2,280,000	964,000	1,316,000
給	料		手	当	8,763,375	7,246,513	1,516,862
雑				給	42,563	0	42,563
退	職	給	付	費	11,379	37,382	△ 26,003
法	定	福	利	費	1,984,427	1,562,137	422,290
福	利	厚	生	費	75,574	33,682	41,892

科目	当年度	前年度	増減
会議費	834,934	400,428	434,506
旅費交通費	4,407,285	3,795,700	611,585
通信運搬費	1,147,874	1,082,474	65,400
減価償却費	704,638	1,055,283	△ 350,645
消耗品費	2,411,671	2,117,984	293,687
修繕費	364,397	475,200	△ 110,803
光熱水料費	713,780	706,212	7,568
賃借料	732,736	738,016	△ 5,280
保険料	170,112	89,221	80,891
諸謝金	20,000	0	20,000
租税公課	433,598	505,648	△ 72,050
支払負担金	15,446,600	15,420,400	26,200
支払寄附金	22,000	100,000	△ 78,000
支払手数料	3,251,767	1,753,057	1,498,710
交際費	529,860	469,969	59,891
管理維持費	415,151	406,768	8,383
新聞図書費	201,180	259,216	△ 58,036
支払利息	72,532	85,570	△ 13,038
経常費用計	2,406,127,352	1,999,651,291	406,476,061
評価損益等調整前当期経常増減額	28,899,865	37,604,124	△ 8,704,259
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	28,899,865	37,604,124	△ 8,704,259
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産売却益	0	0	0
車両運搬具売却益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固定資産除却損	2	0	2
什器備品除却損	2	0	2
建物付属設備除却損	0	0	0
車両運搬具除却損	0	0	0
経常外費用計	2	0	2
当期経常外増減額	△ 2	0	△ 2
税引前当期一般正味財産増減額	28,899,863	37,604,124	△ 8,704,261
法人税等	5,441,700	7,678,300	△ 2,236,600
当期一般正味財産増減額	23,458,163	29,925,824	△ 6,467,661
一般正味財産期首残高	836,558,137	806,632,313	29,925,824
一般正味財産期末残高	860,016,300	836,558,137	23,458,163
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	△ 998,284	△ 1,313,615	315,331
地方公共団体補助金	0	0	0
寄付金	0	0	0
当期指定正味財産増減額	△ 998,284	△ 1,313,615	315,331
指定正味財産期首残高	19,952,986	21,266,601	△ 1,313,615
指定正味財産期末残高	18,954,702	19,952,986	△ 998,284
III 正味財産期末残高	878,971,002	856,511,123	22,459,879

貸借対照表

令和6年3月31日現在

一般社団法人 沖縄県薬剤師会

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	334,496,928	309,047,422	25,449,506
未収入金	382,343,867	325,074,883	57,268,984
商品	51,692,652	72,296,991	△ 20,604,339
立替金	1,134,047	2,444,048	△ 1,310,001
前払費用	214,400	627,900	△ 413,500
仮払金	0	0	0
貸倒引当金	△ 3,660,000	△ 3,160,000	△ 500,000
流動資産合計	766,221,894	706,331,244	59,890,650
2. 固定資産			
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	56,004,218	53,693,831	2,310,387
九山積立預金	9,420,159	9,420,081	78
法務対策積立預金	5,002,795	5,002,753	42
会館修繕積立預金	41,750,296	38,749,970	3,000,326
災害対策積立	3,001,790	3,001,766	24
移転積立預金	80,007,435	80,006,761	674
特定資産合計	195,186,693	189,875,162	5,311,531
(3) その他固定資産			
建物	111,954,315	117,092,775	△ 5,138,460
造作物	142,174	445,048	△ 302,874
建物付属設備	2,952,430	3,430,869	△ 478,439
構築物	2,547,936	2,787,035	△ 239,099
車両運搬具	4	4	0
什器備品	6,361,703	4,028,712	2,332,991
土地	157,097,850	157,097,850	0
電話加入権	2,765,413	2,765,413	0
ソフトウェア	132,000	264,000	△ 132,000
敷入金	1,250,000	1,250,000	0
差入保証金	5,067,640	5,067,640	0
その他固定資産合計	290,271,465	294,229,346	△ 3,957,881
固定資産合計	485,458,158	484,104,508	1,353,650
資産合計	1,251,680,052	1,190,435,752	61,244,300
II 負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	234,558,426	192,653,871	41,904,555
未払金	24,673,613	19,048,452	5,625,161
前受金	210,000	220,000	△ 10,000
預り金	5,614,552	2,767,377	2,847,175
賞与引当金	4,604,890	5,129,650	△ 524,760
未払法人税等	5,441,700	7,678,300	△ 2,236,600
流動負債合計	275,103,181	227,497,650	47,605,531

科目	当年度	前年度	増 減
2. 固定負債			
長期借入金	49,227,000	59,223,000	△ 9,996,000
退職給付引当金	48,378,869	47,203,979	1,174,890
固定負債合計	97,605,869	106,426,979	△ 8,821,110
負債合計	372,709,050	333,924,629	38,784,421
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
地方公共団体補助金	13,172,828	13,905,905	△ 733,077
寄付金	5,781,874	6,047,081	△ 265,207
指定正味財産合計	18,954,702	19,952,986	△ 998,284
2. 一般正味財産	860,016,300	836,558,137	23,458,163
(うち特定資産への充当額)	139,182,475	136,181,331	3,001,144
正味財産合計	878,971,002	856,511,123	22,459,879
負債及び正味財産合計	1,251,680,052	1,190,435,752	61,244,300

第90回定時総会懇親会

日時：令和6年6月16日（日）15:45～17:00

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室



定時総会後、会場を研修室に移し懇親会が催された。司会の宮城幸枝常務理事により、会が進められた。

川満直紀副会長の開会の挨拶に続き、前濱朋子会長の挨拶、比嘉奈緒子沖縄県保健医療介護部保健衛生統括監が来賓の挨拶をされ、神村武之相談役の乾杯の音頭で歓談に入った。

歓談が落ち着いた頃、来賓の紹介、沖縄県薬剤師会職員の永年勤続表彰が執り行われ、終始和やかな雰囲気であった。

最後は、阿部義則専務理事の挨拶で閉会となった。
(文:事務局 川平真央)



会長あいさつ
前濱 朋子
会長



来賓あいさつ
比嘉 奈緒子
沖縄県保健医療介護部
保健衛生統括監



乾杯の音頭
神村 武之
相談役

女性薬部会

令和5年度 第2回漢方講座参加報告

女性ホルモンと一生 ～ Well-beingをめざして～

漢方薬とホルモン剤のできること

日時：2024年3月24日（日） 10：00～11：30

会場：沖縄県薬剤師会館 及びWEB（Zoom）配信

講師：高宮城直子先生（Naoko 女性クリニック院長）



女性薬剤師部会
副部会長 狩俣 イソ

高宮城直子先生が沖縄タイムスに連載されているコラムを毎回楽しみに読ませていただいた。女性の問題を多角的に取り上げていらして、知らなかったことも多く、大変勉強になった。

先生は、沖縄発更年期オンライン診療サービス「ビバエル」を立ち上げた。OISTのエリセーバ・オリガさんと、高宮城先生、助産婦や看護師、カウンセラーなど専門家が連携。診療、処方、処方薬を自宅に届けるまでのサービスをひと続きで担う。病院に出向くことが難しい患者も個別診療が受けられる。薬も受け取れる。

先生は産婦人科専門医、女性ヘルスケア専門医、メノポーズカウンセラー、女性医療ネットワーク理事、日本女性財団共働发起人・理事、フェムシップドクターと様々な称号をお持ちで、ご活躍が驚異的に幅広い。

先生が考える女性に必要なものは、包括的教育、家事の負担軽減・意識改革、育児の負担軽減、介護の負担軽減、月経トラブル・尿漏れトラブルに対応したサービスと製品、ホルモン療法についての啓発、女性の特性に根ざした医療・健診、周囲にヘルプを求められる仕組み・意識改革、と実に多角的である。

SRHRセクシャル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、性と生殖に関する健康と個人の自由と法的権利に基づいたWell-beingをめざす。その理念のもとに、婦人科・漢方内科「Naoko女性クリニック」院長であられ、統合医療をめざして「Naoko美と健康のサロン」「レディース鍼灸」なども併設されている。

また「更年期からスタートする人生100年

時代の身体づくり」「女性たちのウェルビーイング・マーケティング」の書籍もある。

さて講座の内容である。

女性ホルモン曲線を、ご自身の人生に重ね合わせて説明して下さった。衝撃的だったのは、自分の時間ゼロなほどバリバリ働いた40代に入って、自律神経の乱れ、免疫の乱れを起こし、耐え難い疼痛にさいなまれ、退職を余儀なくされた事である。2年間休職し、様々な治療を試み、最後に低用量ピルを服用したら、2週間で治ったそうである。更年期によるものだと判明し、ホルモン補充療法（HRT）を開始した。

女性ホルモンは毎月変化する。思春期、更年期に大きく変動する。妊娠・出産により、さらに大きく変動する。閉経すると、ほとんどゼロとなる。女性は、毎月の周期的変動に加え経年的変化により、心身の状態が変動するのである。

【ホルモン剤が女性のためにできること】

- ・月経困難症や過多月経、月経不順の改善
- ・避妊
- ・不妊治療
- ・更年期症候群～閉経後

【女性の体と貧血】

過多月経、過長月経に伴い鉄欠乏性貧血になる。症状は動悸・息切れなどだが、無症状が多い。鉄剤内服、市販のヘム鉄などの内服が必要。重症の貧血にはミレーナ（子宮内黄体ホルモン放出システム）の子宮内挿入が有

効である。

【月経困難症】

治療薬としてLEP(low dose EP) ヤーズ(ドロエチ)・ルナベル(フリウェル)などの周期投与とヤーズフレックス・ジェミーナの連続投与がある。月経血量が約1/3以下に減り、月経痛がかなり軽減、副作用としてざ瘡(ニキビ)の改善、PMS(月経前症候群)の改善がある。他に黄体ホルモン製剤により月経がほとんど無くなる治療薬としてディナゲスト(ジエノゲスト)がある。

【避妊】

望まない妊娠をしない!産みたい時に産む!

- ・コンドーム
 - ・OC(経口避妊薬=ピル)
 - ・IUS(子宮内黄体ホルモン放出システム)
- 避妊に失敗したときは・・・
- 緊急避妊ピル(ノボルゲストレル黄体ホルモン)
- 性交後72時間以内に内服する。

【不妊】

体外受精による出生児は1990年代は100人に1人であったが、2017年には17人に1人と右肩上がりに増えている。

近年のART(体外受精や顕微授精などの生殖補助医療)の発達は目覚ましい。

【ART時代に漢方のできる事】

- ・ART以外の自然妊娠率向上
(漢方と西洋医学併用)
- ・ARTの補助(ARTの妊娠率向上)
- ・月経困難症、過多月経、PMSなどの改善
- ・不妊治療のストレス、イライラ、抑うつ
の対応

【各不妊因子に対する漢方】

- ・排卵因子：無排卵・黄体機能不全・卵巣早発不全に自然排卵を促し、月経不順を改善する。
当帰芍薬散 温経湯などが有効
- ・頸管因子：免疫系に作用し、抗精子不活化抗体による頸管因子(フナーテスト不良例)を自然妊娠に導く可能性
柴胡を含む漢方薬
- ・着床因子：厚すぎる子宮内膜厚(瘀血)

を適切にし、着床を促す。

- 当帰芍薬散 桂枝茯苓丸加薏苡仁 など
- ・男性因子：原因不明の造精機能障害に対する造精機能改善効果や、勃起不全や射精障害のような、性機能改善に対する効果
柴胡加竜骨牡蠣湯 補中益気湯 など
- ・原因不明：腹腔鏡をしないと見つからないような子宮内膜症や不育症による超早期流産に関する緒症状
当帰芍薬散 柴苓湯 など
- ・ART施行中の卵子の質改善、不良例に対して
当帰芍薬散 八味地黄丸(腎虚) など
- ・不妊であることや治療によるストレスに対して抑うつ状態(気うつ)に対する効果
加味逍遥散 半夏厚朴湯 など

【更年期】

最後の月経から12か月後に閉経(卵巣の卵胞機能停止による無月経)と定義し、前後5年間を更年期と呼ぶ。この期間に現れる多種多様な症状の中で、器質的変化に起因しない症状を更年期症状と呼び、日常生活に影響を与える場合を更年期症候群(障害)とする。

HRTホルモン補充療法：

内服薬・塗り薬・貼付剤

漢方療法：気・血・水のバランスを整える
冷え・むくみをとる。血液循環を改善する。

自律神経を整える。体質に合わせて処方

当帰芍薬散・加味逍遥散・桂枝茯苓丸
ストレスの多い現代女性において、肝うつと水毒の両方が強くみられる症例で、当帰芍薬散+加味逍遥散の併用で効果を高め、更年期や月経前の身体的・精神的な不調を改善し、患者のQOLを上げることができると思われる。

【老年期】

女性の寝たきりは平均12年である。健康寿命を伸ばすには個々人に合った治療・生活の改善(食事・運動)+統合医療で生活の質QOLを向上させねばならない。女性の一生をホルモン療法と漢方薬をうまく使い分け、併用することでwell-being(身体的、精神的、社会的にすべてが満たされた状態)を目指したい。

災害対策

災害時における薬剤師の役割 (その1)

災害対策委員会
委員長 知念 大輔



災害対策委員会より会員の皆さんへ「災害時における薬剤師の役割」について知識を深めていただくことを目的に連載を開始することになりました。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震、4月の台湾大地震は記憶に新しい地震災害かと思います。過去30年に国内で起きた地震で死者が100名を超えたものは、阪神・淡路大震災(1995. 1)、東日本大震災(2011. 3)、熊本地震(2016. 4)と能登半島地震です。地震大国の日本列島では、さらに大きな地震が必ず来るといわれています。どれだけの皆さんが災害時の準備をしているのでしょうか？また薬剤師としてどのようなことができるのでしょうか？

沖縄県が作成した第8次医療計画の災害時における医療の項目で、関係機関との協力・連携の課題として、災害薬事コーディネーター等を養成し維持していく必要があると明記されました。この災害薬事コーディネーターとはどういうことをするのでしょうか？沖縄県にはどれくらいの災害薬事コーディネーターがいるのでしょうか？薬事と書かれていますが、薬剤師の職能を生かす場が一つ増えたのでしょうか？

災害薬事コーディネーターは、災害時に沖縄県や被災地域に設置される災害対策本部や保健所に配置されます。主な役割は、医薬品の供給や災害支援薬剤師の配置について調整することです。被災した地域の保健所へ配置された災害薬事コーディネーターは、沖縄県災害対策本部に配置された災害薬事コーディネーターと連携を図ります。現場だけではな

く全体のことも考えながら活動を行うので、災害時に災害薬事コーディネーターは複数人必要です。このことから多くの薬剤師に災害薬事コーディネーターの役割をご理解いただく必要があります。災害は県全体で起こることもあります。そのため沖縄県薬剤師会は、各地区薬剤師会単位で複数の災害薬事コーディネーターを配置できるように養成する必要があると考えました。

本年2月に沖縄県から沖縄県災害薬事コーディネーター養成研修会委託事業を受託し、災害薬事コーディネーター養成研修会を開催しました。各地区薬剤師会と県病薬から参加された17名を県内初の「沖縄県災害薬事コーディネーター」として沖縄県に登録しました。

そもそも災害を発生させないことは不可能です。いつ発生するかわかりません。災害対策の基本に「自助（ひとりひとりの役割）、共助（地域の役割）、公助（行政の役割）」という言葉があります。ひとりひとりが防災意識を高め、ひとりひとりで対応できなくなった場合は地域で助け合うことが安心に繋がるのではないのでしょうか。いざという時のために地区薬剤師会は連携体制や情報収集体制を整えておく必要があります。災害時に連携体制を整え、医薬品の提供だけではなく適切な情報や知識を提案できる薬剤師は、より多くの県民が抱く不安な気持ちを軽減するため的一端を担うことができるのではないかと考えます。

実務実習

第88回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ (薬学教育者ワークショップ) in九州・宮崎 参加報告

日程：令和6年1月7日（日）～8日（月） 開催方法：Web 配信

2024年1月7日・8日の2日間、認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップがオンラインにて開催されました。本稿では、ワークショップを通して得た学びや気づきについて記します。

ワークショップ初日は、オリエンテーションとワークショップ説明の後、グループに分かれてコンセンサスゲームというものを行いました。「コンセンサスゲーム」とはチームで協力しながら答えを見つけていくゲームです。オンラインでのグループワークは緊張しましたが、タスクの方のサポートもあり、徐々にメンバーと打ち解けることができました。個々の意見がバラバラであっても、グループで話し合うことで正解に近い答えに導き出せるという経験は、大変貴重だったと思います。

続いて、「薬学教育についての問題点」をテーマとしたSGDが行われました。薬学教育は近年改善されてきていますが、課題も依然として残されています。グループ内では、コミュニケーション不足や指導時間確保の難しさといった意見が多く挙げられました。自分以外にも同じような不安を抱えている人がいることを知り、今後問題解決に向けて共に取り組んでいきたいと感じました。今回のSGDでは、KJ法を用いてグループでの考えを整理しました。意見同士の関連性を図式化することで、議論が深まり、理解が促進されたと感じます。また、今回使用したmiroツールも非常に使いやすく、スムーズな情報共有ができたと思います。

その後、「学習成果基盤型教育において求められる目標」についての講義とSGDが行われました。講義とSGDでは、OBE(Outcome-Based Education)やアウトカムといった専門用語を学び、学生が学習を通してどのような能力を身につけるべきかを具体的に考えることができました。特に、地域包括ケアへの参画という能力を育成するためのアウトカムと学習

しらすぎ虹薬局
運天 芳生



目標を設定する過程では、学生が地域活動に積極的に参加し、多職種連携の重要性を理解できるよう、様々なアイデアを出し合いました。この経験は、今後の指導において、単に知識を詰め込むのではなく、学生が社会で活躍するために必要なスキルを育成することに重点を置いた指導を行うことの重要性を知ることができました。

2日目は「真の参加型と呼べる学習方略とは」「臨床現場での学習に有効な手段」「問題点への対応」「問題解決のプロセス」の順に毎回SGDを行い、評価方法や学習方法を導き出しました。そしてその過程でパワーポイントなどを使用して、学習ルーブリック表（評価基準表）や、学習方略の表を作成しました。学習方略を作成するにあたり、私が学生時代に行ってきた実務実習もこのような評価方法や学習計画が立てられたのだと知りました。また、これから薬剤師になっていく実務実習生が十分なパフォーマンスが発揮できるよう、教育方法を考えていかなければならないと実感しました。

最後に、今回のワークショップを通して、特に印象に残ったのは、薬学教育に関わる様々な立場の方々と意見交換できたことです。大学教員、病院薬剤師、薬局薬剤師など、それぞれの視点から薬学教育について議論することで、自身の考えを深め、新たな気づきを得ることができました。また、グループワークやSGDを通して、コミュニケーション能力や問題解決能力を向上させることもできました。薬学教育の現状や課題について深く理解することができ、今後の指導に活かしていきたいと思っています。

その他会務報告 沖縄戦殉職医療人之碑へ慰霊

令和6年6月23日（日）慰霊の日〔ひめゆりの塔構内：糸満市伊原〕

参拝当日の沖縄戦殉職医療人之碑には、毎年、本会と沖縄県医師会、沖縄県歯科医師会の供花が添えられています。

今年の同碑の参拝には、本会から、前濱朋子会長、神村武之相談役、川満直紀・古謝玄太両副会長、村田美智子理事、吉田洋史那覇

地区薬剤師会会長が参列しました。

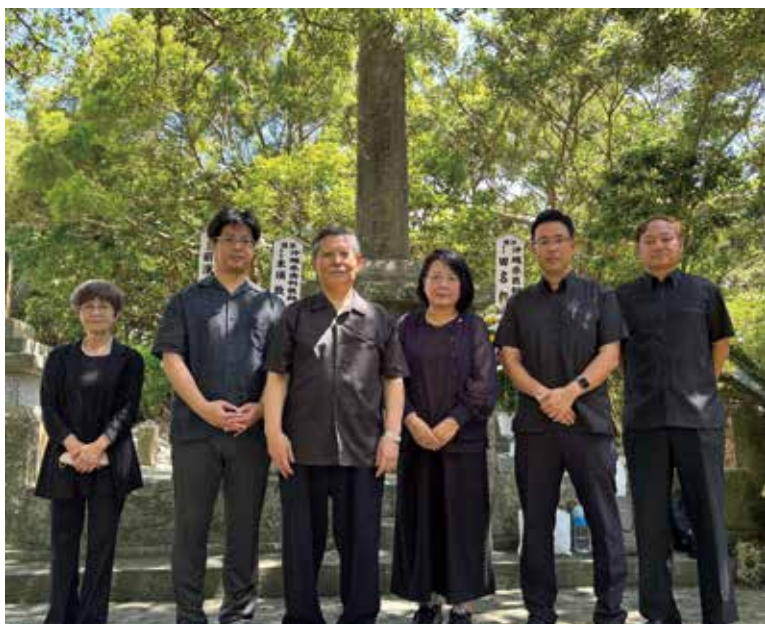
本会の沖縄戦殉職医療人之碑への慰霊は、毎年、午前10時30分から行っておりますので、ぜひ、ご一緒にご参拝いただけますと幸いに存じます。（文：事務局 大城 喜仁）

< 沖縄戦殉職医療人之碑 >

沖縄戦殉職医療人之碑は、昭和23年1月28日に沖縄医療団により、ひめゆりの塔の隣に建立された。題字は、翠宮城瑞芳氏の揮毫。

沖縄戦で軍に協力し、住民の衛生、保健、治療に活動し、各地で戦死した医師、歯科医師、薬剤師、看護婦等、約60余人を合祀している。戦時体制となった時、住民の生命を預かる医師の大半は日本本土へ疎開したが、「自分たちの郷土は自分たちの手で守り抜こう」と覚悟を決めた医師達は、郷土に踏み止まって住民の治療、衛生に努力した。戦局は不利となり、日を追って増加する傷病者の治療、看護に疲れて倒れる者、さらに、敵陣に斬り込み、自決する者等、実に仁術を天命として尽くし、最後まで闘って戦没した。

薬剤師は、県内・県外合わせて10人近くになると思われる。その内の1人、本会第2代会長の長田紀助氏（会員の故久場トヨ氏、長田紀昭氏の御尊父）は、厚生大臣任命で、佐官待遇の軍属として南部戦線に向かわれ、玉城村（現南城市）字糸数付近で戦没された。喜瀬乗垣氏（キセ薬局・故喜瀬乗惟先生の御令兄）は中国大陸の山野で没された。



（写真上）左より、村田美智子理事、川満直紀副会長、神村武之相談役、前濱朋子会長、古謝玄太副会長、大城喜仁事務局長

（写真右）左より、村田美智子理事、吉田洋史那覇地区薬剤師会会長、神村武之相談役、前濱朋子会長



薬事情報おきなわ No. 280

2024年6・7月号 : Vol. 39 No. 2

薬事情報センター TEL : 098-963-8931

FAX : 098-963-8937

薬価基準追補収載品目

●新医薬品 2024年5月22日付

区分	販売名 ()内は識別コードまたは製剤表示	規格単位	薬価	会社名	成分名・適応症・効能効果
内用薬	エンレスト粒状錠小児用12.5mg	12.5mg1個	21.40	ノバルティスファーマ	サクビト rilバルサルタンナトリウム水和物:アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬(ARNI)(慢性心不全)(新効能医薬品、新用量医薬品、剤形追加に係る医薬品(再審査期間中のもの))
	エンレスト粒状錠小児用31.25mg	31.25mg1個	45.10		
	オルミエント錠1mg (@1)	1mg1錠	1,356.80	日本イーライリリー	バリシチニブ:ヤヌスキナーゼ(JAK)阻害剤(既存治療で効果不十分な下記疾患(関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止を含む)・アトピー性皮膚炎・多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎)・SARS-CoV-2による肺炎(ただし、酸素吸入を要する患者に限る)・円形脱毛症(ただし、脱毛部位が広範囲に及ぶ難治の場合に限る))(新効能医薬品、新用量医薬品、剤形追加に係る医薬品(再審査期間中のもの))
	レズロック錠200mg (KDM 200)	200mg1錠	30,525.90	Meiji Seikaファルマ	ベルモスジルメシル酸塩:選択的ROCK2阻害剤(造血幹細胞移植後の慢性移植片対宿主病(ステロイド剤の投与で効果不十分な場合))(新有効成分)
	トルカブ錠160mg (CAV160)	160mg1錠	9,263.50	アストラゼネカ	カビバセルチブ:抗悪性腫瘍剤(AKT阻害剤)(内分泌療法後に増悪したPIK3CA、AKT1又はPTEN遺伝子変異を有するホルモン受容体陽性かつHER2陰性の手術不能又は再発乳癌)(新有効成分)
	トルカブ錠200mg (CAV200)	200mg1錠	11,244.30		
注射薬	ファセンラ皮下注10mgシリンジ	10mg0.5mL1筒	134,121	アストラゼネカ	ベンラリズマブ(遺伝子組換え):ヒト化抗IL-5受容体αモノクローナル抗体製剤(気管支喘息(既存治療によっても喘息症状をコントロールできない難治の患者に限る))(新用量医薬品、剤形追加に係る医薬品(再審査期間中のもの))
	アジンマ静注用1500	1500国際単位1瓶 (溶解液付)	1,212,026	武田薬品工業	アパダムターゼ アルファ(遺伝子組換え)/シナキサダムターゼ アルファ(遺伝子組換え):遺伝子組換えヒトADAMTS13製剤(先天性血栓性血小板減少性紫斑病)(新有効成分)
	エルレフィオ皮下注44mg	44mg1.1mL1瓶	558,501	ファイザー	エルラナタマブ(遺伝子組換え):抗悪性腫瘍剤・抗BCMA/CD3二重特異性抗体(再発又は難治性の多発性骨髄腫(標準的な治療が困難な場合に限る))(新有効成分)
	エルレフィオ皮下注76mg	76mg1.9mL1瓶	957,222		
	ビキセオス配合静注用	(144mg)1瓶	877,877	日本新薬	ダウノルビシン塩酸塩・シタラビン:抗悪性腫瘍剤 劇薬、処方箋医薬品(高リスク急性骨髄性白血病)(新医療用配合剤)
	ピロイ点滴静注用100mg	100mg1瓶	54,502	アステラス製薬	ゾルベツキシマブ(遺伝子組換え):抗悪性腫瘍剤/抗CLDN18.2モノクローナル抗体(CLDN18.2陽性の治療切除不能な進行・再発の胃癌)(新有効成分)
	アキュミン静注	185MBq1瓶	344,867	日本メジファジックス	フルシクロピン(¹⁸ F):放射性医薬品・悪性腫瘍診断薬(初発の悪性神経膠腫が疑われる患者における腫瘍の可視化 ただし、磁気共鳴コンピュータ断層撮影検査による腫瘍摘出計画時における腫瘍摘出範囲の決定の補助に用いる。)(新有効成分)
	アミヴィッド静注	370MBq1瓶	184,203	PDRファーマ	フロルベタピル(¹⁸ F):放射性医薬品/アミロイドイメージング剤(アルツハイマー病による軽度認知障害又は認知症が疑われる患者の脳内アミロイドベータブラークの可視化)(新有効成分)

注射薬	ビザミル静注	185MBq1瓶	196,481	日本メジファイジックス	フルデメタモル(¹⁸ F):放射性医薬品・脳疾患診断薬(アルツハイマー病による軽度認知障害又は認知症が疑われる患者の脳内アミロイドベータブラークの可視化)(新有効成分)
	ミチーガ皮下注用30mgパイアル	30mg1瓶	67,112	マルホ	ネモリズマブ(遺伝子組換え):ヒト化抗ヒトIL-31受容体Aモノクローナル抗体(既存治療で効果不十分な下記疾患 アトピー性皮膚炎に伴うそう痒・結節性痒疹)(新効能医薬品、新用量医薬品、剤形追加に係る医薬品(再審査期間中のもの))
	ペイフォータス筋注50mgシリンジ	50mg0.5mL1筒	459,147	アストラゼネカ	ニルセビマブ(遺伝子組換え):抗RSウイルスヒトモノクローナル抗体製剤(①生後初回又は2回目のRSウイルス(Respiratory SyncytialVirus)感染流行期の重篤なRSウイルス感染症のリスクを有する新生児、乳児及び幼児における、RSウイルス感染による下気道疾患の発症抑制・②生後初回のRSウイルス感染流行期の1. 以外のすべての新生児及び乳児におけるRSウイルス感染による下気道疾患の予防)(新有効成分)
	ペイフォータス筋注100mgシリンジ	100mg1mL1筒	906,302		
	オビザー静注用500	500単位1瓶(溶解液付)	268,509	武田薬品工業	スソクトコグ アルファ(遺伝子組換え):遺伝子組換え型ブタ配列血液凝固第Ⅷ因子製剤(後天性血友病A患者における出血抑制)(新有効成分)
	ピアスカイ注340mg	340mg2mL1瓶	1,978,062	中外製薬	クロバリマブ(遺伝子組換え):pH依存性の結合性ヒト科抗補体(C5)モノクローナル抗体(発作性夜間ヘモグロビン尿症))(新有効成分)
	シスタドロップス点眼液0.38%	0.38%5mL1瓶	256,095.50	ヴァイアトリス製	システアミン塩酸塩:シスチン症治療剤(全身型重症筋無力症(シスチン症における角膜シスチン結晶の減少)(新有効成分)
外用薬	サルグマリン吸入用250μg	250μg1瓶	42,359.10	ノーベルファーマ	サルグラモストム(遺伝子組換え):遺伝子組換えヒトGM-CSF製剤(自己免疫性肺胞蛋白症)(新有効成分)

●報告品目・新キット製品 2024年5月22日付

区分	販売名 ()内は識別コードまたは製剤表示	規格単位	薬価	会社名	成分名:適応症・効能効果
内用薬	ジスバルカプセル20mg	20mg1カプセル	1,537.50	田辺三菱製薬	バルベナジントシル酸塩:VMAT2阻害剤-遅発性ジスキネジア治療剤-(遅発性ジスキネジア)(剤形追加に係る医薬品(再審査期間中のもの))
	カナグルOD錠100mg	100mg1錠	158.50	田辺三菱製薬	カナグリフロジン水和物:SGLT2阻害剤(2型糖尿病・2型糖尿病を合併する慢性腎臓病(ただし、末期腎不全又は透析施行中の患者を除く))(剤形追加に係る医薬品(再審査期間中のもの))
注射薬	ゾレア皮下注75mgペン	75mg0.5mL1キット	11,927	ノバルティスファーマ	オマリズマブ(遺伝子組換え):気管支喘息治療剤・季節性アレルギー性鼻炎治療剤・慢性蕁麻疹治療剤・(ヒト化抗ヒトIgEモノクローナル抗体製剤)(気管支喘息(既存治療によっても喘息症状をコントロールできない難治の患者に限る)・季節性アレルギー性鼻炎(既存治療で効果不十分な重症又は最重症患者に限る)・特発性の慢性蕁麻疹(既存治療で効果不十分な患者に限る))(剤形追加に係る医薬品(再審査期間中のもの))
	ゾレア皮下注150mgペン	150mg1mL1キット	21,830		
	ゾレア皮下注300mgペン	300mg2mL1キット	40,091		
	フォリスチム注300IUカートリッジ	300国際単位0.36mL1筒	11,410	オルガノン	フォリトロピンベータ(遺伝子組換え):遺伝子組換えヒト卵胞刺激ホルモン製剤(生殖補助医療における調節卵巣刺激・視床下部一下垂体機能障害に伴う無排卵及び希発排卵における排卵誘発)(新有効成分)
	フォリスチム注600IUカートリッジ	600国際単位0.72mL1筒	21,001		
	フォリスチム注900IUカートリッジ	900国際単位1.08mL1筒	30,008		
	スガマデクス静注液200mgシリンジ「F」	200mg2mL1筒	2,955	富士製薬工業	スガマデクスナトリウム:筋弛緩回復剤(ロクロニウム臭化物又はベクロニウム臭化物による筋弛緩状態からの回復)(新キット製品)

注射薬	スガマデクス静注液200mgシリンジ「ニプロ」	200mg2mL1筒	3,023	ニプロ	スガマデクスナトリウム:筋弛緩回復剤(ロクロニウム臭化物又はベクロニウム臭化物による筋弛緩状態からの回復)(新キット製品)
	スガマデクス静注液200mgシリンジ「マルイシ」	200mg2mL1筒	3,003	丸石製薬	スガマデクスナトリウム:筋弛緩回復剤(ロクロニウム臭化物又はベクロニウム臭化物による筋弛緩状態からの回復)(新キット製品)
	ウスデキヌマブBS皮下注45mgシリンジ「F」	45mg0.5mL1筒	147,524	富士製薬工業	ウスデキヌマブ(遺伝子組換え)[ウスデキヌマブ後続1]:ヒト型抗ヒトIL-12/23p40モノクローナル抗体製剤(既存治療で効果不十分な下記疾患 尋常性乾癬、乾癬性関節炎)(バイオ後続品)
	メトジェクト皮下注7.5mgペン0.15mL	7.5mg0.15mL1キット	1,938	日本メダック	メトレキサート:抗リウマチ剤(関節リウマチ)(新キット製品)
	メトジェクト皮下注10mgペン0.20mL	10mg0.2mL1キット	2,310		
	メトジェクト皮下注12.5mgペン0.25mL	12.5mg0.25mL1キット	2,652		
	メトジェクト皮下注15mgペン0.30mL	15mg0.3mL1キット	2,972		
外用薬	アレジオン眼瞼クリーム0.5%	0.5%1g	1,686.70	参天製薬	エビナスチン塩酸塩:持続性・経眼瞼アレルギー性結膜炎治療剤(アレルギー性結膜炎)(新剤形医薬品)

* 識別記号の「@」は製薬会社のマークの代用としています。

Medical News

●院外処方箋受取率が令和5年度調剤分で全国平均80%に到達(薬局新聞6月12日)

院外処方箋の受取率、いわゆる分業率が令和5年調剤分で全国平均80.3%と初めて8割を超えるとともに、処方箋枚数については8億5600万枚とコロナ禍以前の8億1800万枚(令和元年度)を上回る史上最高値となり、枚数を含む調剤件数・調剤点数のいずれの値も前年度分から6～7%伸長したことが日本薬剤師会の「保険調剤の動向」集計(速報値)によって明らかとなった。

●新たに76件の死亡例-武見厚労相、紅麹問題「極めて遺憾」(薬事日報7月3日)

武見敬三厚生労働相は6月28日、小林製薬の紅麹含有製品による健康被害問題について記者会見し、新たに遺族から同社に死亡事例が170件報告されたことを明らかにした。同社が報告をしなかったことに対して「極めて遺憾」として、170件のうち製品を摂取していない事例、因果関係がなかった事例を除いた76件に関する医療機関への照会と分析については厚労省が詳細に指示を出し、進捗管理も行うとした。

●直接対面の違反疑い増、新型コロナ対策緩和で～厚労省(薬事日報7月8日)

厚生労働省は4日、2023年度販売情報提供活動監視事業報告書を公表し、前年度比1件増となる18件の医薬品に関する不適切性が疑われる情報提供活動が確認されたと発表した。国のコロナ対策が緩和された影響で、製薬企業担当者との対面による違反疑い事例が増加し、「エビデンスのない説明」が6年連続で最多となった。

同事業は、広告違反に当たる行為を早期発見し、製薬企業の販売情報提供活動を適正化することが目的。MRやメディカルサイエンスリエゾン(MSL)の販売情報提供活動に関する情報を、選定したモニター医療機関から収集したほか、医療関係者向け専門誌や学会誌、製薬企業ホームページ、医療関係者向け情報サイトについても適切性に疑義がないか昨年度に9カ月間かけて調査を実施した。

●経口抗菌薬不足に苦慮-院外処方で大きな問題に(薬事日報7月9日)

日本病院薬剤師会東北ブロック学術大会のシンポジウムでは、各医療機関の薬剤部から経口抗菌薬不足で苦慮している実態が指摘された。院内処方では何とか対応できている一方で、院外処方については薬局も在庫を確保できず、病院薬剤部が各薬局の在庫状況を確認しながら薬を受け取れる薬局や、代替となる薬剤を手配している状況にあるようだ。

●「薬剤師会改革」強く打ちだす岩月会長体制が発足(薬局新聞7月10日)

日本薬剤師会は6月末に開いた第104回定時総会で5期10年続いた山本信夫会長体制での最終年度となる令和5年度事業・決算を了承するとともに、次期理事の選任を経て岩月進氏を会長とする新たな執行部に移行した。3月の臨時総会で急速な変化の時代に対応するための組織改革の必要性を訴え、常務理事の立場で副会長2人を抑えて会長予定者となった経緯を背景に、岩月新会長は執行部人事に際して『斬新性』、『人材育成・若返り』、『女性登用』といった改革推進に向けた要素を強調した。



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業

共有すべき事例

調剤

2024年
No.5
事例2


事例

【事例の詳細】

小児の患者に【般】レボセチリジン塩酸塩シロップ用0.5% 1回0.25g 1日2回10日分が処方された。薬剤師Aはレボセチリジン塩酸塩DSO.5%「タカタ」0.25g/包（分包品）20包を取り揃えところ、誤って0.5g/包（分包品）20包を取り揃えた。鑑査を行った薬剤師Bは取り違えに気付かず交付した。薬剤を交付してから2日後、薬剤師Bが未開封であるはずのレボセチリジン塩酸塩DSO.5%「タカタ」0.5g/包（分包品）の箱が開封されていることを疑問に思い、薬剤師Aに確認したところ、患者に誤った分包品を交付したことに気付いた。患者家族に連絡し、正しい薬剤と交換した。

【背景・要因】

当薬局ではレボセチリジン塩酸塩DSO.5%「タカタ」0.25g/包（分包品）と、レボセチリジン塩酸塩DSO.5%の100g/バラ包装品を採用していた。薬剤の供給不足により、100g/バラ包装品が入手困難となっていたため、計量調剤に備え、レボセチリジン塩酸塩DSO.5%「タカタ」0.5g/包（分包品）を新たに採用した。薬剤師Aは0.5g/包（分包品）が採用されたことを知らなかったため、調製時の識別確認が不十分であった。レボセチリジン塩酸塩DSO.5%「タカタ」の0.25g/包（分包品）と0.5g/包（分包品）の裏面は同じ外観であった。

【薬局から報告された改善策】

薬剤を採用する際は、スタッフ全員に薬剤情報を周知し注意喚起を行う。



その他の情報

レボセチリジン塩酸塩DSO.5%「タカタ」の分包品

	表面		裏面（共通デザイン）
	0.25g/包	0.5g/包	0.25g/包・0.5g/包
製品の的外観			

高田製薬株式会社のホームページより（参照2024年3月14日）



事例のポイント

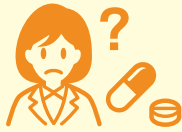
- 本事例は、分包量が異なる散剤の分包品を誤って取り揃え、患児に2倍量の薬剤を交付した事例である。散剤の分包品を調製・鑑査する際は、薬剤名のみならず分包量についても確認する必要がある。
- 薬剤を新規に採用する際は、朝礼や連絡ノートなどを活用し、薬局のスタッフに薬剤名、規格・剤形、注意すべき事項などを周知する必要がある。薬剤の取り違えや規格間違いが起きる可能性がある場合は、調剤棚に注意を促す掲示を行うなどの対策を実施しておくことが重要である。
- 本事例で、取り違えが起きた2つの分包品（0.25g/包と0.5g/包）は、裏面が共通デザインとなっている。同成分で分包量が異なる薬剤の外観は、取り違えが起きないように配慮されたデザインであることが望まれる。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通）FAX：03-5217-0253（直通）
<https://www.yakkyoku-hiyari.jqhc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業

共有すべき事例

2024年
No.5
事例3

疑義照会・処方医への情報提供

手術前の服薬休止



事例

【事例の詳細】

医療機関Aで手術を受ける予定の患者に、医療機関Bよりメトグルコ錠500mgとスーグラ錠25mgが処方された。薬剤師は、メトグルコ錠500mgには休薬指示が出ていたが、スーグラ錠25mgには休薬指示が出ていないことを患者から聴取した。医療機関Bの処方医に確認を行ったところ、スーグラ錠25mgも術前に服用を休止することになった。

【推定される要因】

処方時に術前に休止する薬剤の確認が不十分であったと思われる。

【薬局での取り組み】

患者から手術を受ける予定を聴取した時は、薬局で作成した休止薬リストを参照して処方監査を行う。



その他の情報

スーグラ錠25mg/50mgの添付文書 2022年8月改訂(第3版) (一部抜粋)

2.禁忌 (次の患者には投与しないこと)

2.3 重症感染症、手術前後、重篤な外傷のある患者 [インスリン製剤による血糖管理が望まれるので本剤の投与は適さない。]



事例のポイント

- 本事例は、手術を受ける予定の患者にSGLT2阻害薬が処方された際、薬剤師が術前の休薬の有無について処方医に確認を行った事例である。
- 手術の前後に服薬を休止する可能性がある薬剤をリストアップし、それらの薬剤が処方された際の対応について業務手順を定め、薬局内で共有しておく必要がある。
- 薬剤師は、手術の前後に服薬を休止する可能性がある薬剤が処方されている患者から手術を受ける予定を聴取した際は、服薬休止の判断が処方医・医療機関や手術内容により異なることを理解したうえで、処方医へ服用を休止する必要があるか、を確認することが重要である。
- SGLT2阻害薬の添付文書には手術前後の休薬期間について記載はないが、日本糖尿病学会^{※1}、日本腎臓学会^{※2}、日本循環器学会・日本心不全学会^{※3}がそれぞれSGLT2阻害薬の適正使用に関するRecommendationを公表しており、推奨される手術前後の休薬期間を具体的に示している。

※1 糖尿病治療におけるSGLT2 阻害薬の適正使用に関するRecommendation (参照2024年3月14日)

※2 CKD治療におけるSGLT2 阻害薬の適正使用に関するRecommendation (参照2024年3月14日)

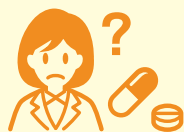
※3 心不全治療におけるSGLT2 阻害薬の適正使用に関するRecommendation (参照2024年3月14日)



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281 (直通) FAX：03-5217-0253 (直通)
<https://www.yakkyoku-hiyari.jqhc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業

共有すべき事例

2024年
No.6
事例3

疑義照会・処方医への情報提供

規格間違い



事例

【事例の詳細】

医療機関の小児科医から小児患者にモイゼルト軟膏1%が初めて処方された。モイゼルト軟膏の添付文書には「通常、小児には0.3%製剤を1日2回、適量を患部に塗布する。症状に応じて、1%製剤を1日2回、適量を患部に塗布することができる。」と記載されている。他院からの処方歴はなく、初めて使用する薬剤であることを患者家族から聴取した。小児に対しても1%製剤は使用できるが、念のため疑義照会を行った結果、1%製剤から0.3%製剤へ変更となった。

【推定される要因】

医師がモイゼルト軟膏の用法・用量を把握していなかった可能性がある。

【薬局での取り組み】

当薬局ではモイゼルト軟膏の取り扱いが初めてであった。モイゼルト軟膏に関する知識を深めるため、製薬企業に依頼し、モイゼルト軟膏に関する説明会を開催する予定である。



その他の情報

モイゼルト軟膏0.3%/1%の添付文書 2024年6月改訂（第5版）（一部抜粋）

6.用法及び用量

通常、成人には1%製剤を1日2回、適量を患部に塗布する。通常、小児には0.3%製剤を1日2回、適量を患部に塗布する。症状に応じて、1%製剤を1日2回、適量を患部に塗布することができる。

7.用法及び用量に関連する注意

7.4 小児に1%製剤を使用し、症状が改善した場合は、0.3%製剤への変更を検討すること。



事例のポイント

- モイゼルト軟膏はアトピー性皮膚炎の治療薬として2022年6月に販売が開始された国内初の外用ホスホジエステラーゼ4（PDE4）阻害剤であり、0.3%製剤と1%製剤の2種類の規格が販売されている。
- モイゼルト軟膏は、小児には通常0.3%製剤を使用するが、症状に応じて1%製剤を使用することが可能である。小児に処方されたモイゼルト軟膏の規格に疑義が生じた場合は、使用歴や診察時の医師とのやり取りなどを患者家族から聴取したうえで、処方医に問い合わせを行う必要がある。
- 薬局で新規に薬剤を採用する際、薬剤の適正使用や取扱い、使用上の留意点などに関する勉強会を行うなど、薬局のスタッフが知識を習得する機会を設けることは適切な処方監査を行ううえで有用である。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通）FAX：03-5217-0253（直通）
<https://www.yakkyoku-hiyari.jqhc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。



沖縄県薬剤師会・消費者くすり相談窓口
「おくすり相談室」受付事例から
 消費者専用電話：098-963-8935

●医薬品一般●

〔質問〕 2～3日前に頭に衝撃を受けて脳震盪を起こしている。喧嘩で殴打したからだと思うが、イブは効きますか？

〔回答〕

脳震盪の後、数日から数か月たって頭痛などの症状が現れる事があります。数日前の事だからといって受診せずにいると後で危険な状態になることがあります。自己判断で薬を服用せず、すぐに病院を受診してください。

〔質問〕 冷蔵庫に保管していたナウゼリン坐剤10（協和キリン）の使用期限を知りたい。薬袋は2年前の日付ですが、使えますか？ロット番号はわかります。

〔回答〕 ナウゼリン坐剤の有効期限は製造後3年です。ただ、そのロット番号で使用期限を調べたところ2023年9月となっていました。使用期限切れのお薬は使用しても十分な効果が得られないばかりでなく、変性している可能性があり体への影響が心配されます。今お持ちのお薬は使わず捨てるようにしてください。

〔質問〕 副鼻腔炎でサワシリン250mgカプセルを1回2カプセル、毎食後で処方された。薬局で薬の量について質問したら、「多い量を処方する先生なので」と言われ不安で色々調べた。この薬は一般的に1回1カプセルであるらしいが、今回倍量出ているので本当にこの量で良いのか不安になった。薬はあまり好きではない。

〔回答〕 サワシリンは中等症以上の急性鼻副鼻腔炎に対し、抗菌薬治療の第一選択薬として使用されています。ただ、投与量は通常より多めの高用量（1回2カプセル1日3回）を使用します。抗生物質は中途半端に少なく飲むことで、かえって症状が治らず長期の治療が必要となる場合もあります。医師が必要と考えて処方していますので指示通りに服用することを勧めます。

参考：鼻副鼻腔炎診療の手引き（令和6年）、急性鼻副鼻腔炎診療ガイドライン（2013年追補版）、抗微生物薬適正使用の手引き

●安全性情報●

〔質問〕 ジェノゲスト錠0.5mg（黄体ホルモン製剤）を朝晩1錠ずつ（1日2錠）飲むべきところを、誤って1回2錠ずつ（1日4錠）飲んでいたら吐気と頭痛、だるさが出てきている。病院は休みで連絡が取れない。どうしたらいいですか。

〔回答〕 この薬は婦人科の病気によっては1日4錠処方される事があります。今出ている症状についてはこの薬の副作用として報告されていますが、こちらで判断することはできません。今日は休薬して明日早めに主治医にご相談ください。

〔質問〕 子供（中学生）がマイコプラズマでクラリスロマイシン（200）とメプチンミニ（25）を処方された。メプチンミニは初めて服用する。昨晚7時ごろに1回服用したが、服用後胸のドキドキや足もがたがたしていたので、今日の朝の分は飲ませていない。かかりつけ医院も薬局も今日は休みなものでどうしたらいいですか。今は熱も下がり、咳も落ち着いている。

〔回答〕 メプチンミニは気管支をひろげて呼吸を楽にする作用があり、副作用としては動悸やふるえ、頭痛などが報告されています。ただ、この薬は服用後1～2時間後に血中濃度のピークがあり、その後徐々に体から排泄されていきます。副作用の症状であれば時間と共に症状も良くなっていくものと考えます。念のため今日は服用を中止し、明日かかりつけ医にご相談ください。

〔質問〕 7歳と4歳の子供が溶連菌感染症と言われてワイドシリン細粒が処方された。10日分のうち2日分飲んでしまってから気付いたが、薬局のラベルの貼り間違えて兄弟の分が逆になっていた。今日薬局に連絡し交換してもらった。上の子の分を飲んだ下の子は今日から熱も下がり元気になった。上の子はまだよくないないので、2日間量が少なかった分長く飲ませた方が良いですか。

〔回答〕 一般的に溶連菌感染症では10日分の抗生剤が処方されます。今回正しい量で出し直されたお薬が出ていますので、症状の経過をみて不安があれば主治医にご相談ください。

〔質問〕 子供（8歳）の事。溶連菌感染症のためワイドシリン細粒、ピオフェルミン、カルボシステイン、アンブロキソール、アスベリンが処方された。ワイドシリン細粒は初めて服用する。もらった薬を服用したら、急に踊ったり歌ったりするし、話しかけると笑わそうとする。普通と様子が違う感じがするので、その行動をやめるように言うとはっと我に返ったような顔ををした。大丈夫ですか。

〔回答〕 かかりつけ医に相談することを勧めます。ワイドシリン細粒は古くからあるお薬です。現在までに副作用として報告されている症状の中で、異常行動は



沖縄県薬剤師会・消費者くすり相談窓口
「おくすり相談室」受付事例から
消費者専用電話：098-963-8935

非重篤事例で2例、おちつきのなさが非重篤事例で1例報告があります。これらの症状については因果関係がはっきりしておりません。また、小児は高熱に伴い異常行動が起こる事もあるため、こちらではこの症状が薬によるものかどうかの判断は出来ません。体調が悪い時はお子様を一人いさせることのないようお子様のそばにいて注意深く見守ってあげてください。

参考：Meiji Seika ファルマ資料

[質問]1歳の双子の1人だけ歯が黄色く変色している。変色した子だけ小児科からクラリスロマイシンの粉薬をもらって2か月位飲んでいますがそのせいですか。

[回答] クラリスロマイシンによる副作用として歯牙着色があります。色見は黒、茶、グレーなどの黒っぽい感じが多く、年齢は1歳～87歳まで幅広い年齢で報告されています。また詳細がわかっている1例は、1週間服用後1週間～10日後に歯が変色したと報告されています。クラリスロマイシンは多くの会社から販売されていますが、製薬会社によっては、症状があらわれた場合には投与を中止するよう注意喚起しています。主治医にご相談ください。

[質問]1.痰が緑色でマイコプラズマが流行っているからと耳鼻科からプレドニンとアジスロマイシンをもらった。昨日アジスロマイシンを1回飲んだところ3時間後に強い腹痛があった。薬局からもらった文書の副作用に大腸炎とあるが、ずっと痛みが続くのか、間欠的な感じの痛みが出るのか教えて欲しい。便は緩め。抗生剤で昔腹痛が起きたことがある

2.抗生物質の下痢の場合市販薬で整腸薬を買って飲んだら治りますか。

[回答] 1.アジスロマイシン服用後の大腸炎の発現日については、投与開始日や翌日等に起こった等比較的短期間で発症しています。1回の服用で現れる可能性もあります。痛みの度合いや継続した痛み、間欠的な痛みなどの詳細についてはわかっておりませんが、以下を参考にしてください。大腸炎の治療としては整腸剤や鎮痙剤等が使用されています。

・偽膜性大腸炎：水様性下痢、腹痛、お腹の張り、発熱等

・虚血性大腸炎：腹痛、血便、下痢等

2.抗生物質と併用できる整腸剤は市販されてないため、腹痛の件も含め処方医にご相談ください。

[質問]市販の補中益気湯、五虎湯を飲んでいる。漢方薬同士の飲み合わせは大丈夫ですか。

[回答] いずれの漢方薬にもカンゾウが含まれています。漢方薬も西洋薬と同様副作用があります。特にカンゾウは生薬の中でも注意が必要な成分となっています。カンゾウを含む漢方薬を重複し、カンゾウの量が1日2.5gを超えると、偽アルドステロン症の副作用が出る可能性が高くなります。偽アルドステロン症の初期症状では手足のだるさ、しびれ、こわばりがみられます。今回の2種類の漢方薬と一緒に飲まないでください。

[質問]末梢神経疼痛と診断されてプレガバリンOD錠25mgとビタミンB12が処方された。昨日夕方に1回飲んだが、今朝から軽いめまいとふらつきがある。症状は少しずつ良くなってきているが、医療機関も薬局も休みでどうしたらいいかわからない。薬の文書にはそういう症状が出ると書いてある。

[回答]プレガバリンの副作用としてめまいも報告されています。プレガバリンが一番効いている時間は個人差もありますが、服用後約1時間です。また1日量飲むと体から排泄するのにだいたい1日以上かかります。服用後半日以上経っていますので、徐々に体から排泄されているものと考えます。

●妊婦・授乳婦●

[質問]今日発熱があり熱は39℃になっている。カロナールは授乳中でも大丈夫ですか。

[回答] カロナールは妊婦・授乳婦に安全に使用できます。ご安心ください。

●その他の質問●

[質問]いつも出してもらっているカルボシステイン500が供給不安定で不足しているという。どのような状況なんですか？

[回答] 厚生労働省が医療用医薬品供給状況を公表していますが、カルボシステインの全剤形、全規格、先発医薬品のムコダインも含まれています。原材料不足等の問題もあり、しばらくは入手が難しいと思われる。希望される方もいらっしゃると思いますが、現時点ではこのような状況のため、ご理解いただきますようお願いいたします。

[その他ご意見・ご相談]

・12種類の薬を飲んでいる。薬局にあったポスターにオーバードーズと書いてあったから心配になった。

Medical Magazines titles

今月の特集・論文

*薬事情報センターで購読している雑誌の中より特集および文献情報を掲載しました。

【今月の特集】

- ◇ medicina 61 巻 6 号
 - *睡眠にまつわる疑問にすべて答えます！ あなたの患者の睡眠中に何かが起きているかもしれない
- ◇ medicina 61 巻 7 号
 - *この1冊でもう安心！ 内科医が押さえておきたい「しびれ・ふるえ・めまい」の診かた
- ◇エキスパートナース 40 巻 6 月号
 - *2024 年度診療報酬改定／患者さんから入退院にかかわるお金の悩みを相談されたとき
- ◇エキスパートナース 40 巻 7 月号
 - *身体的拘束最小化を看護の質向上につなげる／患者さんが行動変容したくなる生活指導
- ◇きょうの健康 6 月号
 - *高血圧、難聴、痛風
- ◇きょうの健康 7 月号
 - *腰痛、すい臓がん
- ◇月刊薬事 66 巻 8 号
 - *病棟での疼痛マネジメント
- ◇月刊薬事 66 巻 9 号
 - *第一選択薬がないときの次の一手
- ◇産科と婦人科 91 巻 6 号
 - *周産期メンタルヘルスを深掘り！
- ◇産科と婦人科 91 巻 7 号
 - *どうする？ 産婦人科救急 - ハイリスク患者の周術期管理 -
- ◇総合診療 34 巻 6 号
 - *医師のウェルビーイング
- ◇総合診療 34 巻 7 号
 - *どうする！？健診異常 これってホントに異常なの？どう説明する？
- ◇調剤と情報 30 巻 7 号（臨増）
 - *くすりの添加剤大全
- ◇調剤と情報 30 巻 8 号
 - *大変革時代の到来～薬局・薬剤師の新しい価値を創る
- ◇調剤と情報 30 巻 9 号
 - *粉碎可否にどう影響？ 調剤上の工夫と粉碎を考える
- ◇治療 106 巻 6 号
 - *ジェネラリストの外来戦略
- ◇治療 106 巻 7 号

*皮膚外用薬を使いこなす！

- ◇日経ドラッグインフォメーション 319 号
 - *ポイント解説！調剤報酬改定 2024
- ◇日経ドラッグインフォメーション 320 号
 - *薬局でどう売る？ OTC 薬
- ◇日経ドラッグインフォメーション 321 号
 - *新薬から服薬支援まで 認知症 Update
- ◇日本医事新報 5217 号
 - *虐待を疾患ととらえて鑑別するための Tips 集
- ◇日本医事新報 5219 号
 - *クリニックから発信する小児アトピー性皮膚炎治療
- ◇日本医事新報 5223 号
 - *かかりつけ医が見逃したくない軽度認知障害 - 薬剤性 MCI を中心に
- ◇日本医事新報 5224 号
 - *慢性腎臓病（CKD）に使える漢方
- ◇日本医事新報 5226 号
 - *慢性下痢症へのアプローチ - ガイドラインを超えて
- ◇日本医事新報 5227 号
 - *産業医が知らなきゃならない熱中症対策のポイント
- ◇薬局 75 巻 7 号
 - *外来がん治療の「病 - 薬連携」
- ◇薬局 75 巻 8 号
 - * Hey 薬剤師外来

【今月の論文等】

■薬物療法■

- ▶しびれの治療 - 末梢神経障害（神経障害性疼痛）の治療を中心に
Medicina61 (6) p.1046
- ▶ COVID-19 感染によるしびれ、ふるえ、めまい
Medicina61 (6) p.1147
- ▶日常診療で役立つ 皮膚科治療薬の選びかた・使いかた⑥
抗ヒスタミン薬② 薬剤の選びかたと副作用
Medicina61 (6) p.1001
- ▶ LDL コレステロール（LDL-C）治療の考え方
Medicina61 (7) p.1248
- ▶家族性高コレステロール血症（FH）知見の進歩
Medicina61 (7) p.1300

- ▶小児期からの動脈硬化性疾患 予防のための知見
Medicina61 (7) p.1305
- ▶スタチン不耐に処方されたアルファカルシドール
日経ドラッグ インフォメーション (320) p. PE041
- ▶てんかんの女性に葉酸が処方された理由
日経ドラッグ インフォメーション (320) p. 023
- ▶医師が語る 処方箋の裏側～がんの終末期に処方した口ナセンテブ
日経ドラッグ インフォメーション (319) p. PE011
- ▶医師が語る 処方箋の裏側～尋常性乾癬フォーム剤塗りやすさ以外に選ぶ理由
日経ドラッグ インフォメーション (320) p. PE001
- ▶医師が語る 処方箋の裏側～息切れを訴える心不全患者にリオナを処方する理由
日経ドラッグ インフォメーション (321) p. PE011
- 新薬■
- ▶添付文書から RMP、審査報告書まで 新薬ななめ読み [44]
ゴービック®水性懸濁注シリンジ/クイントバック®水性懸濁注射用 (沈降精製百日せきジフテリア破傷風不活化ポリオヘモフィルス b 型混合ワクチン)
月刊薬事 66 (8) p.165
- ▶添付文書から RMP、審査報告書まで 新薬ななめ読み [45]
メグルダーゼ®静注用 1000 [グルカルピダーゼ (遺伝子組換え)]
月刊薬事 66 (9) p.137
- 安全性情報■
- ▶医薬品適正使用・育薬フラッシュニュース
・SNRI による口渴のリスク
・PPI で薬剤耐性腸内細菌の獲得リスクが上昇
薬局 75 (8) p.142
- ▶薬物乱用頭痛 - 頭痛外来での支援
月刊薬事 66 (8) p.92
- ▶腎障害患者への NSAIDs, アセトアミノフェンの考え方
月刊薬事 66 (8) p.89
- ▶COVID-19 ワクチン接種後にきたした肉眼的血尿
日本医事新報 (5222) p.14
- ▶かかりつけ医が見逃したくない軽度認知障害 - 薬剤性 MCI を中心に
日本医事新報 (5223) p.18
- ▶降圧薬服用中に NSAIDs が処方されたら
日経ドラッグ インフォメーション (319) p. PE041
- ▶論文で読み解くくすりのリスク～n-3 系不飽和脂肪酸による心房細動リスクをどう考える？
日経ドラッグ インフォメーション (320) p. PE016
- ▶論文で読み解くくすりのリスク～DOAC 低用量投与の効果とリスク

日経ドラッグ インフォメーション (321) p. PE016

- ▶妊婦に禁忌の外用薬
治療 106 (7) p.825

■薬剤師業務■

- ▶振り返れば国試 [12] SGLT2 阻害薬の服薬指導やモニタリングのポイントは？
月刊薬事 66 (8) p.122
- ▶振り返れば国試[13] 授乳婦への服薬指導のポイントは？
月刊薬事 66 (9) p.157
- ▶粉碎 (脱カプセル) の有用性とリスク～①粉碎法により起こり得る問題点と、実臨床における服薬支援調剤と情報 30 (9) p.8
- ▶外来がん薬物療法を支える！～第一の薬剤師業務の柱―「アドヒアランス評価」の基本―
薬局 75 (7) p.30
- ▶外来がん薬物療法を支える！～第二の薬剤師業務の柱―「服薬評価→支持療法薬・用量変更の提案」の基本―
薬局 75 (7) p.49
- ▶保険薬局におけるがん薬物療法のトレーシングレポートの作成方法
薬局 75 (7) p.82

■漢方療法■

- ▶ぐっとよくなる！ 漢方処方快訣ビフォーアフター〈第 6 回〉漢方治療中に出現した検査値異常～基本的な考え方と実用的アプローチ
薬局 75 (7) p.149
- ▶ぐっとよくなる！ 漢方処方快訣ビフォーアフター〈第 7 回〉妊娠出産を考えている人への漢方処方 駆瘀血剤の使い方・切り替え方
薬局 75 (8) p.148
- ▶漢方薬で読み解く くすりのリスク～漢方製剤による偽アルドステロン症のリスク
日経ドラッグ インフォメーション (319) p. PE018

■その他■

- ▶産業医が知らなきゃならない熱中症対策のポイント
日本医事新報 (5227) p.18
- ▶ほうりつのおとしあな 法律違反事例から学ぶ おじさん薬剤師の憂鬱 他の患者のお薬手帳を間違えて渡してしまいました
調剤と情報 30 (8) p.75
- ▶ほうりつのおとしあな 法律違反事例から学ぶ おじさん薬剤師の憂鬱 「処方医の指示に従ってください」だけでは不十分だったかもしれません
調剤と情報 30 (9) p.90
- ▶気になる小児感染症(2) 先天梅毒が増えてるってホント？
月刊薬事 66 (8) p.111

医薬雑誌ひろい読み

Medical Magazines Browsing

機械にできることは機械に任せる

服薬評価≠アドヒアランス評価

調剤と情報 6月号

薬局 6月号

どんなに気をつけても人間は間違いを起こす生物であるが、機械は指示したことを忠実に正確に実行する。同薬局ではヒューマンエラーを防止し「正確で安全で迅速な調剤」という信頼を得るために医薬品自動入庫払出装装置（BD RowaTMVmax、以下「装置」）、一包化監査支援システム（PROOFIT 1 D）などの機械を導入した。例えば装置導入前後でヒヤリ・ハット件数を比較調査したところ、発生率は全体で2.81%（93/3,313件）および0.35%（12/3,452件）と統計学的に有意な減少が認められた（ $p < 0.001$ ）。内容は「薬剤取り違い」「規格・剤形間違い」「計数間違い」および「調製忘れ」とすべてヒューマンエラーによるものであり、装置導入前後で統計学的に有意な減少が認められた（ $p < 0.001$, $p = 0.014$, $p < 0.001$ ）。また勤務薬剤師12名にアンケートを行ったところ、全員が「装置を利用した調剤は利用しない場合と比べて薬剤の取り違いに関する精神的負担が少ないと感じる」と回答した。機械運用により業務を効率化でき、薬剤師は時間と精神的なゆとりを患者対応に注力できるようになったといえる。

合同会社オフィス磯部
磯部 紀子

アドヒアランス評価と聞くと、残薬確認を通して服薬状況を把握することをイメージする薬剤師は多い。確かに残薬把握と薬剤整理は薬剤師にとって必要な業務の一つだが、服薬状況の把握はコンプライアンス（服薬遵守）を評価しているにすぎない。アドヒアランスは「患者が治療を十分に理解・納得して積極的に服薬を継続しようとする姿勢」であり、「処方されたとおりに服薬する」というコンプライアンスの概念とは大きく考え方が異なる。アドヒアランス評価においては服薬状況の評価だけではなく、適正に服薬できていない場合にその理由を考えることが必須である。また患者は充実した時間を過ごすために治療を受けているのであり、治療はその手段にすぎない。服薬評価の観点のみで考えていると、治療に患者を過度に縛ってしまうことになりかねない。そのため、エビデンス（生存期間延長やQOLの維持・向上）や患者の思いを踏まえ、総合的なアドヒアランス評価を行うことが重要である。

横浜市立大学付属病院 薬剤部
坂本 靖宜・小泉 宏史・清水 絢子

しびれの治療

末梢神経障害（神経障害性疼痛）の治療を中心に

medicina 6月号

神経障害性疼痛は”体性感覚神経系の病変や疾患によって引き起こされる疼痛”と定義され、現時点では個々の病態ごとの特異的な治療法は限られているのが現状である。神経障害性疼痛のある患者が感じる痛みの範囲は、障害された神経の皮膚分節と完全に一致しないこともあり、神経学的に妥当かの判断は慎重に行う必要がある。また病変を評価するための検査として、MRIやCTなどの画像検査や、神経伝導検査などがあるが、これらで評価できない疾患や病態もあることに注意する必要がある。第一選択薬はプレガバリン、ガバペンチン、デュロキセチン、三環形抗うつ薬などがある。プレガバリンは中枢性・末梢性いずれにも鎮痛効果があり、睡眠の質や抑うつ/不安を改善することも示されており、QOLの改善にも寄与するとされる。第二選択薬にはワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液（帯状疱疹後神経痛）、トラマドールなどがある。第三選択薬にモルヒネやフェンタニルなどのオピオイド鎮痛薬が挙げられる。このように病変や治療は多岐にわたるため個々の患者に適した治療薬を選択し、QOL向上を目指すことが重要である。

佐賀大学医学部内科学講座脳神経内科
吉川 正章・小池 春樹

Triple Whammy処方で一番気を付けるべきはNSAIDs

月刊薬事 6月号

NSAIDsはCOXを阻害することによってPGの合成を阻害して、腎虚血による腎前性の急性腎障害（AKI）を起こす。特に慢性腎臓病（CKD）患者と高齢者で発症しやすく、常に抗菌薬と並んで薬剤性AKIの原因薬物のトップである。同様に腎血流量を低下させる利尿薬と腎虚血を助長するレニン-アンギオテンシン系（RAS）阻害薬（ACE阻害薬、またはARB）+NSAIDsは腎機能を悪化させる三重攻撃（Triple Whammy:TW）処方といわれている。ただし、RAS阻害薬は蛋白尿（+）のCKD患者・糖尿病患者の降圧薬の第一選択薬である。また、利尿薬との組み合わせは相乗効果によって強力な降圧作用を示し、慢性心不全にも無症状の早期から投与すべき第一選択薬とされている。このようにRAS阻害薬や利尿薬にはさまざまな利点がある。しかしNSAIDsの副作用は深刻で、低用量アスピリンを除き、痛みを抑える以外のメリットはない。TW処方だけではなくNSAIDsとRAS阻害薬や利尿薬との併用により速やかにAKIが起こることが示されている。しかし現実にはNSAIDsの漫然投与は後を絶たない。薬剤師はこのように明らかに患者に不利益な処方に対して無力であり続けてはならない。

I&H（株） 学術研修部
平田 純生

Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

★印は事務局カウンターまたは、情報センターに見本があります。

★【日薬幹旋図書】調剤報酬点数表の解釈 令和6年6月版

【発行】社会保険研究所 【発行日】2024年6月

【版型/頁】A4判/1,060頁 【定価】4,950円(税込) 【幹旋価格】4,213円(税込)

調剤報酬の算定・請求に必要な情報を実務上活用しやすいよう編集、法令上の根拠とともに示し、調剤報酬点数表に関する疑義解釈(Q&A)については、今回改定関連に加え、従来示されたものの内容を整理して掲載、調剤薬局での実務に必要な情報を網羅。

「薬剤使用に関する保険診療上の取扱い通知」や、診療報酬点数表(医科・歯科)の薬剤関連部分も掲載。幅広い視点からの編集が魅力。

「関係法規・通知編」では、保険調剤や病院薬剤部に関連する保険情報(療養担当規則、施設基準等)をまとめるとともに、処方箋や介護保険までの関連情報を掲載。

★【日薬幹旋図書】投薬禁忌リスト 令和6年版

【編著】医薬情報研究所【発行】じほう 【発行日】2024年4月

【版型/頁】B5判/636頁 【定価】4,840円(税込) 【幹旋価格】4,400円(税込)

添付文書中の警告・禁忌・併用禁忌および妊婦・授乳婦・小児・高齢者への禁止事項、重大な副作用を製品ごとにまとめた決定版！

“投与しない”“授乳中止”などの禁止事項がある場合のみ掲載。併用禁忌の欄では、表組を採用、“↑”“↓”の記号を用いて表現を簡潔にし見やすくした。重大な副作用は、症状のみを列記し、発現頻度は具体的な数字があるものだけをピックアップ。

★【日薬幹旋図書】薬効・薬価リスト 令和6年版

【編著】医薬情報研究所【発行】じほう 【発行日】2024年4月

【版型/頁】B5変型判/1,108頁 【定価】7,370円(税込) 【幹旋価格】6,600円(税込)

レセプト業務向けに、薬価基準収載医薬品の薬価、効能・効果、用法・用量、禁忌・併用禁忌、保険の扱い(厚生労働省保険局通知の概要)を1冊に収録。

「内用薬」「外用薬」「注射薬」「歯科用薬剤」の投与経路別に商品名の50音順に掲載し、後発医薬品、先発医薬品、準先発品などにわかりやすいマークを付した。

2023年1月から運用開始の電子処方箋で使用できる「YJコード」および「電子処方箋対応 YJコード医薬品名」が確認できる。

★【日薬幹旋図書】保険調剤 Q&A 令和6年版

【編著】日本薬剤師会/編 【発行】じほう 【発行日】2024年6月

【版型/頁】A5判/408頁 【定価】2,970円(税込) 【幹旋価格】2,530円(税込)

薬局の現場で生じる疑問や質問をもとに、調剤報酬上の解釈と算定の仕方をQ&Aにまとめている。最新版では令和6年度調剤報酬改定に対応し、調剤基本料の考え方をはじめ、調剤管理料、服薬管理指導料、かかりつけ薬剤師指導料、外来服薬支援料などを取り上げて解説。日常業務で気をつけなければならないポイントがひと目で確認でき、日々の薬局業務の疑問解決に役立つ1冊。

Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

★印は事務局カウンターまたは、情報センターに見本があります。

★【日薬幹旋図書】保険薬局 Q&A 令和6年版

【編著】日本薬剤師会/編 【発行】じほう 【発行日】2024年8月下旬
 【版型/頁】A5判/約350頁 【定価】2,640円(税込) 【幹旋価格】2,310円(税込)
 処方箋受付、疑義照会、麻薬の取り扱い、後発医薬品や訪問薬剤管理指導など、薬局業務を行ううえで知っておかなければならないポイントをQ&Aにまとめた書籍で、「保険調剤Q&A」の姉妹版。

★【日薬幹旋図書】ハイリスク薬チェックシート 第5版

【編著】田中 守/監、井門 敬子/編 【発行】じほう 【発行日】2024年6月
 【版型/頁】B5判/410頁 【定価】4,730円(税込) 【幹旋価格】4,180円(税込)
 ハイリスク薬が処方されているケースでは、患者の病態、服薬開始時の患者説明、服薬状況を把握した上で副作用の早期発見、重篤化防止のための継続的な服薬指導や薬学的管理を行うことが不可欠。本書は、ハイリスク薬が処方された患者に対して、薬学的管理業務の標準化と質の向上を目的に効率の良い「ハイリスク薬のチェック」を実践するための重点ポイントをまとめた1冊。
 専用サイトでダウンロード可能なチェックシート(PDF版・Word版)を活用することで、どのレベルの薬剤師でも重点ポイントを漏らすことなく薬学的管理を行うことができる。

★【日薬幹旋図書】居宅療養管理指導マニュアル 第5版

【編著】神奈川県薬剤師会医療・介護保険委員会/著 【発行】じほう 【発行日】2024年7月
 【版型/頁】A4判/176頁 【定価】3,410円(税込) 【幹旋価格】3,080円(税込)
 薬剤師が行う居宅療養管理指導について、その前準備から報告書作成までをこの1冊で紹介。第5版では、読者の皆さまからご要望の多かった薬学的管理指導計画書や居宅療養管理指導報告書の参考例を大幅に増やした。老老介護、独居、緊急訪問、処方提案、ポリファーマシーの改善、多職種との連携など、さまざまな例を皆さまの計画書・報告書作成に役立つ。また、麻薬小売業者間譲渡やサービスコード表も掲載。

緩和ケア ポケットマニュアル 改訂3版

【著者】緩和アカデミー 代表 宇井睦人 【発行】南山堂 【発行日】2024年5月
 【版型/頁】三五変型判/311頁 【定価】2,750円(税込)

医師・看護師・薬剤師などが必要な事をその場でサッと確認できる緩和ケアの定番書！最新版ではあらたに「緩和戦略」が追加され、現場で必要とされる「考え抜く力」を身につけることができます。病棟・外来・在宅など、さまざまなシーンに対応した豊富な処方例・指示例を中心に、本当に必要な情報を持ちやすく見やすいサイズ。ポケットサイズながら、通読すれば緩和ケアに必須の知識を一気に獲得することも可能。

薬事情報センターの利用のしかた

○業務内容

(1)医薬品情報の提供 (2)「薬事情報おきなわ」の編集・発行 (3)医薬品に関するお問い合わせ (4)県薬ホームページの制作・管理 (5)消費者薬相談業務「おくすり相談室」 (6)ドーピング防止ホットライン業務

○業務時間

(会員対象) 平日 午前：8時30分～12時 午後：1時～5時30分 (土・日・祝日休業)

(一般対象) 「おくすり相談室」・「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」

平日(月～金) 午前：9時～12時 午後：1時～5時

※おくすり相談室及びドーピング防止ホットラインの電話は **098-963-8935** になります。お気軽にご利用ください。

TEL：098-963-8931 FAX：098-963-8937

～お 知 ら せ～

令和6年度

医療機器販売等の営業所管理者・医療機器修理業の責任技術者に対する継続研修
～ 高度管理医療機器等継続研修会の開催について～ (予告)

日 時：令和6年12月1日(日)～12月7日(土) ※Web研修会

対象者：薬機法施行規則第168条及び第175条第2項に基づく高度管理医療機器(コンタクトレンズを含む)・特定管理医療機器(家庭用電気治療器、補聴器等)の販売業及び賃貸業の届出をしている事業所の管理者。薬機法施行規則第194条に基づく医療機器修理業の責任技術者。

※詳細につきましては、10月上旬頃にFAX一斉同報・HP等にてご案内いたします。

「サイバー攻撃を想定した事業継続計画(BCP)策定の確認表」について

この度、厚生労働省において、サイバー攻撃を想定した事業継続計画(BCP)の確認表および同確認表を解説した手引きが作成されました。つきましては、本会ホームページに周知に係る資料を掲載しておりますので、下記要領にてご確認の上、サイバーセキュリティ対策等にご活用ください。

【チェックリスト掲載場所】

沖縄県薬剤師会ホームページトップ>

医療機関におけるサイバーセキュリティ対策について(動くポスターの上) >

【薬局用】サイバー攻撃を想定したBCP策定の確認表(令和6年6月)

【薬局用】サイバー攻撃を想定したBCP策定の確認表のための手引き(令和6年6月)

第37回沖縄県薬剤師会学術大会の演題募集について

会 員
部 会 長 各 位
地区会長

沖縄県薬剤師会 会長 前濱 朋子
沖縄県病院薬剤師会 会長 中村 克徳

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、標記学術大会を、**令和6年11月24日（日）沖縄県薬剤師会館およびWEB**にて開催することになりました。つきましては、下記により演題を募集しますので、多数のお申し込みを頂きますようお願い申し上げます。ただし、原則として1グループ企業1演題とします。

記

1. 演題募集部門名

- | | | | |
|----------|-----------|----------|---------------|
| ①保険薬局部門 | ⑤行政薬剤師部門 | ⑨医薬品情報部門 | ⑬OTC・健康食品関連部門 |
| ②学校薬剤師部門 | ⑥病院診療所部門 | ⑩試験検査部門 | ⑭災害・感染症関連部門 |
| ③女性薬剤師部門 | ⑦卸勤務薬剤師部門 | ⑪地区・支部部門 | ⑮その他 |
| ④公衆衛生部門 | ⑧青年薬剤師部門 | ⑫多職種連携部門 | |

2. 発表時間・方法

時間：1演題 10分（発表8分、質疑応答2分）

※演題の応募状況によっては、調整させていただくことがあります。

方法：口頭発表（Power Point）

申込方法と提出データについて

沖縄県薬剤師会ホームページ「お知らせ（薬局・薬剤師の皆様へ）」よりお申し込みください。

＜県薬HP → お知らせ（薬局・薬剤師の皆様へ）＞

→ 第37回沖縄県薬剤師会学術大会の演題募集について＞

●申込・講演要旨提出締切●

令和6年9月29日（日）まで

今年度より、申し込み時に要旨提出が必須となります。
要旨提出の無い場合は申込受付致しかねますので、
ご注意くださいようお願い申し上げます。



演題募集申し込み

- ①講演要旨：「講演要旨作成要領」（裏面に記載）に従って作成し、下記問い合わせ先のアドレスにメールでご提出ください。
- ②発表データ：原則 Power Point での作成をお願いいたします。

※講演要旨作成要領は裏面に記載されています。

【お問い合わせ】沖縄県薬剤師会事務局

TEL:098-963-8930 E-mail: study@okiyaku.or.jp

- ＜作成見本＞

← **演題** ・ 文字列を左に揃える
書体は MS ゴシック 14 ポイント

← **所属・氏名（発表者及び共同研究者）**
・ 文字列を右に寄せる
書体は MS 明朝 11 ポイント

← **本文** ・ 見出しを記載する。
【はじめに】
【目的】
【方法】
【結果】
【まとめ】
【考察】 等

・ 文字列を左に寄せる
・ グラフ、表の掲載可能
書体は MS 明朝 11 ポイント（見出しは太字）

← **用紙の余白**
上：2.5 cm程度、左・右・下：2cm 程度

○人を対象とした研究の場合、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」や「ヘルシンキ宣言」等の関連指針に則った倫理的な配慮が必要です。その場合は発表中にその旨開示してください。

試験検査センターからのお知らせ

～学校環境衛生検査実施中！～

令和6年度の学校環境衛生検査について、夏期に室内化学物質検査やダニ検査を実施する県立及び市町村立学校がありますので、該当する学校薬剤師の方で検査の期間や実施についてご質問等ありましたら、試験検査センターまでご連絡ください。

今号のキーワード 【暑さ指数（WBGT）】

毎回、気になるワードをご紹介します。今回のキーワードは「暑さ指数（WBGT）」です。

暑い日が続き、ニュースで「熱中症警戒アラート」の発表を耳にすることも多くなりました。熱中症警戒アラートは2021年から環境省と気象庁により運用されており、「暑さ指数（WBGT）」が33を超えると発表されています。また、暑さ指数（WBGT）が28を超えると熱中症患者が増加するデータもあります。

ここで指標となる暑さ指数（WBGT）とは、黒球温度、湿球温度及び乾球温度をもとに算出された暑さを表す数値です。



（屋外）WBGT = 0.7 × 湿球温度 + 0.2 × 黒球温度 + 0.1 × 乾球温度

（屋内）WBGT = 0.7 × 湿球温度 + 0.3 × 黒球温度

上記の計算式からもわかるように暑さ指数の7割は湿球温度計の値により決まっています。湿度が高い（湿球温度が高い）環境では、例えば気温がそれほど高くない場合でも熱中症になるリスクは高くなります。

実際の測定は黒球温度と非通風式乾湿計（アウグスト乾湿計）の2種類の温度計を使用して暑さ指数（WBGT）を計算しています。最近では小型の黒球を備えた小型のデジタル式「暑さ指数計」が販売されているので学校等ではこちらが使用されています。

黒球温度計：輻射熱（日射）の影響をみる測定器で、球体状で中は空洞、直径約2.4～15cm
色はつや消し黒色、球体の中心部の温度を測定する

非通風式乾湿計：2本のガラス製温度計を枠に固定し、一方の温度計の球部をぬれたガーゼなどの布で包むことにより断熱飽和温度を測れるようにしたもの

現在、学校やスポーツ競技や職場などで各省庁を通じて暑さ指数利用が呼びかけられています。毎日の暑さ指数は環境省のホームページで確認することができますので、天気予報と同様に活用してはいかがでしょうか。 ※参考：環境省 熱中症予防情報サイト

ひきつづき利用契約推進中！

試験検査センターでは、会員の皆様のご利用をお待ちしています。

私達は、困った時の検査センター、会員のための検査センターをモットーに頑張っています。

※利用契約の詳細は、以下の連絡先に連絡下さい。

連絡先：試験検査センター 電話：098-963-8934 Mail：siken@okiyaku.or.jp

県民の皆様へ

薬剤師会をご活用ください！

やくたっ
薬達ちゃーより

あま^{やくだ}くま薬立つ情報

➤ 健康とおくすり相談会

健康とおくすり相談会は、県内各地（離島も含む）の公共の施設や広場、デパート、ショッピングセンターにおいて、毎月開催！薬剤師がアドバイザーとして、直接、お薬や健康について無料で相談に応じています。また、相談会場では体成分測定機や動脈硬化度チェックなどの機器も備え、皆様の健康維持に役立つように取り組んでいます。（会場によっては、測定機器の内容が変わることがあります。）

開催日時や会場、相談会内容などについて、お気軽にお問い合わせください。

電 話 098-963-8930

➤ おくすり相談室

県民の皆様からのお薬に関する疑問、質問にお答えしています。お気軽にご相談ください。（薬局・薬店で販売されているお薬や調剤されたお薬についてのご相談など）

電 話 098-963-8935

➤ 試験検査センター

試験検査センターでは、薬事法施行規則第12条第1項に関する試験検査機関の登録機関として、医薬品等の検査を行っています。

薬局で調剤されたお薬について検査を行いたい時にご相談をお受けします。（検査の際は、調剤した薬局やその他の機関への協力を仰ぐことがあります。）

なお、当センター施設設備では対応が難しい場合がありますのでご了承ください。

電 話 098-963-8934

e-mail siken@okiyaku.or.jp

➤ 薬局情報・その他

沖縄県薬剤師会から県内の「薬局マップ」が得られます。禁煙サポート薬局や訪問服薬指導実施（在宅支援）薬局などの薬局情報もお知らせします。ぜひ、あなたの“かかりつけ薬局”をおもちになってください。（詳細は沖縄県薬剤師会ホームページを閲覧ください。）

沖縄県薬剤師会ホームページでは、「沖縄の薬草」や「サプリメント」などの情報も随時アップ
＜ホームページアドレス <http://www.okiyaku.or.jp>>



ラーメン

がねこ薬局
池田 武俊



皆さんラーメンは好きですか？私は今もラーメンを食べながら、リレー随筆でラーメンについて語ろうと決めました。この度、リレー随筆のバトンを受け取りました。がねこ薬局の池田と申します。

私は週に4回くらいラーメンを食べています。自他ともに認めるラーメンマニアであると思っています。私がラーメンにハマったのは大学1年生の頃からです。私が沖縄から上京する以前、約20年前には沖縄にはあまりラーメン屋がなかったと思います。正確にはあったのですが、街の中華屋さんだったり、チェーン店だったり、個人でこだわりのラーメンを作るお店はほとんどありませんでした。僕が大学生のときは、ラーメンブームが過熱していて、麵屋 武蔵、池袋 大勝軒などブームの火付け役が大繁盛していた時でした。週末ラーメンブックを片手にかなりの店を食べ歩きました。当時はスマホのグーグルのナビもなかったのでラーメンブックの地図を頼りに探し歩きました。今では考えられないですね。私は東京に10年近く住んでいましたが、50軒以上100軒いかないくらいは食べていると思います。そして27歳の頃に地元、沖縄に戻ってくるのですが、沖縄でも東京から数年遅れて、ラーメンブームが巻き起こっていました。沖縄でもラーメンの有名店という言葉が使われるようになり、三竹寿、つけ麵ジンベエ、風雲etcが行列を作っていました。

そこで、いつも話題になるのが、どこが一番美味しいの？というこれは永遠のテーマですよね。ラーメンには、たくさんのバリエーションがあり、人それぞれに好みがあるため議論が尽きないところがまたラーメンの魅力

でもあります。私も今までに豚骨魚介つけ麵、横浜家系ラーメン、二郎系ラーメンなど色々なラーメンにハマってきましたが、ここ数年の私のマイブームは昆布水つけ麵です。

ラーメンににんにくを入れることを思いついた人は天才だと思います、豚骨スープと魚介スープを混ぜることを思いついた人も天才だと思います。そしてこの昆布水つけ麵を考えた人も私は天才だと思っています。通常のつけ麵は食べているうちにつけ汁が麵からの水分で薄くなり、段々味が薄くなっていくということが起こるのですが、昆布水つけ麵は麵がどうるんどうるんの昆布水に浸かっており、麵をつけ汁に入れるたびに昆布の旨みが加わり美味しくなるという仕組みです。

私のお気に入り、与那原にある有名店ですが名前は伏せさせていただきます。(現在つけ麵は夏季限定)調べればすぐわかると思いますが…

私は現在40歳になります。年齢や体の衰えと共に味の好みも変わっていくと思いますが、ラーメンの食べ歩きをこれからも続けていくでしょう。美味しいラーメン情報があればご一報下さい。



次号には、黒島 新 先生がバトンを受けて下さいました。ご期待下さい！

第65回 暮らしの中の薬草学 身近な薬草を知ろう

女性薬剤師部会
副部会長 狩俣 イソ



月桂樹は西洋（地中海）のイメージがあり、沖縄に生息するとは思いませんでした。沖縄に、身近に月桂樹農園があると知り、嬉しくなって今回のテーマにしました。

月桂樹：ローレル

学名 *Laurus nobilis* L. (1753)

科名 クスノキ科 Laureaceae

属名 ゲッケイジュ属 *Laurus*

使用部位 葉・実・枝

有効成分 ケンペロール、シネオール、リナロール



【月桂樹の名称】

英語の Noble Laurel を中国語に訳して「月桂樹」と名付けられ、ゲッケイジュと日本では音読みしている。学名の *Laurus* はラテン語で「称賛」を意味する *laudis* に由来し、種小名 *nobilis* は、高貴・気品のあることを意味し、勝利や栄誉の象徴とされる。古代ギリシャにおいて、競技の勝者に枝葉で作った月桂冠を贈る習慣があり、ローマ帝国でシーザーが戦勝を記念して月桂冠を被ったこと、ローマ時代、森までのレースで森へ行った証拠として月桂樹の枝を持ち帰ったことなどによる。

陰干しした葉は「ローリエ」「ベイリーフ」として流通し、芳香と苦味があり、魚や肉の煮込み料理、カレーなどに用いられる。クッキングハーブとも呼ばれる。

【月桂樹の形態】

地中海沿岸域を原産地とするクスノキ科ゲッケイジュ属の常緑高木。樹皮は黒褐色、皮目と呼ばれる点々が見られるが、樹齢を重ねても滑らかさを保つ。幹の直径は最大30cmほどで真っすぐに伸びる。葉柄は長さ約1cm、紫色、葉は長さ5～12cm、幅2～5cmの長楕円形で両端が尖り、互生する。質は革質で硬く、表面は深緑色で光沢があり、

裏面は淡い緑色、中央にある葉脈は両面とも色が薄い。葉の縁は波形、若葉では細かなギザギザがある。碎くと芳香がある。散形花序を腋生し、雌雄異株。雄株と雌株を比べると雌株の葉の幅がより狭いとする説があるが、花のない時季に両者を見分けるのは難しい。雄株に咲く雄花にはおしべが8～12本あり、黄色い葯が目立つ。雌株に咲く雌花は雄花よりも小さく、1本のめしべと退化した4本のおしべがある。花被片はいずれも4枚。花には特有の香りがある。開花は4～5月。葉の脇に伸びた短い花序に直径1cm前後の黄色の小花が二輪ずつ垂れ下がって咲く。花が終わると雌株には直径8～11mmほどの楕円形の液果ができ、10月頃に黒紫色に熟す。果皮は薄く、茶褐色の種子が一粒入る。

日本へは明治時代に渡来し、明治初年には開拓使の青山の圃場に入ったといわれている。日露戦争の戦勝記念として東郷平八郎、上村彦之丞の両海軍大将によって日比谷公園に植栽されて、各地に広まった。関東地方から九州、沖縄までの範囲で植栽される。

【月桂樹の効能効果】

葉、果実ともに芳香性苦味健胃、駆風、去痰、利尿作用があるほか、フグの解毒作用もある。抗菌・抗ウイルス効果もあり、風邪やウイルス性の感染、口腔内の潰瘍に効果がある。神経痛やリウマチにはエキスや煎液を外用する。不眠症には浴湯料としたり、ポプリを利用したりする。

果肉には芳香があり、月桂油として健胃、リウマチ、疥癬の治療に使われる。果実を搾って得られるローレルオイルは主に石鹸の原料として使われ、ニキビ・フケ・体臭等を抑える効果が謳われている。実をアルコールやローションに1週間ほど浸した液が、頭髪の発毛・育毛剤として利用されている。精油

は頭皮から吸収され、髪を保護する皮脂腺に作用して、コンディションを整える。特にフケやかゆみには、殺菌作用のある月桂樹の精油を無添加のシャンプーに混ぜて、洗髪時に使用すると効果的である。

【月桂樹の成分】

葉には精油 1-3% が含まれており、精油成分はシネオール約 50%、オイゲノール約 1.7%、ゲラニオール、ピネン、テルピネン、セスキテルペンなどである。果実には、ラウル酸のグリコシドを主成分とする脂肪油約 25% と、シネオール、ピネン、ラウル酸などの精油約 1% を含んでいる。精油はヒトの味覚神経を刺激し、唾液や胃液の分泌を促して食欲増進作用がある。また浴湯料として血液循環作用がある。モノテルペノイドの一種シネオールやゲラニオールには、芳香健胃薬的な働きがあり消化を促進し食欲を増進させる。食材の臭みを消し、防腐効果がある。モノテルペン炭化水素類のビネン、サビネンには、炎症を緩和して関節痛や神経痛を和らげる効果や、うっ滞除去、強壮、去痰作用がある。また、うつやパニック時に、情緒を安定させる効果もあるため、浴湯料やポプリ、不眠症のハーブピローなどにも利用されている。防虫効果もあり、嫌な虫を寄せつけず、米びつなどに入れておくだけで虫除けが期待できる。

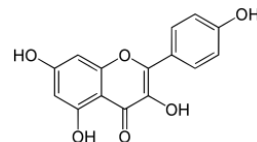
シネオールや、モノテルペンアルコール類のリナロールは、抗菌、抗ウイルス作用がある。またフェノール類のオイゲノールには、強い殺菌力がある。

【月桂樹の研究情報】

- ・月桂樹の中に血管を拡張する作用を示す物質が含まれていることが明らかになった。人体への効果については検証されていないという情報もある。
- ・月桂樹は、唾液、唾液の α アミラーゼの活性を阻害する働きがあり、食後、急激な血糖上昇を防ぐことが分かった。
- ・月桂樹の葉に強いアルコール吸収抑制活性が認められる。その活性本体は、 α -メチレン- γ -ブチロラクトン構造を有するセスキテルペン類であり、作用機序として、胃液分泌の亢進や胃排出能抑制作用などが関与している。
- ・月桂樹の葉抽出物は、グラム陽性細菌(黄色ブドウ球菌、連鎖球菌)、カビなどの真

菌(黒カビ、クリプトコッカス、アスペルギルス)などの病原微生物の生育を抑える働きがある。

【月桂樹由来kaempferol(ケンペロール)配糖体のMRSA活性とその作用機構】

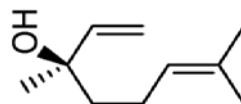


ケンペロール

月桂樹の葉に MRSA (抗メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)、VRE (バンコマイシン耐性腸球菌) に対して抗菌活性が非常に強い物質が含まれることを見出された。

抗菌物質 kaempferol 3-O- α -L-(2'',4''-di-E-p-coumaroyl)-rhamnoside 及び kaempferol 3-O- α -L-(2''-E-p-coumaroyl-4''-Z-p-coumaroyl)-rhamnoside を単離・同定された。これら両成分の抗菌活性や作用機構について解析を進めた結果、複数の抗菌薬に対して耐性となっている様々な MRSA 株に対して、非常に強い抗菌活性が示された。さらにバンコマイシンに高度に耐性化した E. faecium、E. faecalis の VRE 株に対しても抗菌活性が示された。

【リナロール香気の持つ抗不安作用】



リナロール香気が嗅覚系を介して抗不安作用があることが明らかになった(マウス)。この抗不安作用は、内在性のベンゾジアゼピン様物質を介した神経伝達によって制御されていることも示唆された。

【月桂樹葉揮発成分の注意力維持効果】

月桂樹に作業効率の低下抑制効果という新たな機能性を見出した。作業効率を評価するプログラムとして視覚刺激ビジュランスプログラムを使い、プログラム実行中のローレル乾燥葉からの揮発成分および成分量についても明らかにした。

参考: Aroma Research11号4ページ わかさの秘密、カゴメ株式会社総合研究所 大塚菜緒 岡山大学、熊本大学薬学部薬用植物園 柏谷英樹 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 田中孝治『効きめと使い方がひと目でわかる 薬草健康法』

薬連だより

令和6年度 沖縄県薬剤師連盟定時評議員会

日時：令和6年6月16日（日）13:00～13:25

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

<式次第>

会長あいさつ

議題

報告 第1号	令和5年度会務並びに会計監査報告の件	監事	山里 勇
議案 第1号	令和5年度会務および事業報告書の件	幹事長	石川 恵市
第2号	令和5年度収支決算書の件	会計責任者	川満 直紀
本田顕子参議院議員メッセージ動画放映			

司会 組織強化担当 知名 博樹
会長 前濱 朋子

沖縄県薬剤師会定時総会に先立ち、沖縄県薬剤師連盟定時評議員会が開催された。

司会進行の知名組織強化担当より、本評議員会の議長について、本連盟会則第12条第3項に「評議員会の議長は会長とする。ただし、会長は総務の中から議長を委任することができる。」とあることから、先だって、会長から議長を委任されたことが述べられ、議長を務めた。

新型コロナウイルス感染症等の予防対策に留意した上で会場を設けているが、発熱や風邪様症状等があり体調に不安がある場合等は参加の自粛を要請、また欠席の場合は、「予備評議員を出席させる」もしくは「議決権の代理行使」を提出していただくよう案内していた。現地参加した評議員は33名、「議決権の代理行使」を議長に委任することで出席の提出をした評議員が12名の計45名であった。本連盟会則第15条に、「評議員会は評議員の過半数の出席をもって成立し、承認および議決は出席者の過半数をもって決するものとする」とあることから、評議員数48名の内、過半数の45名が出席扱いとなり、議長が開会を宣言した。

前濱朋子会長が、先月行われた全国支部訪

問へご協力いただいた会員へのお礼を述べ、「超高齢社会における医療や医薬品の提供体制、薬剤師の確保や女性が活躍できる社会の実現、医薬品の流通や安定供給など、さらに直近では物価高騰や医療DXなどまだまだ解決すべき課題が多数ある。我々と課題を共有する薬剤師議員の政治活動は、絶対的に必要である。」と挨拶した。

報告第1号「令和5年度会務並びに会計監査報告の件」では、山里勇監事が、監査意見について報告した。

- (1) 収支決算書、貸借対照表、財産目録等は、会計帳簿の記載金額と一致し、収支状況及び財政状態を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (3) 役員の職務執行に関する不正の行為等の重大な事実はないと認める。

と、報告書を読み上げて監査報告とした。

議案に入り、議案第1号「令和5年度会務および事業報告書の件」を石川恵市幹事長、議案第2号「令和5年度収支決算書の件」を川満直紀会計責任者が説明した。

議案事項における主な提案は、次の通りである。

議案第1号「令和5年度会務および事業報



司会・議長
知名博樹組織強化担当

会長あいさつ
前濱朋子 会長

報告第1号
山里勇 監事

議案第1号
石川恵市 幹事長

議案第2号
川満直紀 会計責任者

告書の件」では、主な事業として「沖縄県薬剤師連盟定時評議員会」、「令和5年度日本薬剤師連盟九州ブロック協議会」、「沖縄県薬剤師会青年薬剤師と市町村若手議員との勉強会」、「沖縄県薬剤師連盟若手薬剤師フォーラム」について報告した。

沖縄県薬剤師連盟若手薬剤師フォーラムについては、青年部会と共に協力し活動していきたいとし、また、この日実施されている糸満市議会議員補欠選挙について触れ、今後、若手薬剤師の地方議員が沖縄県で初めて誕生する可能性がある」と述べた。

議案第2号「令和5年度収支決算書の件」では、科目ごとの数字を読み上げ、その後詳細について説明した。

収入については、会費収入は若干増加したが、寄付金収入が前年度を下回った。

支出については、管理費の大半は薬剤師会

への事務委託費である。次年度以降のSNS活動に必要な物品購入、事業費については県外や離島への出張及び議員報告会等の支出がほとんどであるが、いわゆる選挙イヤーであった令和4年度と比較すると全体的に減少している。

令和5年度の収支決算書は損失となっているが、次年度は、日本薬剤師連盟より、参議院議員通常選挙活動助成金が交付されることもあり、今年度より改善する見込みであると報告した。

各議案について、挙手による採決を行い、いずれも賛成多数で承認・可決された。

閉会前に、本田顕子参議院議員からの最新メッセージ動画を閲覧し、令和6年度沖縄県薬剤師連盟定時評議員会は終了した。

(文責:事務局 大城喜仁・玉寄博之・川平真央)

薬連だより

オレンジ日記

時節到来
～来夏に向けて～

参議院議員・薬剤師
本田 顕子



新型コロナウイルス感染症の感染症法における位置づけが2類相当から5類に見直されてから約1年が経過しました。引き続き基本的な衛生管理に努めながらではありますが、ようやく従来のように広域に移動できるようになりましたので、各都道府県および各支部の皆様から多くのご案内をいただき、国政報告やご挨拶をさせていただいておりますことに感謝申し上げます。

全国各地で医薬分業の歴史に触れる中で、私は第19代日本薬剤師会会長の石館守三先生の次の言葉を紹介させていただいております。

『日本では、製薬とか、有機化学とか、薬学のレベルは高くなったが、その薬学の学問を国民に還元するのは薬剤師の務めである。しかるに、わが国の薬剤師の現状をみると、正当に社会的に評価されていないように思える。薬剤師に力がなかったら、薬学の本当の将来はない。(昭和45年)』

いまから約50年前に守三先生が述べられたこの言葉には、薬学を学んだ薬剤師が国民のために力を発揮して、正当に評価されるようにならなければ薬学の価値はない、という意味が込められていると思っています。

薬剤師議員である私も薬剤師として、国民の命と暮らしを守るため、長引く医薬品の供給不足の現状をしっかりと捉え、製造・品質の管理体制の整備、中間年改定を始めとする薬価引下げの影響、さらには経済安全保障の観点での原薬調達に関する課題解決に向けた議員活動の一つひとつについて、全国を訪問させていただく中で精一杯お伝えし、皆様からのご指導もいただいて政策実現につなげてまいります。

お知らせ

沖縄県薬剤師連盟 Facebookをご覧ください！



下記アドレスより、お待ちしております。ホームページからも閲覧できます。

<https://www.facebook.com/okinawayakuren/>

通常国会閉会

6月23日、第213回通常国会が閉会しました。

今国会では元日の能登半島地震の復旧・復興支援、次の大規模災害を見据えた体制づくりに関して活発な審議が行われたほか、物価対策・賃上げ対応、そして政治資金問題などが争点でした。

会期中、文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官でしたので、所属委員会での質疑の機会はありませんでしたが、政府答弁は衆参あわせて計9回行いました。また、公務として文部科学省関連の施設への視察をできるだけ行い、予算の執行状況や組織運営・事業活動に関する諸課題等を本省に持ち帰り、今後の施策の企画立案に生かしています。

自民党の厚生労働部会では、令和6年度の「3報酬改定」と「薬価改定」の方向性が決着した直後の1月の段階から、令和7年度に控える薬価中間年改定の取扱いを部会の最優先事項にするよう発言するとともに、紅麹使用食品の問題が生じた後の4月には、食品の安全と国民の健康を断固守ることに加えて、風評被害を生じさせないための情報発信の必要性を訴えました。

そして6月、政権の重要課題や次年度予算や税制改正などの足がかりとなる「骨太の方針2024」の政府原案に対して、薬局DX推進、中間年改定、費用対効果評価、抗菌薬等の産学官連携での開発についての修正を求めました。

その後の政調全体会議および閣議決定された文書に意見の全てを反映できたわけではありませんが、関係者の皆様の声と私自身の政策に少しは近づけることができたと思います。

参議院議員として丸五年が過ぎました。薬剤師、薬業界及び薬学を取り巻く情勢が依然厳しくかつ今後も大きく変化・進化していく中、未来に進むには歴史を知ること大切だと思います。

「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」(オットー・フォン・ビスマルク元独首相)

偉人の言葉を自身に言い聞かせながら、国会閉会中も一つひとつ真摯に対応する毎日ですが、これからもよろしくお願い申し上げます。



令和6年6月21日 参議院「資源エネルギー・持続可能社会に関する調査会」の散会后、神谷政幸議員とともに

お知らせ

沖縄県薬剤師連盟のSNSアカウントを開設いたしました！

沖縄県薬剤師連盟のInstagramアカウントを開設いたしましたので、当連盟の活動をご覧のうえ、ぜひ、いいね、シェアをお願いいたします。たくさんのフォローをお待ちしております。



薬連だより

政幸だより

医薬品供給問題について厚生労働委員会で質問しました

参議院議員・薬剤師
神谷 政幸



令和6年4月4日の厚生労働委員会で質問に立ちました。本年4月1日より、製造販売業者は6カ月以内に医薬品の供給不安が生じるおそれが判明した場合、厚労省に供給不安報告を行うこととなりました。この情報をもとに、同じく4月1日から厚労省のホームページに、医療用医薬品供給状況が掲載されています。供給に関する情報が事前にあれば、薬剤師は事前に用意可能な代替品を検討することが可能になります。代替処方を提案するなどして、処方医と連携をとり、患者さんが薬を手にすることが出来る環境を作ることが重要であり、効果的と考えます。さらに、同種同効薬の検索機能が充実すれば、前述のようなやり取りがしやすくなることが期待されます。

これら情報の効果的な集約や提供方法について厚労省に質したところ、令和5年度補正予算事業において、薬局や医療機関などの関係者がより利用しやすい形で報告できる方法と、見やすい形で見る事ができるシステム

化に向けた検討を開始したとの回答がありました。昨年4月25日の厚生労働委員会において、医薬品供給情報が随時反映されるような仕組みを要望したことを受けての厚労省の対応に感謝の言葉を述べると共に、説明のあった調査研究事業は補正予算による事業であることから、来年度も予算化し、さらに使い勝手のよい方法を検討するよう要望しました。

その後、5月14日の厚生労働委員会で質問に立ち、後発医薬品の安定供給等の実現に向けた産業構造のあり方に関する検討会の進捗について質した上で、安定供給確保については法制度にしっかりと位置付けるべきとの意見を述べました。

医薬品の供給問題には薬価、産業構造、感染症の流行など様々な要因が絡み合っており、問題解決には時間がかかる可能性もありますが、政府や関係者と情報交換を行い、問題解決に向けてしっかりと対応して参ります。

YouTube

令和6年4月4日
厚生労働委員会



YouTube

令和6年5月14日
厚生労働委員会



骨太の方針2024について

骨太の方針2024（経済財政運営と改革の基本方針2024）は、令和6年6月11日に開催された第8回経済財政諮問会議で原案が示されました。これを受けて自民党では6月12日の8時から厚生労働部会が開催され、私と本田顕子先生は、四大臣合意が行われた平成28年はデフレ下であり、医薬品の供給不足や物価高騰等、当時と状況が異なっていることを強く訴え、中間年改定については、廃止若しくは見直しを行うべきと主張しました。さらに、電子カルテの導入や電子カルテ情報の標準化に加えて、薬局における電子調剤録（服薬情報）の導入や当該情報の標準化の追記を求めました。

同日15時から開催された政調全体会議において、大串正樹厚労部会長から、中間年改定の廃止等に加えて、医療DXの記載箇所に薬局が抜けていることを指摘のうえ、調剤録等薬局のDX化の追記を求めていただきました。

6月17日の政調全体会議で示された修正案には「2025年度薬価改定に関しては、物価上昇などを取り巻く環境の変化を踏まえ、その在り方について検討する」という文言と、「調剤録等の薬局情報のDX・標準化の検討を進める」という記述が追記されました。同会議において、私から改めて中間年改定の廃止を求めると共に、医薬品の供給問題については早期に解決する旨が欠落していることを指摘し、文言の追加を求めたところ、6月21日に閣議決定された骨太の方針2024に「足下の医薬品の供給不安解消に取り組む」の文言が追記されました。

本田顕子先生は文科省の政務官を務めておられますので、厚労部会では発言できません。政調全体会議で政務三役は発言できません。今回の対応で、薬剤師議員が2人いることの重要性を改めて認識しました。これからも本田顕子先生と共に頑張って参ります。

沖縄県薬剤師連盟

令和6年5月

- 2木○令和6年度第1回沖縄県薬剤師連盟総務会 県薬研修室
- 16木○**本田あきこ中央後援会全国支部訪問** 中部地域保険薬局・中部地区薬剤師会、青年部会
原口亨日本薬剤師連盟副会長、前濱会長、阿部専務理事、事務局：大城事務局長・比嘉
- 17金○**本田あきこ中央後援会全国支部訪問** 中部・南部・那覇地域保険薬局・卸会社・那覇地区薬剤師会理事会代議員意見交換会 原口亨日本薬剤師連盟副会長、知名組織強化担当、事務局：大城事務局長・長嶺主任
- 18土○**本田あきこ中央後援会全国支部訪問** 那覇・南部地域保険薬局・病院薬剤師部会・女性薬剤師部会 原口亨日本薬剤師連盟副会長、前濱会長、阿部専務理事、事務局：大城事務局長・平安山
- 30木○日本薬剤師連盟令和6年度第1回全国会長・幹事長拡大会議都道府県薬剤師連盟会長会
AP日本橋 前濱会長、石川幹事長
- 30木○本田あきこ中央後援会和6年度第1回役員会 AP日本橋 前濱会長、石川幹事長
- 30木○国民の命と生活を守る武道館1万人大会 日本武道館 前濱会長、石川幹事長

令和6年6月

- 2日○くろしまあらた決起大会 糸満市西崎1丁目集会場 小山明俊日本薬剤師連盟常任総務、前濱会長、川満副会長、石川幹事長、阿部常任総務、与儀総務、大城事務局長
- 3月○自由民主党沖縄県支部連合会 沖縄県議会議員選挙対策会議 パシフィックホテル沖縄前濱会長
- 15土○2024年度日本女性薬剤師連盟役員会総会 フロントプレイス クオールアカデミー研修センター（東京） 草壁女性薬剤師部会長、与儀総務
- 16日○**沖縄県薬剤師連盟定時評議員会** 県薬ホール
- 26水○第7回元気会 中小企業振興会館 前濱会長

転載記事

沖縄タイムス 令和6年7月5日（金）

論壇

薬物きっぱり断る勇気を

「国際麻薬乱用撲滅デー」は、国連が1987（昭和62）年に開催した「国際麻薬会議」の終了日であった6月26日を、各国が薬物乱用防止と不正取引防止を普及する日として定めた。

薬物乱用問題は、全世界的な広がりを見せ、人間の生命はもとより、社会や国の安定を脅かすなど、人類が抱える最も深刻な社会問題の一つとなっています。

麻薬、覚醒剤、大麻、危険ドラッグなどの薬物を乱用すると、自



前濱朋子

深刻化する麻薬乱用

分の意思ではやめることが極めて難しくなり、自分の心や体を損なうばかりでなく、家族や地域社会など本人の周辺へも悪い影響を及ぼすことから、薬物の乱用を未然に防止する活動や、不幸にして乱用に陥った方々に対して、社会復帰に向けた効果的な支援を講じていく活動は、社会全体で取り組まなければならない重要なことです。

わが国では、現在、大麻の薬物乱用が深刻な社会問題となっており「大麻乱用期の渦中」にあるといわれ、SNSなどでは、一部の外国で「大麻が合法化しているから安全」といった誤った情報や、大麻の密売を持ちかけるような投

稿も多くあります。

しかし、大麻は決して安全ではなく脳に影響を及ぼすものであり、若年期からの大麻使用が乱用と依存の危険性を高めることが懸念されています。また、大麻グミなどの危険ドラッグや、市販薬の過剰摂取による薬物乱用についても社会問題となっており、薬物乱用の多様化および低年齢化も懸念されています。

薬物から自分の身を守るためには「薬物に対しての正しい知識」と「きっぱり断る勇気」が大切です。わが国では、93（平成5）年から厚生労働省、都道府県および（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センターが、6月20日から7月19

日までの1カ月間を「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の実施期間としており、国民一人一人の薬物乱用問題に関する認識を高めるため、正しい知識の普及、広報啓発活動を毎年行っています。

私たち、関係24団体から成る県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会は「ダメ。ゼッタイ。」普及運動やシンク街頭キャンペーンを県内各地で開催し、5日に宮古地区で予定しています。

県民の皆さま一人一人が、薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、薬物乱用防止の輪を大きく広げていただき、共に薬物乱用のない社会をつくっていくためにご協力をお願いします。

（那覇市、県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会副委員長、一般社団法人県薬剤師会長、59歳）

2024・7・5 沖縄タイムス

※発行元が記事の利用・編集を許諾しています。

転載記事

琉球新報 令和6年6月26日（水）

薬剤師確保で連携 県と昭和薬科大が協定

県と昭和薬科大学（東京都町田市）は、地域に貢献できる薬剤師などの育成・確保について連携協定を結び、締結式が25日、県庁で開かれた。

式には、同大学の渡部一宏理事長や宇都口直樹学長らが参加。玉城デニー知事と渡部理事長が協定書に署名した。

協力する内容は、同大学の学生が県内に就職するための支援、薬剤師に関心がある県内の小中学生や高校生の大学への就学支援など。

同大学は今年から指定校推薦高校を県内で12校に拡充し、浦添市の付属高校・



昭和薬科大学の渡部一宏理事長（左）と玉城デニー知事（右）25日午後、県庁

中学校を大学入試の試験会場に追加する。渡部理事長は「地域枠制度や独自の奨学金制度も検討する」と述べた。

玉城知事は「IターンやUターンを増やして薬剤師を確保すると共に、沖縄での創業や、長寿県沖縄の復活にもつなげたい」と協定の成果に期待した。沖縄県は人口10万人当たりの薬剤師数が165.9人（2024年）で、都道府県別では全国最下位が続いている。（宮沢之祐）

沖縄タイムス 令和6年6月28日（金）

薬剤師の育成へ連携協定

県と昭和薬科大 県内就職支援も

人口10万人当たりの薬剤師数が全国ワーストが続いていることを受け、県と昭和薬科大学（東京）は25日、薬剤師の育成や確保に関する連携協定を結んだ。同大の学生や卒業生に対し県内就職を支援する他、薬剤師を志す県内小中高生を育成する。（社会部・下里潤）

具体的には、沖縄へのUターンやIターン就職支援ガイダンス、県内病院などへの個別就職説明会などを強化。県内公立高への指定校推薦枠を拡充して同大薬学部への入学を促す他、地域枠制度や独自の奨学金制度も検討する。浦添市の付属中高校で「子ども薬剤師体験」などのイベントも開き、小

学生らに薬剤師を身近に感じてもらいたい考えた。

玉城デニー知事は「県内の薬剤師は慢性的に不足しており、協定で地域に貢献できる人材を育成したい。長寿復活にも大きな力になる」とあいさつ。同大の渡部一宏理事長も「県と協力して地域課題の解決に努めたい」と述べ



薬剤師の育成などに関する協定書を交わす玉城デニー知事（右）と昭和薬科大の渡部一宏理事長＝25日、県庁

た。県は県内国公立大学への薬学部設置も目指しており、琉球大学と協議を続けている。

※発行元が記事の利用・編集を許諾しています。

2024年6月26日水曜日

PHARMACY NEWSBREAK 2635号



薬局・薬剤師のためのニュースメディア

© 2024じほう

HARMACY NEWSBREAK

株式会社 じほう

弊社の許諾なしに、転送・転載、複写その他の複製、翻訳、およびデータの使用は固くお断りいたします

昭和薬科大、沖縄で地方入試へ

県と協定、薬剤師の「育成・確保」で

昭和薬科大（東京都町田市）は2025年度入試から、沖縄県浦添市の付属高校・中学で地方入学試験を実施する。25日に沖縄県と結んだ「薬剤師等の育成・確保連携協定」に基づく具体策の一つで、「地域枠」制度の検討も始める。

協定に基づく連携・協力事項は、▽沖縄県内への薬剤師等の就職支援▽薬学や薬剤師に興味のある沖縄県の小中高生の大学就学支援▽教育、研究および社会貢献一の主に3点。この日、沖縄県庁であった締結式で、玉城デニー知事と同大の渡部一宏理事長が署名した協定書を交わした。

県によると、同大はこれまでも沖縄県へのU・Iターンの就職ガイダンスを開催するなど県内就職を支援してきた。今後は協定に基づいて、浦添市の付属校を活用した地方入学試験や、沖縄県内の病院・薬局による個別就職説明会の開催に取り組む。地域枠制度や独自の奨学金制度の創設に向けた検討も進める。

[許諾番号20240704_01]

※株式会社じほうが記事利用を許諾しています。

お知らせ

保険薬局におけるBCP（業務継続計画）の策定について

保険薬局が感染症や自然災害等が発生した場合であっても、患者に対して必要なサービスが安定的・継続的に提供できるよう、①新型インフルエンザ等発生時における業務継続計画、②災害時の薬局業務継続計画等を作成いたしました。

本会ホームページに掲載されておりますので、各保険薬局の状態に応じてご作成ください。

災害対策委員会

【掲載先】 沖縄県薬剤師会ホームページ > 会員ページ > 災害対策関連

令和6年5月

- 2木○協会けんぽ沖縄支部来訪 県薬研修室 長嶺主任
- 7火○令和6年度第2回業務執行理事会 県薬会議室
- 8水○沖縄県国民健康保険課来訪（令和6年度適正服薬等推進事業打合せ） 県薬会議室 阿部専務理事、吉田理事、事務局：長嶺主任・松堂
- 9木○令和5年度監事監査 県薬研修室 江夏監事、山里監事、前濱会長、川満副会長、阿部専務理事、事務局：大城事務局長・玉寄課長・上原主任・荒殿
- 10金○沖縄市市民健康課来訪（沖縄市健康食育推進会議の説明） 県薬会議室 阿部専務理事、知名常務理事、新垣学校薬剤師部会長、事務局：平安山
- 10金○令和6年度第1回沖縄県がん診療連携協議会 琉球大学 前濱会長
- 10金○令和6年度第Ⅱ期実務実習受入薬局指導薬剤師事前説明会 県薬研修室・Web 薬学生実務実習受入委員会：佐藤常務理事、仲真委員、宮本委員
- 11土○令和6年度第2回理事会 県薬研修室
- 14火○令和6年春の叙勲勲章伝達式 ホテルニューオータニ 受章：渡嘉敷見氏
- 14火○ダメ。ゼッタイ。普及運動実行委員会 沖縄県教職員共済会館八汐荘 前濱会長
- 14火○令和6年度薬物乱用防止協会役員会・支部長会 沖縄県教職員共済会館八汐荘 前濱会長
- 15水○社会保険診療報酬支払基金令和6年5月審査運営協議会沖縄審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 宮城常務理事
- 16木○新規個別指導 那覇第一地方合同庁舎 宮城常務理事
- 16木○令和6年度事業所で取り組む禁煙サポート事業説明会 県薬研修室・Web 長嶺主任
- 20月○令和6年度那覇市政功労者表彰式 パレット市民劇場 受賞：山里美恵子氏
- 20月○令和6年度第1回広報委員会 県薬会議室
- 21火○令和6年度第Ⅱ期実務実習オリエンテーション 県薬ホール・Web 薬学生実務実習受入委員会：宮城常務理事、兼城崇委員
- 23木○令和6年度第1回災害対策委員会 県薬研修室
- 27月○令和6年度第1回学術研修委員会 県薬研修室
- 28火○令和6年第1回地域医療提供体制対策委員会 県薬研修室
- 29水○令和6年度第1回薬と健康の週間打ち合わせ 県薬会議室 沖縄県薬務生活衛生課：中村薬務専門監、泉水主幹、池原氏、薬剤師会：阿部専務理事・大城事務局長・長嶺主任
- 29水○日本薬剤師会令和6年度第1回都道府県会長協議会 日本薬剤師会 前濱会長
- 29水○令和6年度第1回医療保険委員会 県薬研修室
- 30木○2024年度第1回地域医療支援病院運営委員会 友愛医療センター 阿部専務理事
- 31金○薬局実務実習受入調整機関評議員会 福岡県薬剤師会館 前濱会長
- 31金○令和6年度第1回九州山口各県薬代表者会議 福岡県薬剤師会館 前濱会長、川満副会長
- 31金○九州ブロック日本薬剤師会代議員予備会議 福岡県薬剤師会館 前濱会長、川満副会長
- 31金○令和6年度第1回保健福祉員会 県薬会議室

令和6年6月

- 1土○公益財団法人対馬丸記念会祈念事業シンポジウム 沖縄県立博物館・美術館 前濱会長
- 1土○令和6年度第1回沖縄県認知症疾患医療連携協議会 WEB 保健・福祉委員会：中尾委員
- 2日○令和6年度女性薬剤師部会総会・研修会 県薬研修室

- 3月○令和6年度第1回なごみ会主催県民健康フェア実行委員会 沖縄県医師会館 保健・福祉委員会：松本委員、事務局：長嶺主任
- 3月○令和6年度第3回業務執行理事会 県薬会議室
- 5水○**県内国公立大学への薬学部設置を含めた薬剤師確保対策に関する意見交換会** 県薬研修室 田名毅沖縄県医師会副会長、石嶺伝一郎沖縄県商工会議所連合会会長、西田睦琉球大学学長、沖縄県薬務生活衛生課：中村薬務専門監、泉水主幹、前濱会長、阿部専務理事、大城事務局長
- 5水○全国介護事業者連盟沖縄県支部令和6年度会員総会 オリオンホテル那覇 中村副会長
- 5水○令和6年度沖縄県国保ヘルスアップ支援事業事前会議 県薬会議室 阿部専務理事、喜友名常務理事、薬事情報委員会：吉田理事、中尾委員長、事務局：長嶺主任・松堂
- 6木○ろう者を対象とした薬剤師によるお薬講座の事前打ち合わせ 県薬会議室 阿部専務理事、吉田理事
- 6木○第45回浦添市学校保健会定期総会及び研究部研修会・表彰式 浦添市中央公民館 学校薬剤師部会：笠原大吾氏
- 6木○沖縄県薬業連合会第69回理事会・総会・懇親会 ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城 前濱会長、中村副会長、川満副会長、阿部専務理事、事務局：大城事務局長・玉寄課長
- 6木○令和6年度第1回薬学生実務実習受入委員会 県薬研修室・WEB
- 8土○公益社団法人沖縄県理学療法士協会創立50周年記念式典・祝賀会 ロワジールホテル那覇 前濱会長
- 8土○令和6年度第3回理事会 県薬研修室
- 10月○緊急避妊薬販売に係る環境整備のためのモデル的調査研究に関する説明会 県薬会議室 又吉理事、長嶺主任
- 12水○社会保険診療報酬支払基金令和6年6月審査運営協議会沖縄審査委員会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 宮城常務理事
- 12水○令和6年度第1回青年部会役員会 県薬会議室
- 13木○**第192回健康とおくすり相談会** 琉球新報社
- 13木○沖縄経済同友会訪問（琉球大学への薬学部設置に係る国への要請の協力依頼と要請内容の説明） 沖縄経済同友会 阿部専務理事、大城事務局長
- 13木○令和6年度調剤報酬に係る社保・国保打ち合わせ 県薬会議室 長嶺主任
- 14金○沖縄県商工会連合会訪問（琉球大学への薬学部設置に係る国への要請の協力依頼と要請内容の説明） 沖縄県商工会 阿部専務理事、大城事務局長
- 14金○沖縄県商工会議所連合会訪問（琉球大学への薬学部設置に係る国への要請の協力依頼と要請内容の説明） 那覇商工会議所 阿部専務理事、大城事務局長
- 14金○沖縄県薬物乱用防止協会令和5年度会計監査 沖縄県保健医療介護部薬務生活衛生課 阿部専務理事
- 16日○**沖縄県薬剤師会第90回定時総会**
- 17月○沖縄県経営者協会訪問（琉球大学への薬学部設置に係る国への要請の協力依頼と要請内容の説明） 沖縄県経営者協会 阿部専務理事、大城事務局長
- 18火○沖縄県中小企業団体中央会訪問（琉球大学への薬学部設置に係る国への要請の協力依頼と要請内容の説明） 沖縄県中小企業団体中央会 阿部専務理事、大城事務局長
- 18火○沖縄こどもの未来県民会議令和6年度総会 沖縄県市町村自治会館 前濱会長

- 19水○おきなわアジェンダ21県民会議通常総会・環境講演会 沖縄県教職員共済会館八汐荘 阿部専務理事
- 19水○薬局情報収集システム説明会 県薬会議室 事務局：長嶺主任・金城・比嘉
- 21金○薬学生実務実習「夜間救急医療について」Ⅱ期1回目 会営薬局医療センター前 講師：阿部専務理事
- 23日○**沖縄戦殉職医療人の碑へ慰霊** ひめゆりの塔構内 神村相談役、前濱会長、川満副会長、古謝副会長、村田理事、吉田洋史那覇地区薬剤師会会長、大城事務局長
- 24月○「先輩教えて！ワクワク実務実習のツボとコツ」Ⅱ期1回目 県薬ホール 講師：平井聖司（薬剤師・琉球大学医学部生）
- 24月○沖縄県老人クラブ連合会令和6年度「健康づくり支援事業」第1回推進委員会 沖縄県総合福祉センター 村田理事
- 24月○ネクスウェイ薬局情報収集システム（アスヤク薬局ポータル）オンライン説明会 県薬会議室・Web 事務局：長嶺主任・金城・比嘉
- 24月○令和6年度第1回表彰選考委員会 県薬会議室
- 25火○ネクスウェイ薬局情報収集システム（アスヤク薬局ポータル）オンライン面談 県薬会議室・Web 事務局：長嶺主任・比嘉
- 27木○令和6年度沖縄県薬物乱用防止協会第1回理事総会 沖縄県教職員共済会館八汐荘 前濱会長、吉田洋史那覇地区薬剤師会会長、学校薬剤師部会：吉田久子氏
- 28金○**自見英子沖縄及び北方対策担当大臣へ琉球大学への薬学部の設置について要請** 内閣大臣室 前濱会長、川満副会長、阿部専務理事、大城事務局長
- 29土○日本薬剤師会第104回定時総会（30日まで）ホテルイースト21東京 前濱会長、川満副会長

会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について

会員及び一親等の親族のご不幸は、沖縄県薬剤師会へ御一報下さい。
（香典・生花等の手配があります）

※各地区、各支部及び、友人、知人の方、御一報よろしくお願いします。

【連絡先】沖縄県薬剤師会事務局（玉寄・大城）：098-963-8930

お知らせ

～沖縄県で就職を考えている薬剤師の皆様へ～

奨学金の返還を

最大
72万円
(※2年間沖縄県で
就業した場合)

助成します!

奨学金返還助成制度

令和6年度対象者募集

募集期間:令和6年6月1日(土)～令和6年8月31日(土)

募集定員20名程度 (北部・中部・南部地区で各5名程、宮古・八重山地区で計5名程)

対象者: 次の(1)～(5)の全ての要件を満たす方を対象とします。

(1) 次の(ア)～(ウ)の全てに該当している者であること。

詳しくは
こちらへ



(ア) 薬剤師免許を有している者であること。

(イ) 県内に住所を有している者であること(助成対象年度に、薬剤師名簿に登録された者に限る。)又は、令和6年3月1日において県外に住所を有し、令和6年8月31日までに県内に転入し、県内に住所を有していること。

(ウ) 令和6年8月31日までに、沖縄県内の薬局又は病院で就業している者であること。

(2) 奨学金の貸与を受けていた者で、自ら奨学金を返還中であるか又は返還を開始する予定の者であること。※予定の者は、令和6年度中に奨学金の返還を開始することが必要となる。

(3) 奨学金の返還残額がある者であること。

(4) 奨学金の返還を滞納していない者であること。

(5) 一定の県内就業を助成要件とするその他の公的な返還助成制度を受けていない者であること。



よみがえれ!首里城

お問合せ・書類提出先

一般社団法人 沖縄県薬剤師会 〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10

TEL.098-963-8930 / FAX.098-963-8932

沖縄県薬剤師会



お知らせ

入会促進 キャンペーン

今なら
入会金無料!
年会費半額!

○ 対象者

- ① 沖縄県病院薬剤師会会員の方
- ② 40才以下の方
(※入会年度、4月1日時点)

○ 特典

- ① 入会金免除
- ② 年会費を50%減額
(年会費減額は、40才になるまで)

※5年間入会継続が条件です

○ 申し込みは 沖縄県薬剤師会

☎ 098-963-8930 事務局まで



一般社団法人 沖縄県薬剤師会



誌上ギャラリー（裏表紙）について

右上：「コーヒーの花」photo by 盛本 直也（ヴァインドラッグあがり浜薬局）

撮影地：今帰仁 花言葉：一緒に休みましょう

左上：「恐竜の気配」photo by 伊集 智英（くはら薬局）

撮影地：DINO恐竜PARKやんばる亜熱帯の森 恐竜を探しに行きました。

左下：「音猫」photo by 潮平 英郎（琉球大学病院 薬剤部） 撮影地：那覇市首里金城町の石畳

右下：「サガリバナ」photo by 喜屋武 芳美（櫛薬正堂） 撮影地：友人宅 2015年に撮影

編

集

後

記

那覇の三大饅頭を知っていますか？

「山城（やまぐすく）まんじゅう」「のまんじゅう（儀保まんじゅう）」「天妃前（てんぴぬめー）まんじゅう」の三つ。100年以上前から今なお受け継がれています。天妃前まんじゅうを作るペーちゃん屋は私の実家近くにあり、幼いころから馴染み深く大好きな饅頭です。小豆あんではなく「はったい粉」が包まれており、ぷるぷるした食感が特徴的です。どれも月桃の葉に包まれているのが沖縄ならでは、ですね。身近にありすぎて気に留めなかった三大饅頭ですが、それぞれの歴史を知るとなお味わい深いものです。ケーキよりも饅頭など和菓子を好むのは・・・歳を重ねたせいかしら。（クララ）

7月に入り、日差しがとても強く、梅雨の雨が嘘みたいにか快晴が続いていますね。少し外に出るだけで汗だくになり、外出を控えている人も多いようです。私にとって夏は苦手で、蒸し暑い日には何もやる気が起きません。そんな酷暑の中、引っ越しの準備をしていましたが、なんとそこでエアコンが壊れてしまったというまさかのアクシデントが起きました。バテそうになる瞬間もありましたが、気合と根性で何とか乗り越えました。エアコンの故障と引っ越しを乗り越えた達成感はひとしおでした。新居では、新しいエアコンが心地よい涼風をもたらしてくれます。エアコンのありがたさを身にしみて感じた引っ越しでした。（チャゲ）

新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが5類に移行されて1年経つ。コロナ感染は速やかに収束するのではないかと思っていたがとんでもなかった。最新の「定点把握」のデータ発表によると7月1日～7月8日までの1週間、沖縄県はコロナ感染がダントツの全国1位、インフルエンザも全国1位、RSウイルスは全国2位の感染率とのこと。日頃の業務の中で確かに納得の数字である。身近にコロナ感染者も出て戦々恐々である。しかもそれに加えて医薬品の供給が不安定になっていて、小規模経営の薬局では日々の業務を圧迫している。特にこの時期の咳止め・去痰剤・一部の抗生剤の不足、さらには多数の後発医薬品の不足は大きなストレスになっている。医療機関に対して「現在この薬は在庫なし」と簡単に伝えられれば良いが種々の事由で、うまくいかないときのストレスはマックスになる。ただ、患者さんがメーカーの変更を含め、薬の変更に対して以前に比べて寛容になっているのが大きな救いになっている。（ピアナ）

会報原稿募集のご案内

広報委員会

おきなわ薬剤師会報は皆様の会報です。
広報委員会では、会員の皆様からの原稿や作品を多方面にわたり募集致します。活発な御投稿をお待ち致しておりますので、是非、御協力下さいませようお願い致します。

【会報表紙及びカット写真】

写真にタイトルを付けて奮ってご応募願います。写真の採否、掲載月については広報委員会に一任頂きますのでご了承下さい。表紙写真はカラー、カットについては白黒印刷となります。

【会員からの意見箱】

皆様の質問、意見、主張を掲載します（薬剤師会活動や社会に対する本音など何でも結構です）。日常業務の中での疑問、薬剤師会活動、賠償責任保険、医薬分業、一般薬販売等について質問を受け付けます。

- ・誌上匿名は可能です。
- ・回答者を指名されても結構です。

【寄稿コーナー】

勤務薬剤師としての立場から見られた日常業務、過去、現在の職場に対する長短所・要望等。若い先生方からの御意見、御投稿をお待ちしております。

同時にベテランの先生方からの店舗経営に関する事、開業顛末記等、今後の進路を決める若い先生方へのアドバイス等についても募集します。

【会員作品・趣味のコーナー】

会員からの作品・趣味等を随時募集しております（手記、随筆、紀行文、詩、短歌、俳句、川柳、写真、絵画、毛筆等の作品、スポーツ同好会や趣味の集い等の紹介や活動状況報告など何でも歓迎します）。



☆原稿送付先（会報に関する問い合わせ）

沖縄県薬剤師会事務局 川平まで 〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川 218-10
TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 e-mail: kawahira@okiyaku.or.jp

沖縄県薬剤師会

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10 <http://www.okiyaku.or.jp> e-mail: kawahira@okiyaku.or.jp
■事務局 TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 **■薬事情報センター** TEL 098-963-8931 FAX 098-963-8937
■会営薬局医療センター前 TEL 098-963-8940 FAX 098-963-8946 **■試験検査センター** TEL 098-963-8934 FAX 098-963-8932
■会営薬局うえはら 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原1-26-1 TEL 098-946-1185 FAX 098-944-0567
■会営薬局とよみ 〒901-0244 沖縄県豊見城市字宜保271-1 TEL 098-856-4160 FAX 098-856-6026

おきなわ薬剤師会報 第323号 令和6年7月27日発行

◇次号は、令和6年10月下旬発行予定です。

発行人：沖縄県薬剤師会 会長 前濱朋子

編集：広報委員会 委員長／宮城敦子 委員／池間記世・運天芳生・宮本直樹

久米島通信員／山城晶 宮古地区通信員／前里由紀子

八重山地区通信員／波多江直也 事務局／大城喜仁・川平真央

印刷：株式会社 東洋企画印刷

誌上ギャラリー
(会員作品)
お気軽にご投稿下さい。

